

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

科学大病総第18号
令和 7 年 10 月 3 日
開設者名 大竹尚登

東京科学大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1
氏名	国立大学法人 東京科学大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東京科学大学病院

3 所在の場所

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
電話(03)3813-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、リウマチ科については、合同内科において診療を行っている。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
乳腺外科、消化器外科については、合同外科において診療を行っている。 小児外科については、小児科において診療を行っている。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	内科	2	外科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6	脳神経内科	7	歯科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	0	0	0	772	813

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	327	371.1	688.7	看護補助者	51	診療エックス線技師	0
歯科医師	117	149.2	266.4	理学療法士	38	臨床検査技師	105
薬剤師	81	1.5	81.6	作業療法士	12	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	8	その他	0
助産師	37	0	32.6	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1,099	14.9	1,050	臨床工学士	43	医療社会事業従事者	11
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	87
歯科衛生士	43	1.5	42.6	歯科技工士	27	事務職員	327
管理栄養士	13	0.7	13.7	診療放射線技師	76	その他の職員	16

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	73	眼科専門医	4
外科専門医	40	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	12	放射線科専門医	6
小児科専門医	32	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	2	整形外科専門医	34
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	14
産婦人科専門医	20	救急科専門医	11
		合計	280

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (藤井 靖久) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

R2.4.1から病院長就任前のR5.3.31までは医療安全担当の副病院長として医療安全管理委員会への出席や、レベル3b以上の事例及び死亡退院事例検証会の検証結果の報告を受ける等、院内の医療安全管理に携わり、R5.4.1～ 医療安全管理委員会委員長として関わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	666.97 人	34 人	700.97 人
1日当たり平均外来患者数	2,068.64 人	1,346.75 人	3,415.39 人
1日当たり平均調剤数	入院:1,077.3 外来:219.6		剤
必要医師数	187		人
必要歯科医師数	5		人

必要薬剤師数	24	人
必要(准)看護師数	465	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	372 m ²	SRC(一部S)	病床数	14 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	210	m ²	病床数	17 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積		41		m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	622 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	検体検査自動分析装置一式、検体検査情報システム一式		
細菌検査室	104 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	同定・感受性分析装置一式、細菌検査情報システム一式		
病理検査室	544 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	病理標本作製システム一式		
病理解剖室	54 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	緩衝ホルマリン作成装置一式、病理解剖撮影システム一式		
研究室	1,037 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	高速液体クロマトグラフィー一式		
講義室	258 m ²	SRC(一部S)	室数	1 室	収容定員	173 人
図書室	65 m ²	SRC(一部S)	室数	2 室	蔵書数	2,300 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.13	%	逆紹介率	53.08	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		16,260 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,881 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,020 人		
	D: 初診の患者の数		22,384 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
中島 勸	虎の門病院 医療安全部 部長	○	虎の門病院医療安全部 長として、医療安全に 対し豊富な経験と知識 を有している。	無	1
児玉 安司	新星総合法律事務所 弁護士国立がん研究セ ンター 理事医師		医療安全の問題に取り 組むなど、医学及び法 学の立場から幅広い視 野視点を有し、医療安 全に関し精通している。	無	1
豊田 郁子	NPO法人 架け橋 理事 長		患者・家族と医療 をつなぐ NPO 法人 架 け橋理事長として、患 者・家族と医療従事者 のより良い関係の促進 やコミュニケーシ ョンに 関する豊富な知見を有 している。	無	2
岡田 就将	本学政策科学分野 教授 本学寄附講座 東京都 地域医療政策学講座寄 附講座教授		日本における保険医療 政策に対し豊富な経験 と知識を有している。	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本学及び本院のHPに掲載。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断	9人
細菌は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断	10人
多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	1人
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	31人
子宮内膜受容能検査1	2人
子宮内細菌叢検査1	1人
子宮内膜擦過術	0人
ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	54人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のアスピリン経口投与療法	1人
テモゾロミド用量強化療法	0人
S-1内服投与並びにバクリタキセル静脈内及び腹腔内の併用療法	0人
アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法	1人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	4
取り扱い患者数の合計(人)	2人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 造血器腫瘍、難治性造血器疾患に対する同種造血幹細胞移植治療			
医療技術名	CAR-T療法(キメラ抗原受容体発現T細胞療法)	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 患者自身のTリンパ球を用いて、腫瘍細胞の表面の抗原(CD19)を認識するキメラ抗原受容体を発現させ改変する技術。難治性急性リンパ性白血病またはびまん性大細胞型B細胞リンパ腫、多発性骨髄腫などに対する免疫療法の一つ。			
医療技術名	治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬が無効の難治性病態であり、世界各国の最新知見に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性のSLE、皮膚筋炎/多発性筋炎、成人発症スル病、血管炎症候群、全身性強皮症に対するミコフェノール酸モフェチルの使用	取扱患者数	29
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、世界各国より発出されている本剤の有効性を示唆する学術報告に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の全身性エリテマトーデスに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、当該薬は有効性が世界で評価されているものの開発が困難な状況が確認されているため、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の関節リウマチに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬での治療困難な難治性病態であり、当該薬は世界的には公知の治療薬であるいっぽう本邦では開発要望に対して現時点では承認見込みが立っていないことから、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性、難治性の炎症性筋疾患(多発性筋炎、皮膚筋炎)に対するトファシニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効の難治性病態であり、世界各国の最新知見に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安静脈炎に対するインフリキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
扱い患者数の合計(人)	65

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ペーチェット病に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性、難治性の炎症性筋疾患に対するアバタセプトの使用	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安静脈炎に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性のIgG4関連疾患に対するミコフェノール酸モフェチルの使用	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の家族性地中海熱に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性の石灰沈着症に対するトファシニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	ステロイド及び免疫抑制剤に治療抵抗性の好酸球性多発血管炎性肉芽腫に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	エルドハイムチェスター病に対するペガシス(ペグインターフェロン アルファ 2a)の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	14

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	治療抵抗性の乳び胸水、乳び腹水に対するサンドスタチン注の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	A20ハプロ不全症に対するバリシチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性の関節リウマチ関連間質性肺炎に対するミコフェノール酸モフェチル	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性多発性筋炎・皮膚筋炎に対するウステキヌマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性再発性多発軟骨炎に対するゴリムマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性再発性多発軟骨炎に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の家族性地中海熱に対するエタネルセプトの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	家族性血球貪食症候群に対するルキシソリチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	CSII(インスリンポンプ療法)/SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 電動式携帯ポンプにより可変的かつ持続的に皮下にインスリンを注入する治療			
医療技術名	副腎静脈サンプリング	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 左右の副腎静脈より採血してアルドステロン濃度を測定することで、原発性アルドステロン症の責任病変を同定する検査(放射線科と共同で施行)			
医療技術名	難治性内分泌疾患に対する薬物療法	取扱患者数	424
当該医療技術の概要 先端巨大症、プロラクチン産生腫瘍、原発性副甲状腺機能亢進症、クッシング症候群、副腎不全、性腺機能低下などの難治性内分泌疾患に対する専門的な薬物治療			
医療技術名	次世代シーケンスパネルによる網羅的腎臓病遺伝子診断と治療選択の実	取扱患者数	107
当該医療技術の概要 多発性嚢胞腎などのメジャーな遺伝性腎疾患にとどまらず、成人慢性腎臓病(CKD)の原因となる遺伝子変異を網羅的にスクリーニングする腎臓病NGSパネルを臨床運用し、これまでに本学のみならず全国の施設より依頼を受け累積1697件の遺伝子診断を行なった。多くの確定診断に貢献し、また遺伝子型に応じた治療選択法の礎として注目を得ている。			
医療技術名	Fabry病に対する治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 前述の網羅的腎臓病遺伝子診断技術をもとに、先天性希少難病であるFabry病を診断し、治療を実践している。本症は糖質分解酵素のひとつである α -galactosidase A酵素の活性が先天的に低下しており、分解の不十分な糖脂質が全身組織に蓄積し、腎不全、心不全、脳梗塞など多臓器障害が起こる疾患である。当院では2名の患者に対し、点滴による酵素補充療法ならびに経口シヤペロン療法を実施している。			
医療技術名	エキシマレーザーを用いたリード抜去術	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 カテーテルの先端より照射される紫外域パルスエキシマレーザーにより、ペースメーカーや植え込み型除細動器などの癒着したリードの抜去に有効である。リードを含むデバイス感染例が増えており、大学病院を含む多くの医療機関からの紹介件数が増加している。			
医療技術名	心房細動に対するマーシャル静脈へのエタノール注入(化学的アブレーション)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 通常のカテーテルアブレーションでは焼灼が困難な僧帽弁輪峡部へ修飾の有効な手段として、長期持続性心房細動、心房粗動症例に施行されている。			
医療技術名	超高出力短時間焼灼による肺静脈隔離術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 通常の高周波出力(25-30W程度)よりも高出力(90W)で4秒の通電で肺静脈隔離を行うことで、より安全に短時間で心房細動のカテーテルアブレーション治療を行うことができる			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
扱い患者数の合計(人)	627

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	冠動脈レーザー血管形成術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端より照射される紫外域パルスのエキシマレーザーにより冠動脈のアテロームプラーク、石灰等を蒸散させる治療方法。血栓性病変、ステント再狭窄に有効である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT/OFDI)	取扱患者数	196
当該医療技術の概要 近赤外線を用いて冠動脈内膜の詳細を観察する画像診断法。OCT/OFDIを使用することで、冠動脈インターベンション術後の合併症、再狭窄率を低減させている。			
医療技術名	高速回転式冠動脈アテレクトミー	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端よりダイヤモンドチップを埋め込んだバー(ドリル)を高速回転させることにより冠動脈の石灰を切削する治療方法。石灰の強い冠動脈プラークに威力を発揮する。			
医療技術名	方向性冠動脈粥腫切除術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端で冠動脈近位部のプラークを直接切削する治療法。			
医療技術名	アテローム切除アブレーション式血管形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 冠動脈石灰化病変を治療するためのデバイスで、回転するダイヤモンドコーティングの冠を用いて石灰化を削り、血管の拡張を容易にする手技である。これにより、ステント留置や血流改善の成功率が向上する。			
医療技術名	血管内破碎術	取扱患者数	48
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルより衝撃波を出力させることにより冠動脈の石灰化プラークを切削する治療方法。石灰の強い冠動脈プラークに威力を発揮する。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	34
当該医療技術の概要 重症大動脈弁狭窄症に対して、大動脈弁置換術を経カテーテル的に行う手技。全死亡を改善が期待される。低侵襲であり、総大腿動脈からのアプローチで、高齢者に対して特に検討される治療法。			
医療技術名	経カテーテル的僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 左室駆出率の低下した慢性心不全患者に対して、最適薬物療法下でも重症の僧帽弁閉鎖不全症を認める場合に適応となる。QOLの改善や心不全再入院抑制効果が期待される。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
扱い患者数の合計(人)	314

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経皮的左心耳閉鎖術	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 出血リスクおよび塞栓症リスクの高い心房細動に対して、経皮的に左心耳を閉鎖する手術。この治療により抗凝固療法を中止または抗血小板薬への変更を可能にする。			
医療技術名	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)(指定難病79)の診断と治療	取扱患者数	1
家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)は、稀な遺伝性疾患であり、2022年度の特設医療費(指定難病)受給者証保持者数は全国で398例である。当診療科は日本動脈硬化学会が認定する動脈硬化専門医が診療に従事し、専門的医療を提供している。具体的には、遺伝子診断、及び国内でまだ投与実績の少ない、新規治療薬(遺伝子組換えヒトモノクローナル抗体、エビナクマブ)に関し、治験からの先駆的継続的な治療実績を有する。			
医療技術名	MR enterocolonography (MREC)	取扱患者数	300
当該医療技術の概要 前処置および撮影方法の工夫により、一回の検査で小腸および大腸を同時に評価するMR検査。主な適応疾患はクローン病			
医療技術名	シングルバルーン胆道内視鏡(SBERC)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 バルーン内視鏡により、通常の方法では到達が困難な術後などの症例に対し胆道鏡を行う。			
医療技術名	シングルバルーン内視鏡による外来小腸内視鏡検査	取扱患者数	220
当該医療技術の概要 入院せず外来で、経肛門的にシングルバルーン内視鏡を挿入し、低侵襲に小腸を検査する。			
医療技術名	内視鏡的小腸狭窄拡張術	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 深部小腸の狭窄に対し外科的手術を回避し低侵襲に内視鏡的に治療を行う。			
医療技術名	Nudix hydrolase 15 (NUDT15) 遺伝子codon139の遺伝子多型検査	取扱患者数	350
当該医療技術の概要 炎症性腸疾患の治療におけるチオプリン製剤の重篤な副作用の予測に有用なNUDT15(Nudix Hydrolase 15)遺伝子多型を検出することにより、チオプリン製剤による治療選択を補助し、最適な治療法の提供や医療費の適正化に貢献する			
医療技術名	C型肝炎ウイルスの遺伝子解析による薬剤耐性変異検査	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 C型肝炎に対する抗ウイルス療法への耐性を規定するC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	970

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	総合的な非侵襲的肝線維化・脂肪化診断に基づく個別化診療	取扱患者数	1200
当該医療技術の概要 複数の非侵襲的肝線維化診断法・脂肪評価法を駆使した病態リスク評価に基づく個別化医療。			
医療技術名	画像支援システムを駆使した肝癌ラジオ波治療	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 総合画像診断と造影超音波および画像ナビゲーションシステムを駆使した肝癌局所療法。			
医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 同種骨髄、末梢血幹細胞、臍帯血を移植することにより、難治性白血病や、遺伝子異常に起因する先天性免疫不全症の根治治療をする。原発性免疫異常症に対する移植は、白血病に対する移植と異なり、様々な合併症があり難易度の高い移植である。また家族内ドナーからのHLA半合致移植も行っている。また、小児悪性軟部肉腫に対する大量化学療法・自家末梢血幹細胞採取も行っている。			
医療技術名	重症原発性免疫不全症に対するTREC,KREC測定	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 本検査法は、原発性免疫不全症の中でもT細胞、B細胞欠損症に対するスクリーニング検査として、その有効性は非常に高い。現在新生児スクリーニングに向けて、実用化が進められているが、他の免疫異常症に対する免疫能の簡便な検査として、保険適用を目指し開発中であり、免疫異常症患者等で検査を行った。			
医療技術名	マルチカラーフローサイトメーターを用いた原発性免疫異常症、造血細胞移植後などに対するリンパ球解析	取扱患者数	250
当該医療技術の概要 本検査法は、マルチカラーのフローサイトメーターを用いて、少量の血液で、非常に詳細なリンパ球分化について解析可能な方法であり、有効性は非常に高い。免疫異常症および造血細胞移植後の免疫系の再構築の評価のため、多数例の検討を行った。			
医療技術名	肺動脈性肺高血圧症に対する標的治療薬による治療	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 小児肺高血圧症の中でも、肺動脈性肺高血圧症はその大部分を占め予後不良であり難病指定されている。近年、肺高血圧症の新規標的治療薬の開発が進み予後は大幅に改善しているが、エボプロステノールの持続皮下注射の導入や管理、エコーやカテーテル検査による適切な評価と方針の決定などを行える施設は限られている。特に小児の重症肺高血圧症の専門治療を行える施設は非常に少ない。			
医療技術名	先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患の遺伝学的検査を含めた包括的な診断および治療	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患は、多くの細分化された病型があり、その治療法の選択は病型によっても異なる。さらに性分化疾患では正確な病態把握以外に、社会的性決定という特殊かつ高度な医療社会的判断を必要とする。当院では、これらに対し、遺伝学的手法を利用した包括的かつ正確な診断を行い、それに基づいた社会的性決定およびそれらに基づく治療の提供を行っている。			
医療技術名	重症先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注およびランレオチド(ソマトスタチンアナログ徐放性製剤)皮下注を中心とした、包括的治療体制の提供	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 オクトレオチド持続皮下注は重症先天性高インスリン血症に対する有効な治療である反面、その特殊性・高度専門性から治療体制が整備された施設は限定されている。当院では、早期遺伝学的診断および画像診に基づく病型診断や持続血糖モニタリングによる安全な管理を基盤として、インスリンポンプを用いたオクトレオチド持続皮下注治療に加え、新たにランレオチド間欠皮下注による治療提供体制を整備している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	1684

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	性分化疾患における社会的性決定を含めた多職種医療チームによる対応	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 性分化疾患における社会的性決定は、将来的な性自認予後や、泌尿生殖器の解剖学的、機能的見地を含め、多職種のスタッフによる総合的な見地からの議論と決定を必要とし、高度の専門的な医療技術を要する。本疾患は頻度は少ないが、毎年数名の対応をおこなっている。			
医療技術名	小児リウマチ性疾患に対する、標的治療薬による治療	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 リウマチ性疾患および自己炎症性疾患は小児疾患の中でもまれであるが、難病指定されている疾患である。現在使用されている3種類の標的治療薬(抗IL-1抗体、抗IL-6製剤、抗TNF製剤)の静注薬あるいは皮下注製剤を病態に応じて、治療を行っている。従来の治療薬では改善が見込めなかった患者に対して適宜使用することによって、極めて高い寛解を図ることが可能となっている。			
医療技術名	難治性ネフローゼ症候群に対する分子標的薬療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 難治性ネフローゼ症候群は、通常の免疫抑制剤であるシクロスポリンやミゾリビンでは、寛解を維持できない疾患である。このような上記疾患に対して分子標的薬(リツキシマブ)は、近年有効であることが示されたものであるが、顕著なInfusion reactionを呈することや、投与後一定期間Bリンパ球が枯渇することに伴うカリニ肺炎や、発熱性好中球減少性や白質脳炎出現の危険性が伴うため、薬剤の特性を熟慮した医師が、十分な注意をしつつ投与する必要がある。当院では、年4-5例程度であるが、5年以上の期間、この薬剤投与の経験を有しており、安全に投与することが可能である。			
医療技術名	小児に対する急性血液浄化療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 急性血液浄化療法は、急性の機能不全、または慢性機能不全の急性増悪に陥った臓器に対する機能補助、もしくはサイトカインや抗体などの各種成分の除去を目的とした体外循環による治療である。小児ではその特性として、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく危険性が高いこと、そのために1ml単位の細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であること、から高い専門技術を必要とする。			
医療技術名	長時間ビデオ脳波同時記録	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 てんかん治療の進歩(外科治療など)に伴い、てんかん発作型の詳細な解析が重要性を増している。そのための最も標準的な方法はデジタル脳波計を用いて数時間～数日に及ぶ長時間ビデオ脳波同時記録を行うことであるが、小児においては記録・判読共に熟練を要し、施行可能な医療機関は限られている。			
医療技術名	自己免疫性神経疾患に対する血漿交換療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 抗NMDA受容体抗体脳炎、抗アクアポリン4抗体陽性視神経脊髄炎などでは、通常の免疫調整療法に抵抗性の難治例や重症例において、血漿交換療法が有効な場合があるが、小児では治療選択に関して豊富な経験が必要である。また小児は、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であることから高い専門技術を必要とする。			
医療技術名	クロザピンによる治療抵抗性統合失調症患者の治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 従来の抗精神病薬に抵抗する難治性症状のため不安定な状態が続く統合失調症患者に対し、クロザピンによる治療を行う。クロザピンは、治療効果が高い反面、無顆粒球症、心筋障害、耐糖能異常等の副作用を引き起こし重症化し易い問題があるため、所定の講習を得た登録医により、血液内科・循環器内科・糖尿病・内分泌・代謝内科・薬剤部の協力体制が確立している限定された施設でのみ実施が許可されている。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 薬物療法に抵抗する難治性のうつ病、双極性障害、統合失調症、口腔内セネストパチー、器質性精神疾患等を対象として、手術室において麻酔科による全身麻酔の管理のもとで、前頭部に電極を装着し、矩形波出力型のパルス浪通電装置を用い、脳への通電を行う。けいれんを生じさせず、副作用のリスクを低減した方法であり、修正型と呼ばれ、全身麻酔管理のできる施設と医師を要する高度な医療である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	220

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 日本では2018年に診療報酬改定があり、食道癌に対するロボット支援手術が保険収載された。食道癌手術ではロボットを使うことで術後の合併症率を減らす効果がある可能性が報告されており、発声や食物嚥下など術後QOLに関わる重要な機能を温存するのに役立つと期待される。消化管外科学分野全体でロボット支援下手術の導入と症例数増加を図っているところであり、当科も着実に症例数を増やしつつある。			
医療技術名	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（ロボット支援を含む）	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 食道がん根治術における上縦隔郭清を伴う治療では経胸腔操作が必要であったが、縦隔鏡手術では、胸部操作が必要なく、分離肺換気および肺虚脱の必要もないため従来の胸腔鏡手術よりもさらに低侵襲となると予想され、体への負担が軽減される有用な治療法である。			
医療技術名	喉頭温存・頸部食道切除術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 頸部食道癌、中でも咽頭浸潤を伴うものは、一般に喉頭温存が困難であり術後の失声を伴った咽頭・頸部食道切除術が選択されるのが一般的である。当科では喉頭回転法を併用するなど視野展開を工夫しながら可及的に喉頭・反回神経を温存して、QOLを保った頸部食道癌手術を心掛け、他院からも多くの紹介患者が来院している。			
医療技術名	下部食道切除後の胸腔内吻合・回結腸間置再建術（ロボット支援を含む）	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 食道胃接合部癌に対する下部食道切除後の消化管再建は、挙上性や縫合不全などの短期的な問題と、胃食道逆流および体重減少などの中長期的な問題がいずれも問題となる課題の多い手技である。これらを解決しうる再建方法はいまだ存在しないが、本術式はこれらの問題の一部を解決しうる再建方法である。			
医療技術名	表層拡大型食道早期癌に対する段階的内視鏡治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 食道表在癌のうち深達度がごく浅く粘膜に止まるものの多くは、内視鏡的粘膜下層剥離術を用いた一括切除により疾患のコントロールが期待できるが、切除範囲が広い場合は高度狭窄を来し患者のQOLの低下が生じる場合がある。当科では病変の一部を計画的に遺残させることで切除範囲を調整し、遺残部位にはアルゴンプラズマを用いた焼灼術を経時的に行い、狭窄予防を図りつつ、根治性を保つ治療を行っている。			
医療技術名	頸部食道浸潤T3下咽頭表在癌に対する経口的切除(ELPS+ESD)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 当科では1996年より食道癌に重複した頭頸部表在癌の内視鏡治療を開始し、現在300例500病変を超える治療経験を有している。頸部食道に浸潤した下咽頭表在癌はステージ3で一般的には経口的切除は困難で高度の技能を要するが頭頸部外科との協力で内視鏡治療と経口的切除をミックスして治療にあたり、喉頭温存可能な低侵襲治療を実現している。			
医療技術名	ロボット支援胃切除術	取扱患者数	45
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダビンチ・Xi」と「ダビンチ・X」を用いた胃切除術を行っている。手術支援ロボットの特長である、自然な3D画像、多関節機能、手振れのない手術操作により、従来の腹腔鏡手術と比較し、より精細な手術を行うことが可能となっている。術式は幽門側胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援鼠径ヘルニア修復術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 ロボット支援ヘルニア修復術は、術後の疼痛軽減などに繋がるといわれているが、日本では保険適応外となっている。当院では高難度新規医療技術申請を行ない、ロボット支援下ヘルニア修復術を施行している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	129

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援腹壁ヘルニア修復術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 ロボット支援ヘルニア修復術は、術後の再発率低下などに繋がるといわれているが、日本では保険適応外となっている。当院では高難度新規医療技術申請を行ない、ロボット支援下ヘルニア修復術を施行している。この術式を日本でこなしている施設は、現在2施設だけである。			
医療技術名	ロボット支援直腸切除手術	取扱患者数	113
当該医療技術の概要 従来、開腹手術や腹腔鏡下手術で行ってきた直腸癌に対する前方切除術を手術支援ロボットを用いて行っている。ロボット支援下手術は、ロボットの特性や利点欠点を熟知した上で扱う必要があり、その特徴を最大限に活かすことによって、機能温存を保ちつつ確実な直腸癌根治術が可能となる。特に高度進行直腸癌に対する根治術においては手術支援ロボットの利点が効果を発揮するとともに、技術的には高度技術が必要になる。			
医療技術名	骨盤内臓器全摘術、ロボット支援骨盤内臓器全摘術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 他臓器浸潤を伴うような高度進行直腸癌患者や直腸癌術後骨盤内局所再発患者に対する根治手術として骨盤内臓器全摘術が適応になることがあるが、腸管切除のみではなく泌尿生殖器臓器の合併切除と再建(人工肛門および回腸導管)が必要であり、高難度の術式である。中でも再発患者に対する手術については前手術の影響があり難易度がさらに上がる。			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する低侵襲手術治療(腹腔鏡下またはロボット支援大腸)	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎(UC)の手術治療(大腸全摘)は、全身状態不良な患者が多く、時には緊急手術を要する場合があります。手術侵襲も高いことから高難度である。さらに腹腔鏡下またはロボット支援といった低侵襲大腸全摘術は手技の定型化が確立されておらず難易度が高い。一方で、低侵襲手術が完遂できた場合は、術後回復は速やかである。当科ではこの低侵襲手術を積極的に取り入れ、緊急下においても安全に施行し得ている。特に本術式では肛門管内における確実な直腸粘膜剥去および内肛門括約筋の温存が重要であるため、緻密な操作に有用なロボット支援手術が完遂できた場合は、過不足のない確実な切除が期待でき、さらに肛門機能・排尿障害・性機能障害などの後遺症リスクの低減が期待できる。そのためUC関連直腸癌症例、肥満症例、亜全摘後の残存直腸症例にロボットアプローチを適応としている。			
医療技術名	力覚フィードバック機能を有する新規手術支援機器(ロボット)を用いた大腸	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 現在、普及している多くの手術支援機器のデメリットの一つに、触覚の欠如がある。触覚を有するロボットを使用することにより、より安全で正確な大腸癌手術を行える可能性がある。当科では力覚フィードバックを有する新規ロボットを導入し、大腸癌手術における治療デバイスの選択肢の一つとして提供している。			
医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣がん症候群の方に対する予防的乳房切除	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 遺伝子診療科や周産・女性診療科と共同で診療にあたり、BRCA遺伝子変異が認められた方に行われる、高い倫理性が求められる手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	27
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に肝切除を行なう。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	178

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に腓体尾部切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下肝切除術	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に肝部分切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下腓体尾部切除術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に腓体尾部切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下腓頭十二指腸切除術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に腓頭十二指腸切除を行なう。			
医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 薬剤コントロール困難な難治性てんかん症例において、手術で迷走神経刺激装置を埋め込むことで発作を緩和する			
医療技術名	定位的留置電極による長時間脳波測定とマルチモダリティ画像を併用したてんかん焦点診断と切除	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 てんかん症例において、MRIナビゲーションを使用しての定位的電極留置、術中および術後長期間の脳波測定、PET画像検査を併用し、より正確な焦点診断、効果的で安全性の高い焦点切除術を遂行する			
医療技術名	頭頸部および頭蓋底の腫瘍に対する手術	取扱患者数	46
当該医療技術の概要 脳神経外科、頭頸部外科、形成外科、耳鼻咽喉科の医師がチームとして頭頸部、頭蓋底部、ないしはその両方にまたがる腫瘍症例の摘出術を遂行する			
医療技術名	Met-PETガイドを用いた神経膠腫摘出	取扱患者数	29
当該医療技術の概要 手術前に施行したアミノ酸代謝PETにおける結果(アミノ酸の腫瘍細胞への取り込み)をもとに、適切な手術範囲の計画や手術中のガイド(摘出部位、摘出範囲)に役立てる			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	147

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	非造影MRI、ASL法を用いた無侵襲な脳血流評価	取扱患者数	500
当該医療技術の概要 脳虚血性疾患(頭蓋内動脈狭窄/閉塞症、頸動脈狭窄/閉塞症、もやもや病、など)において、造影剤を使用することなく非侵襲に脳循環動態を計測することができる			
医療技術名	もやもや病に対する血管形態・脳循環・甲状腺機能・遺伝子評価とそれに基づく治療方針策定	取扱患者数	480
当該医療技術の概要 指定難病であるもやもや病の治療患者数が全国有数である同施設において、最新の研究知見に基づき血管形態・脳循環・甲状腺機能・遺伝子評価を行い、それに基づく個々の患者への治療方針をテーラーメイドで策定する			
医療技術名	治療困難な脳動脈瘤に対するFlow diverterステント留置術	取扱患者数	35
当該医療技術の概要 通常のコイル塞栓術(ステント併用を含む)では治療困難な脳動脈瘤に対して、動脈瘤内にコイルを留置することなく下記のステントとは全くことなるflow diverterステントを留置して動脈瘤を閉塞する新たな治療法。術者と実施施設が限定された治療法のため他の脳神経外科施設から治療依頼がある。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する塞栓術	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 稀少な疾患、かつ重篤化する可能性のある硬膜動静脈瘻に対し、脳血管造影検査による適切な診断を基に、適切な治療法を決定する。血管内治療が可能な症例については、カテーテルを用いて「コイル」や「液体塞栓物質」を用いて標的血管をつめる治療を行う。			
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	35
当該医療技術の概要 人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする			
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術			
医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	102
当該医療技術の概要 脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。			
医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	215
当該医療技術の概要 脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎手術をおこなう技術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	1387

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腫瘍脊椎骨全摘術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 脊椎に存在する腫瘍を一塊として摘出する手術。			
医療技術名	術中CTナビゲーションを使用した脊椎手術	取扱患者数	49
当該医療技術の概要 脊椎手術中にCT撮影を行うことで、除圧やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。			
医療技術名	表面筋電図を用いた脊椎後弯症患者の痛みの客観的評価	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 脊椎後弯症患者の疲労性腰痛を表面筋電図の波形を用いて客観的に分析評価する技術			
医療技術名	人工骨と自己骨髄血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	146
当該医療技術の概要 脊椎固定術をハイドロキシアパタイト/コラーゲン人工骨および自己骨髄血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起こさない技術。			
医療技術名	膝前十字靱帯再建術	取扱患者数	61
当該医療技術の概要 関節鏡視下に解剖学的に前十字靱帯を再建する。			
医療技術名	膝複合靱帯損傷	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 膝複合靱帯損傷に対し鏡視下に靱帯を再建する。			
医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術を両側同時に施行する。			
医療技術名	半月板逸脱に対する関節鏡視下半月板制動術	取扱患者数	179
当該医療技術の概要 関節鏡視下に骨棘切除、関節包解離の後逸脱した半月板をアンカーを用いて内方化する。 また軟骨欠損に対する処置も併せて行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	472

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	初期変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術	取扱患者数	168
当該医療技術の概要 大腿骨・脛骨を骨切りし、変形した膝関節のアライメントを矯正する。			
医療技術名	原発性無汗症に対するステロイドパルス療法	取扱患者数	126
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう疾患で、指定難病であるが、それらの症例に対してステロイドパルス療法を施行し良好な結果を得ている。			
医療技術名	原発性無汗症に対する発汗検査	取扱患者数	123
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう疾患で、指定難病であるが、それらの症例の診断に必須である発汗検査を行い、上記のステロイドパルス療法へ繋げている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する免疫療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 抗PD-1抗体や抗CTLA4抗体を使用した新規の免疫療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する分子標的療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 BRAF阻害剤・MEK阻害剤を使用した新規の分子標的療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	難治性痒疹患者のNB-UVB療法	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 難治性痒疹は通常の外用療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例に対して、narrow band UVBを照射するという治療を行っており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎のNB-UVB療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 難治性のアトピー性皮膚炎に対し、全身照射が可能なNB-UVB機器を用いての光線治療やターゲット型NB-UVB治療器での局所治療を行なっている。			
医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	75
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではコントロールに難渋することがある。そのような症例において、新規生物学的製剤を併用しており、良好な結果を得ている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
扱い患者数の合計(人)	534

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対するJAK阻害薬投与	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではコントロールに難渋することがある。 そのような症例において、新規JAK阻害薬を併用しており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	自己免疫性水疱症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 自己免疫性水疱症(尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など)は、皮膚科で入院を要する疾患の代表的なものである。 当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法などを行い治療を行なっている。			
医療技術名	Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症は、致死的で後遺症を残す重症薬疹であり、指定難病である。当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換療法などを施行し、良好な効果を得ている。			
医療技術名	神経線維腫症1型に対する診療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 神経線維腫症1型は遺伝性疾患で、指定難病である。当科では、診断を皮膚科的診察で行い、適宜、合併症検索と腫瘍切除術を行っている。			
医療技術名	皮膚筋炎に対する診療	取扱患者数	49
当該医療技術の概要 皮膚筋炎は指定難病であり、多彩な皮膚症状を呈し皮膚科での皮膚生検や筋生検から診断がつくこともある。 診断から治療まで一貫した診療を行なっており、初期治療導入時は原則入院加療としている。			
医療技術名	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対する診療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 本疾患は指定難病であり、多彩な皮膚症状を呈す。急性増悪する場合もあり入院下での集学的免疫抑制療法を行う場合もある。			
医療技術名	顕微鏡的多発血管炎に対する診療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 顕微鏡的多発血管炎は紫斑を契機に診断がつくことが多い。当科では皮膚生検の他、必要時は寛解導入療法も行う。 再燃、寛解を繰り返し慢性の経過となるため外来診療を継続している。			
医療技術名	シェーグレン症候群に対する診療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 シェーグレン症候群は指定難病であり、当科では分節型無汗症を契機に発覚することもある。 各種合併症の評価の他、必要時はステロイドを中心とした免疫抑制療法を行なっている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	94

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	強皮症に対する診療	取扱患者数	29
当該医療技術の概要 強皮症は指定難病であり、皮膚科では手指潰瘍の治療の他全身治療としてステロイドを中心とする免疫抑制療法やリツキシマフ行なっている。			
医療技術名	Fabry病に対する酵素補充療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 指定難病19ライソゾーム病の一種であり、2週間に1回の酵素補充療法を必要とする。経年的に多臓器に多彩な症状を生じるた他科と連携しながら診療に当たっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除	取扱患者数	49
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下前立腺全摘除である。現在では標準術式としてほぼ確立しており、本邦でも前立腺全摘除の80%以上が本術式で行われているとされているが、比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下膀胱全摘除である。手術侵襲を低減するべく、本邦でも普及が進んできている手術である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となる。手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎部分切除はその低侵襲性から標準術式となりつつあり、術中腎血流遮断時間の短縮や出血の低減、疼痛の軽減、入院期間の短縮などを可能としている。難易度は比較的高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対する外科治療において、高い有効性や安全性から腹腔鏡下仙骨腔固定術は世界的な標準治療として広く普及していた。腹腔鏡下仙骨腔固定術にとって高難度の操作性が欠点であったが、内視鏡手術用支援ロボットの導入により克服され、今後ますます普及すると考えられる。当院では泌尿器科・周産・女性診療科合同のロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術チームを結成し、より綿密な治療を提供できる体制を整えており、近隣の泌尿器科・婦人科より多くの紹介を受けている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎摘除	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎摘除である。従来行われてきた開腹あるいは腹腔鏡下腎摘除と比較し、さらなる低侵襲化と安全性の確保に寄与する術式である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎尿管全摘除	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎尿管全摘除である。従来行われてきた開腹あるいは腹腔鏡下腎摘除と比較し、さらなる低侵襲化と安全性の確保に寄与する術式である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	193

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたす先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。頭部装着型立体ディスプレイを用いたガスレス・シングルポート・ロボサージョン型手術を開発し、2011年途中より行っている。			
医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 筋層浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに根治可能であることが知られている。これより、適切な症例選択のもと、膀胱腫瘍の最大限の経尿道的切除後に化学放射線療法を施行する膀胱温存療法を施行している。また、当科で規定している基準を満たす転移のない筋層浸潤性膀胱癌患者に対し、膀胱腫瘍の最大限の経尿道的切除後に化学放射線療法、さらにミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清を組み合わせた膀胱温存療法を、倫理審査委員会の承認のもとに行っている。			
医療技術名	腎癌の無阻血低侵襲腎部分切除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下や仮性動脈瘤発生などのリスクがある。術後の腎機能を良好に保ち合併症を回避するために、腎血流を遮断しない術式を開発し、施行している。			
医療技術名	前立腺癌の前立腺部分治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療法の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺を部分的に治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。本治療は倫理委員会の承認のもとに行われている。			
医療技術名	MRI/経直腸超音波画像弾性融合前立腺針生検法	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 高齢化社会において増加している前立腺癌の患者の診断をより正確に行うべく、前立腺針生検の検査前にMRIを施行し、電磁追跡型装置であるUroNav(InVivo社)を用いてMRI画像を生検時の経直腸超音波画像にリアルタイムで弾性融合させることにより、より精度の高い前立腺針生検を行うことを可能としている。従来超音波では検出不能とされている癌もMRI所見を融合させることにより十分検出可能となる。			
医療技術名	重度尿失禁患者に対する人工尿道括約筋埋込/交換	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 男性の前立腺全摘術や経尿道的前立腺切除術に伴う尿道括約筋の損傷により、一定頻度で重度の尿失禁が引き起こされ、患者のQOLを著しく下げてしまう。従来治療抵抗性であったこれらの尿失禁に対して、人工尿道括約筋埋込術は現在根治的に尿失禁を改善できる保険適応のある唯一の方法とされる。当院は先進医療や保険に収載される前から本手術を行っており、日本でも有数の人工尿道括約筋埋込施設として全国から患者が集まってきている。			
医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 希少疾患である間質性膀胱炎は2015年より難病指定を受け(ハンナー潰瘍を伴うものに限る)、今後ようやく検査・治療が発展していくものと予想される。間質性膀胱炎に対する唯一の保険適応のある治療が膀胱水圧拡張であるが、当院では先進医療であった時期より積極的に本手術を行っており、現在もコンスタントに患者が集まってきている。			
医療技術名	下大静脈あるいは右心房までの浸潤を伴う腎癌に対する、根治的腎摘除および腫瘍塞栓摘除	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 腎癌においては、しばしば下大静脈、あるいは右心房にまで到達するような腫瘍塞栓を形成することがあり、治療としては、根治的腎摘除に加え、下大静脈あるいは右心房を切開し腫瘍塞栓を摘除する必要がある。本手術は、ときに体外循環を要するなど、術後管理も含め非常に高度な技術や知識を要求される。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数

8

取扱い患者数の合計(人)	197
--------------	-----

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	インプラント 緑内障手術	取扱患者数	53
当該医療技術の概要 緑内障手術。新しいインプラント装置であるEX-PRESSやiStent、プリザーフロー、アーメドバルブを眼球内に挿入し、安定かつ合併症の少ない安全な術後眼圧管理が可能になる			
医療技術名	多焦点眼内レンズを使用した白内障手術	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 通常の白内障手術の単焦点レンズに加え、多重焦点レンズを使用する白内障手術。老眼の解消になり、多様化する患者のニーズに応えている。			
医療技術名	前房水PCRでの診断治療	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 これまで原因不明であるぶどう膜炎に対して有用であり、診断がつくことで治療方針の決定に役立っている。			
医療技術名	側頭骨頭蓋底腫瘍の手術加療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 外耳道癌は100万人に一人とも言われるきわめて稀な疾患であり、その手術加療は難易度が極めて高く、行える施設は3施設に限られる。当科では外耳道癌に対する外側側頭骨切除ならびに側頭骨亜全摘術に関し国内屈指の症例数をもつ。また、脳神経外科と共同で頸静脈孔腫瘍の手術も施行している。その他の側頭骨頭蓋底腫瘍の手術も多数行っている。また最近では、外視鏡ORBEYEの導入や、OarmとStealthStationを用いた最先端の術中CTナビゲーションによる手術リスクの低減も行っている。			
医療技術名	人工内耳植込術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 内耳障害により両側聾となった症例に対し、人工内耳埋込による聴覚の再獲得が可能となる。当科では本手術と術後の人工内耳のマッピングを継続して施行している。また、残聴保存型人工内耳や人工中耳、BAHAなどの植込術も施行している。			
医療技術名	めまいの手術治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 メニエール病や遅発性内リンパ水腫に対する内リンパ嚢開放術、良性発作性頭位めまい症に対する半規管遮断術などめまいに対する内耳手術を施行している。			
医療技術名	4K内視鏡を用いた経外耳道内視鏡下耳科手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 低侵襲の経耳的内視鏡下耳科手術に最新の4K内視鏡を導入し、低侵襲かつ安全な手術を行っている。現在では耳科手術の半分以上を占める。			
医療技術名	外視鏡を用いた耳科手術	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 手術用顕微鏡ではなく外視鏡を全ての耳科手術に導入している。これにより、術者や助手の疲労軽減だけでなく、周囲の医師や学生が術者と同じ視野を共有できる教育的なメリットもある。さらに3Dホログラムによる手術ナビゲーションの開発と実証も行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	270

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡下頭蓋底手術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 頭蓋底領域の腫瘍を脳外科と合同で内視鏡下で切除を行う手術。双方の科の高度な技術と連携が必要である。			
医療技術名	経口的咽頭悪性腫瘍切除術	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 咽頭表在癌を早期発見して食道外科と協力のもと経口的な切除を施行している。低侵襲であり機能温存が可能である。			
医療技術名	頭頸部悪性腫瘍に対する化学放射線療法	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 頭頸部癌に対する本治療は、強い有害事象が出現することもある。高度の治療管理技術と高度の管理体制が必要である。			
医療技術名	光免疫療法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 気道管理、疼痛管理が必要であり、高度の術後管理が必要である。			
医療技術名	着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 生殖補助医療によって得られた胚の染色体数を、移植する前に網羅的に調べる検査。			
医療技術名	卵巣組織凍結	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 小児悪性疾患患者などを対象に、抗がん剤などの卵巣予備能を低下させる治療を行う前に卵巣を摘出して凍結保存し、妊孕性温存を図る技術。			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	301
当該医療技術の概要 限局性悪性腫瘍に対し照射野内の放射線強度を変調させながら照射する技術で、従来よりも照射標的の形状に一致した線量分布を得ることができる。			
医療技術名	定位放射線治療	取扱患者数	82
当該医療技術の概要 5cm以下の小さな腫瘍に対し、4D-CTを用いて呼吸状態などの体の生理的可動域を加味しながら、小さな照射標的に複数の狭小X線ビームを用いて短期間に大量の線量を照射する技術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
扱い患者数の合計(人)	501

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	小線源治療	取扱患者数	73
当該医療技術の概要 口腔癌および前立腺癌に対しては低線量率線源を用い、子宮や乳腺に対しては高線量率線源を用いて、患部に直接的に線源を挿入し、専用コンピュータを用いた線量評価を行いながら病変を直接照射する技術。			
医療技術名	ド受容体放射性核種療法 (Peptide Receptor Radionuclide Therapy; PRRT)	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対する治療。ソマトスタチン類似物質に放射性同位元素のルテチウム177を標識した医薬品(ルタテラ)を投与し、ソマトスタチン受容体に結合し、ルテチウム177から放出される放射線ががん細胞を直接攻撃する。			
医療技術名	半導体PET/CT	取扱患者数	1800
当該医療技術の概要 従来型のシンチレーション検出器に代えて半導体検出器(カドミウムテルル[CdTe]など)を用いたPET/CT。入射したγ線を直接電気信号に変換することで高いエネルギー分解能と感度を実現し、従来法に比べて小病変の検出能や定量精度が向上する。これにより、がんの早期診断、治療効果判定、再発評価などにおいて、より高精度な画像診断が可能となる。			
医療技術名	Photon counting detector CT	取扱患者数	7000
当該医療技術の概要 従来のエネルギー積算型検出器に代わり、個々のX線光子を直接計数しエネルギーを弁別できる半導体検出器を搭載した最新型CT。空間分解能やコントラスト分解能が大幅に向上し、少ない被ばく線量や低用量造影剤で高画質画像の取得が可能となる。心臓血管領域、腫瘍診断、骨病変評価など、多様な領域で高精度診断に寄与する。			
医療技術名	SOD1-ALSの治療薬トフェルセンの投与	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 本邦では2025年3月まで未承認医薬品であったSOD-1遺伝子変異を有する遺伝性筋萎縮性側索硬化症(ALS)の治療薬であるトフェルセンの投与を行った。本邦では製造販売承認が2024年12月に承認され、2025年3月に薬価収載された。			
医療技術名	脳表シデロースिसに対する硬膜瘻孔閉塞術や鉄キレート剤デフェリプロン投与	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 脳表ヘモジデリン沈着症は種々の原因で中枢神経系の軟膜下層にヘモジデリンが沈着し、小脳障害、聴神経障害、嗅覚障害、脊髄障害などの中枢神経障害を引き起こす難病である。当院では、整形外科で硬膜瘻孔閉塞術、耳鼻科で人工内耳移植術、脳神経内科で鉄キレート剤投与によるヘモジデリン除去療法の臨床治験を行っている。それぞれ有益な結果が得られている。多施設共同研究を行っている。			
医療技術名	難治性多巣性運動ニューロパチーに対するリツキシマブ投与	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 多巣性運動ニューロパチーは慢性進行性の筋力低下、筋萎縮を主徴とする脱髄性末梢神経疾患である。当院では標準治療である免疫グロブリン療法が奏功しない症例に対するリツキシマブ投与を行い、良好な効果を得ている。			
医療技術名	ロボット心臓手術	取扱患者数	47
当該医療技術の概要 2023年10月より手術ロボットda Vinciを用いた心臓弁形成手術を開始した。ロボットを用いることで従来よりも格段に小さな傷で精密な弁形成術が可能となる。2023年度までは弁形成術のみが適応であった。2024年度からは弁置換にも拡大され、患者数は今後も増加が期待される。また2024年からは症例によっては冠動脈バイパスのための内胸動脈採取もロボットを用いて行うようになった。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	8981

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経カテーテル的大動脈弁留置術(Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI)	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 2023年10月より循環器内科と合同で開始した。大動脈弁狭窄症に対して、従来手術と比べ格段に小さな傷で大動脈弁置換術を経カテーテル的に行うことが可能となった。			
医療技術名	植込型補助人工心臓 (BTT)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 従来の治療法では救命できない重症心不全に対して心臓移植までのつなぎとして使用される植込み型の補助人工心臓治療である。植込型補助人工心臓は以前に使われていた体外型補助人工心臓と比べ、脳血管合併症や感染症の頻度が低く、術後は外来通院をしながら自宅にて移植待機が可能となる。			
医療技術名	植込型補助人工心臓 (DT)	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 心臓移植までのつなぎとして使用される植込み型の補助人工心臓治療(BTT)に対して、心臓移植を前提としない植込型補助人工心臓を指す。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤灌流療法	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤灌流、術後抗癌剤化学療法の集学的治療			
医療技術名	肺尖部胸壁浸潤肺癌に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 肺尖部胸壁浸潤肺癌(Pancoast肺癌)に対して術前化療放射線併用療法後に肺切除術			
医療技術名	局所進行肺癌(cN2, T4)に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 IIIA/B期 非小細胞肺癌に対して術前化療放射線併用療法後に肺切除術			
医療技術名	局所進行肺癌に対する術前ケモ+ICI治療後の肺切除術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 IIIA/B 非小細胞肺癌に対して術前化学療法+免疫チェックポイント阻害剤治療のちの肺切除術			
医療技術名	中枢進展肺癌に対する肺全摘回避目的で術前治療のち肺切除術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 気管支または肺動脈中枢進展のため肺全摘を要する病状に対して術前治療のち全摘回避する外科治療			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	63

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	びまん性肺疾患に対するMDD診断	取扱患者数	57
当該医療技術の概要 びまん性肺疾患は稀少疾患を多く含み、診断が困難なことが多い。国際ガイドラインや本邦のガイドラインでは呼吸器専門医、胸部専門の放射線科医、肺病理専門の病理医の3者が合議し診断することが推奨されている(MDD(multidisciplinary discussion)診断)。日本呼吸器学会びまん性肺疾患学術部会ではMDD診断の普及を進めているが、3つの領域の専門医が揃っている施設は全国でも少ないのが現状である。当院では2020年にクライオバイオプシーを導入し以後2回/月の頻度でMDD診断を実施している。			
医療技術名	慢性過敏性肺炎疑い例に対する抗原回避試験	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 過敏性肺炎は特発性肺線維症など複数のびまん性肺疾患と臨床経過、画像、病理所見とも酷似しており一般の呼吸器内科では診断が困難な疾患である。近年、国際的にも注目されている疾患であり2020年にはじめて国際ガイドラインが作成された。環境中の抗原が原因である過敏性肺炎では診断の要諦は環境と疾患との関連を明らかにすることであるが、当院では積極的に抗原回避試験(原因として疑わしい環境因子の除去や入院による改善の有無の評価)を実施し過敏性肺炎の鑑別を行っている。			
医療技術名	間質性肺炎合併肺癌に対する積極的な化学療法の実施	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 間質性肺炎ではしばしば肺癌の合併がみられる。特発性肺線維症では5～30%が肺癌を合併、相対リスクが7～14倍と報告されている。進行例の場合は化学療法の適応だが、薬剤投与が契機となり間質性肺炎の急性増悪を発症するリスクがあることから薬物療法の選択は限られ、一般の呼吸器内科では治療困難と判断する 경우가少なくない。当院では間質性肺炎の豊富な臨床経験を生かし、間質性肺炎合併肺癌に対し積極的に化学療法を実施している。			
医療技術名	マイクロサージャリー(皮弁、リンパ浮腫、切断指など)	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 手術用顕微鏡、外視鏡を用いて、微小血管吻合、神経吻合やリンパ管静脈吻合を行い、遊離組織移植、知覚再建、切断指再接着やリンパ浮腫に対する治療を行っている。			
医療技術名	穿通枝皮弁、その他の自家組織による乳房再建	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 乳腺外科と協力して乳がん切除と乳房再建を実施している。各種の穿通枝皮弁などの自家組織では術前CTによる血管評価、術中近赤外線カメラでのインドシアニンググリーン蛍光造影法による血流評価、3Dカメラを用いたシミュレーションを行っている。			
医療技術名	培養自家脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた軟部組織の再建・増大術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 第二種再生医療等提供計画として届けて行っており、外来にて少量の脂肪を採取し、製造委託先にて幹細胞を培養、冷凍保管し、7週後に培養した幹細胞と、手術当日に吸引した脂肪とを混合し、乳房もしくは顔に移植する治療である。			
医療技術名	静脈奇形、嚢胞状リンパ管奇形に対する3%ポリドカノールのフォーム硬化療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 特定臨床研究で行っており、3%ポリドカノール:空気=1:3～1:5で混合したものを使用し、X線透視下、もしくはエコーを見ながら、病変に注入し、硬化・縮小させる治療である。			
医療技術名	糖尿病性足潰瘍・虚血肢に対する集学的治療	取扱患者数	35
当該医療技術の概要 血管外科、放射線科、内科、血液浄化療法部、高気圧治療部と協力して血管内治療、バイパス治療、LDL及びフィブリノーゲン吸着療法、高圧酸素療法、遊離組織移植の技術を用いて、できるだけ歩行機能を温存する治療である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	214

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	唇顎口蓋裂に対する総合治療	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 口腔外科、矯正科、言語治療部、耳鼻科と協力して幼児から成人例まで扱う。成長を見据え、整容・機能に配慮した総合的治療を行っている。			
医療技術名	頭頸部頭蓋底再建手術	取扱患者数	71
当該医療技術の概要 頭頸部外科、脳神経外科、食道外科と協力して、頭頸部・頭蓋底腫瘍切除後の再建手術を実施している。手術用顕微鏡を用いて微小血管吻合、神経吻合を行い遊離組織移植、顔面神経再建などの治療を行なっている。			
医療技術名	頭頸部頭蓋底再建手術術後顔貌変形に対する二次修正手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 頭頸部・頭蓋底再建などの手術後に生じた治療が困難な顔面の変形に対して、遊離皮弁移植などを行い修正手術を行なっている。			
医療技術名	頭頸部領域の皮膚悪性腫瘍	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 皮膚科とも協力して、切除・再建が困難な頭頸部領域の皮膚悪性腫瘍に対する集学的治療を行なっている。			
医療技術名	顔面神経麻痺に対する集学的治療	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺に対する動的・静的再建手術、薬剤を組み合わせた集学的治療を行なっている。			
医療技術名	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 先進医療Aとして、血液中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量することにより、造血幹細胞移植後の患者に合併するウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与した。			
医療技術名	ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断(PCR法)	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 先進医療Aとして、眼房水中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量し、眼ウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与した。			
医療技術名	血漿交換	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 病因物質を含む血漿を廃棄し、それと同量の新鮮凍結血漿もしくはアルブミン溶液を補充する、まさしく血漿を交換する治療法である。難病を中心とした難治性自己免疫性疾患(例:血栓性血小板減少性紫斑病、重症筋無力症、全身性エリマトーデス)などに対して施行することが多く、救命や病態寛解のため必要となる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	225

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	血漿吸着	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 血漿を吸着カラムに通すことにより病因物質を除去する治療法である。当院では難病である家族性高コレステロール血症や巣状糸球体硬化症、閉塞性動脈硬化症などに対してLDL吸着(レオカーナ 含む)を、自己免疫性疾患に対し免疫吸着を行っている。			
医療技術名	リンパ球/顆粒球吸着(白血球除去療法)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 難病である潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対して、病因の1つである活性化したリンパ球を吸着療法により除去することにより、病勢のコントロールを行っている。			
医療技術名	腹水濾過濃縮再静注	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 ほかの様々な治療法では治療困難な難治性腹水症の患者の腹水を取り出し、それを濾過及び濃縮し、患者に再静注する治療法であり、癌や肝硬変による大量腹水のコントロールを行っている。			
医療技術名	痙縮に対する拡散型衝撃波治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 拡散型衝撃波治療は、空気圧駆動により発生した圧縮波を治療部位に照射し、筋や腱、軟部組織に機械的刺激を与える物理療法で、脳卒中、脊髄損傷、重症心身障害(SMID)などに伴う痙縮の軽減を目的として行われる従来の薬物療法やボツリヌス毒素治療に加え、非侵襲的かつ反復可能な補助的治療として期待されている。			
医療技術名	早期スポーツ復帰に向けた運動器外傷に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	74
当該医療技術の概要 74人のべ227回の治療実績を上げている。 捻挫、肉離れ、靱帯損傷等の軟部組織外傷や骨折等の急性期における高気圧酸素治療は、外傷の治癒促進となるエビデンスが我々の示したものを含め複数存在する。オリンピック選手/プロ選手やトップアスリート等、可及的早期にスポーツ競技復帰を望む選手やチームからの社会的要請は高い。本学では、スポーツ選手における軟部組織外傷急性期の診療体制を確立しており、高度医療の提供と位置づけている。			
医療技術名	難治性疾患である放射線照射後の晩期障害に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	67
当該医療技術の概要 67人のべ1678回の治療実績を上げている。 遅発性放射線障害である出血性膀胱炎、出血性腸炎、放射線性咽頭炎等は難治性である。出血がコントロールされない放射線性出血性膀胱炎では、定期的な輸血や膀胱摘出術などの処置を要することも多い。高気圧酸素治療は80%以上の有効性がある。全国的には本疾患に対する高気圧酸素治療を実施している施設は希少で、本学の治療は高度医療と位置づけられる。実際に、高気圧酸素治療目的での他院からの紹介が多くなっている。			
医療技術名	膝関節靱帯再建、半月板縫合、骨切り術後選手に対する術前から競技復帰までのスポーツ理学療法	取扱患者数	139
当該医療技術の概要 膝関節靱帯損傷は代表的なスポーツ外傷であり、スポーツ活動の継続を希望する選手には靱帯の再建手術が治療の第一選択となる。スポーツ活動の再開、元の競技レベルへの復帰には、術後早期からの適切な診断と、専門的なリハビリテーションおよびコンディショニングが不可欠である。本学では、整形外科および運動器外科と連携しながら、術前からスポーツ復帰に至るまで科学的根拠に基づいて選手をサポートしている。取扱患者の中には、国際大会出場者やプロなどハイレベルなども含まれる。選手の膝機能やスポーツパフォーマンスに関する診療データを蓄積・分析するシステムを構築し、常に情報をアップデートしながら選手に還元している。半月板損傷例や複合靱帯損傷例に加えて、大腿骨および脛骨の骨切り術後症例にも対応し、再損傷率を抑えながら、高い競技復帰率を誇っている。			
医療技術名	クラシックバレエダンサーを中心としたオーバーユース障害への対応	取扱患者数	43
当該医療技術の概要 クラシックバレエを中心に、オーバーユース障害をきたす各種競技の運動・動作特性を理解した上で、適切な治療を提供している。運動器外科と連携し、あらゆるオーバーユース障害の診断・治療(スポーツ理学療法を含む)・再発予防に取り組んでいる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	352

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種骨髄移植	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている。輸血・細胞治療センターでは骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは、臍帯血バンクから受け入れた臍帯血の保管管理、細胞の評価を実施している。今年度初めて私的臍帯血バンクに保存されていた血縁臍帯血の移植を実施した。			
医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 当院は3社4製剤の治療可能施設となっている。血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血からのリンパ球採取と細胞の評価、凍結保存、細胞の製造所への送付と、遺伝子改変後の細胞製剤の受け入れおよび管理を実施している。			
医療技術名	ヒト間葉系幹細胞	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 血液内科・小児科・整形外科・消化器内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは製剤の保管管理および使用前の調製を担当している。			
医療技術名	クリオシール(自己生体組織接着剤)	取扱患者数	65
当該医療技術の概要 患者自己血から自己生体組織接着剤を調製し、術中止血に使用する。周産・女性診療科、脳神経外科を中心に利用されている。			
医療技術名	PRP膝関節内注射	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターでは採血、およびPRP調製を担当している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
扱い患者数の合計(人)	149

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	PRP股関節内注射	取扱患者数	59
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターでは採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	筋・腱・靭帯損傷・障害部へのPRP注射	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターでは採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	大動脈バルーンパンピング法(IABP)	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 急性心筋梗塞後の心原性ショックや急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔や僧帽弁閉鎖不全、開心術後のポンプ機能不全が適応となる。胸部下降大動脈に留置したバルーンを、駆動装置を用いて心拍に同期させて収縮・拡張させる装置である。心臓の拡張期にバルーンを拡張することによって、大動脈圧拡張末期圧を上昇させ冠血流量を増加させる効果と、収縮期直前にバルーンを急速に収縮させ拡張末期圧を低下させ心拍出を容易にする効果を有する。			
医療技術名	経皮的心肺補助装置(PCPSあるいはVA-ECMO)	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に沿う血閉鎖回路による補助循環である。			
医療技術名	VV-ECMO	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 遠心ポンプと膜型人工肺を用いた閉鎖回路の人工心肺装置をもちいて、呼吸補助を行う装置である。			
医療技術名	持続腎代替療法(CRRT)	取扱患者数	45
当該医療技術の概要 急性腎傷害を合併した循環動態が不安定な重症患者が適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、小型の濾過器を用い限外濾過により持続的に体液を除水する。同時に透析液を流すことによって、拡散によっても物質を除去する血液浄化療法である。24時間以上持続して施行する。			
医療技術名	左心補助人工心臓(LVAS)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 治療抵抗性の急性重症心不全と末期的慢性重症心不全の場合に適応となる。左室から脱血し、血液ポンプを用いて上行大動脈に送血することにより、左室ポンプ機能をほぼ100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	IMPELLA	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 インペラ(IMPELLA)とは、左心室負荷を直接軽減する補助人工心臓の一つで、小型モーターを内蔵したポンプカテーテルを、経皮的に大動脈などから心臓の左心室に挿入する左室補助循環装置である、			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	171

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重症外傷に対する集学的治療	取扱患者数	265
当該医療技術の概要 重傷外傷患者 (AIS3以上)は治療優先順位の決定と、さらに損傷部位別に有効な修復方法が求められる。当科では初期診療から、入院管理、患者によっては退院までの管理を、各症例ごとに適切な治療方法を選択し、(IVR、手術、また輸液輸血管理などを含む)集学的治療を行なっている。			
医療技術名	緊急腹部手術患者に対するOpen Abdominal Manangement	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 緊急開腹手術を受けた患者のうち、バイタルが不安定な症例、多発外傷で損傷部が明確でない症例、腸管虚血が今後進行するおそれのある症例、腹腔内圧上昇がみられる症例などについて当科ではopen(あえて閉腹せずに管理)な状態で管理している。全身管理と並行し腹腔内の状態を評価しつつ段階的に閉腹を行うことで、予後の向上に繋がっている。			
医療技術名	消化管出血患者に対する集学的治療	取扱患者数	52
当該医療技術の概要 吐血や血便患者の多くはショック状態で搬送され、緊急での内視鏡、IVRなどが求められる。また並行して輸血、気道確保、など集学的管理も必要となる。当科では、初期対応、初期蘇生、緊急内視鏡を含め、その後のICU管理まで行っている。			
医療技術名	経皮的人工心肺(PCPS)を用いた院外心肺停止患者に対する心肺蘇生	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 通常の蘇生に反応しない院外心肺停止患者に対し、当院では積極的に人工心肺を使用し、蘇生の可能性を追求している。また蘇生後のICU管理も集学的に行い、社会復帰率も年々向上している。			
医療技術名	院外心肺停止患者の蘇生後脳症に対する脳低温療法	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 院外心肺停止患者の蘇生後に体温を35度以下で24時間以上維持・管理するものを指す。神経学的な予後改善が期待され、国際的ガイドラインでも支持されている。当院では心肺蘇生に関する様々なレジストリーにも参加している施設でもあり、蘇生領域の最先端の知見を示すとともに、同時に院外心肺停止患者の社会復帰に成果を上げている。			
医療技術名	出生前遺伝学的検査	取扱患者数	196
当該医療技術の概要 多くの倫理的・社会的課題がある出生前遺伝学的検査を、周産女性診療科と連携して実施している。本検査の実施には受検前の遺伝カウンセリングが必須で、検査のメリット・デメリットや、夫婦にとっての検査の意義などを確認している。			
医療技術名	着床前遺伝学的検査	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 多くの倫理的・社会的課題がある着床前遺伝学的検査を、リプロダクションセンターと連携して実施している。本検査実施には日本産科婦人科学会や本学臨床倫理委員会への申請とともに遺伝カウンセリングが必須で、検査のメリット・デメリットや、夫婦にとっての検査の意義などを確認している。			
医療技術名	遺伝性心疾患の遺伝子診断	取扱患者数	38
当該医療技術の概要 先天性QT延長症候群、心筋症、家族性高コレステロール血症、マルファン症候群などの遺伝学的検査を実施している。本領域ではエキスパートパネルを開催し、判断困難な症例にも専門家として対応している。今後、さらに活用が広がっていく領域であると考えている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	623

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	遺伝性がん症候群の遺伝子診断	取扱患者数	77
当該医療技術の概要 遺伝性乳がん・卵巣がん、リンチ症候群、Von Hippel-Lindau病、Gorlin病など腫瘍関連症候群について遺伝子診断を実施、陽性例については各科と連携し適切に対応している。			
医療技術名	遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリングおよび遺伝子診断 (確定診断・発症前診断・保因者診断など)	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 遺伝性疾患は遺伝情報の特性から一般診療とは異なる形での配慮が必要である。当科では各種遺伝性疾患に関して、院内臨床各科と連携し、患者だけでなく家族を含めて遺伝リスクの説明や遺伝情報の特徴を伝え、受検の選択だけでなく、実際の検査の出検、結果説明や受け止めなどをサポートしている。			
医療技術名	全エクソーム解析	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 今後需要が高まると予見される全エクソーム解析について、難病ゲノム専門職の研修を修了し、院内での検査体制を整えた。適応疾患については各科とも連携しながら検討している。			
医療技術名	がんゲノム医療	取扱患者数	160
当該医療技術の概要 標準治療で進行した又は進行見込みの患者に対して、がん遺伝子パネル検査を実施し、検出された遺伝子変異に基づき個別化治療を行う。			
医療技術名	16S rRNAシーケンスによる細菌の同定	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 細菌がもつ16S rRNA遺伝子をPCRにて増幅し、次世代シーケンサーにて解析することで細菌の存在と菌種を明らかにする。通常の培養検査では検出できない細菌を同定でき、適切な感染症治療につなげることができる。			
医療技術名	薬剤耐性機序の精密解析、遺伝子解析	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 薬剤耐性菌の感受性検査をより精密に行ったり、耐性遺伝子を解析したりすることによって耐性機序や効果の期待できる抗菌薬を詳細に明らかにする。これにより薬剤耐性菌に対して適切な抗菌薬選択を行う。			
医療技術名	先天性疾患を有する患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 むし歯科・歯周外科・義歯科・口腔外科・小児歯科などの他の歯系診療部門、さらには、医系診療部門の専門診療科との連携により、一般的な医療機関では困難な集学的治療を行っている。また、治療開始前には患者と家族に対してカウンセリングを行っている。			
医療技術名	顎変形症患者に対する外科的矯正治療	取扱患者数	125
当該医療技術の概要 口腔外科をはじめとした他の歯系診療部門、さらには、医系診療部門の専門診療科との連携により、一般的な医療機関では困難な顎矯正手術を併用した矯正歯科治療を提供している。定期的な口腔外科との合同カンファレンスを行い、チームアプローチによる綿密な連携並びに協力体制を確立している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	470

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	新型アンカースクリューを用いた矯正歯科治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 歯根損傷リスクを減らすため短いスクリューを開発し、歯科材料としての認可を受けた。現在、本製品を矯正歯科治療に使用し、新たな治療法の開発に取り組んでいる。			
医療技術名	唇顎口蓋裂患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	206
当該医療技術の概要 唇顎口蓋裂は先天的に上顎骨の欠損や変形ならびに劣成長を有し、それに付随して前歯の先天欠損を有する不正咬合である。それに対して、口腔外科や補綴科、言語治療部等との連携も必要な矯正歯科治療であり、専門性の高い治療である。			
医療技術名	顎変形症患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	1603
当該医療技術の概要 著しい上下顎間関係の不調和を有し、矯正歯科治療単独では対応困難な不正咬合に対して、(上)下顎の骨切り術を併用した矯正歯科治療である。咬合機能の回復のみならず、審美性の回復や呼吸機能の改善にも寄与する医療技術である。			
医療技術名	先天性部分無歯症患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	162
当該医療技術の概要 6歯以上の永久歯の先天性欠損を有し、矯正歯科治療単独では対応困難な不正咬合に対して、補綴治療やインプラント治療、歯周外科治療、審美歯科治療など多数診療科に亘る包括的アプローチが必要な矯正歯科治療である。そのため、多数診療科に亘り高度な医療技術を要する。			
医療技術名	前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全に起因する不正咬合患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 3歯以上の永久歯の萌出不全を有し、それに起因する不正咬合に対して、開窓牽引術を併用した矯正歯科治療である。萌出不全は片側に偏って発生することが多く、また牽引時は固定源を確保する必要があるが、矯正用アンカースクリューが若年患者の場合使用できないため、左右・前後の咬合平面管理が非常に難しく、治療期間も長期にわたるため、高度な医療技術を要する。			
医療技術名	歯科用光干渉断層計の開発	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 従来の画像診断機器では診断が困難な初期齲蝕や歯の亀裂、歯の摩耗等を、放射線を使わずに光で診断を行う			
医療技術名	エコーガイド下三叉神経ブロック	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 外科的矯正手術や埋伏歯抜歯などの口腔外科手術に際して、エコーガイド下で下顎神経または上顎神経のブロックを行うことにより、術期の安定した鎮痛を得ることができる。			
医療技術名	ACイオントフォレーシス	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 三叉神経ニューロパチー患者に適用する。交流電流を用いたイオン導入法で、直流電流とは異なり、長時間(当科では40-60分)作用させることが可能なため、TENSと同様の刺激療法としての効果も期待できる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
扱い患者数の合計(人)	2195

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	歯科心身医療	取扱患者数	7,624
当該医療技術の概要 舌痛症、非定型歯痛、Phantom bite syndrome、口腔セネストパチー、味覚障害、口腔乾燥症、口臭症など、従来の歯科処置では症状改善が難しい患者に対する薬物療法等を行っている。			
医療技術名	顎関節人工関節全置換術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 顎関節構造が失われた顎関節強直症に対して人工関節による全置換を行うことで開口量の改善を得る。			
医療技術名	唇顎口蓋裂に対する顎裂閉鎖術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 唇顎口蓋裂の顎裂部に腸骨海綿骨移植を行い、顎裂部の閉鎖を行う。			
医療技術名	唇顎口蓋裂患者に対する顎変形症手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 唇顎口蓋裂に伴う上顎後退症、下顎前突症に対する上下顎骨切り術による咬合改善術。			
医療技術名	二段階内視鏡	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 先端部が2回屈曲する、特殊な構造の経鼻内視鏡。より精密な誤嚥の検出が可能となる			
医療技術名	マウスピース型人工喉頭	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 スピーカ付きマウスピース。喉頭がん術後患者など発声障害の患者などに対して使用することで、声によるコミュニケーションが可能となる			
医療技術名	デジタル技術を駆使した顎顔面補綴装置の製作	取扱患者数	67
当該医療技術の概要 顎欠損患者の補綴治療は印象剤の迷入、誤飲誤嚥のリスクを伴うことが多い。口腔内スキャナーなどを駆使して安全に顎顔面補綴装置を製作する工夫をしている			
医療技術名	顎顔面欠損患者の発音検査	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 顎顔面欠損患者は発話に障害を持つことが多い。音響分析機器を用いて客観的に発話を分析し、診療に役立てている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	7,808

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ミュージックスプリントの製作と音楽家の歯科治療	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 管楽器演奏時に軟組織を守るミュージックスプリントという装置を製作している。その他にも管楽器奏者が安心して歯科治療を受けられるようにサポートしている。			
医療技術名	放射線治療補助装置の製作	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 口腔がんの放射線治療を行う際に、周囲組織を放射線から守るスペイサやシールド、放射線を的確に位置づけるモールドやキャリアなどの装置を製作している			
医療技術名	口臭ガスクロマトグラフィーを用いた口臭診断	取扱患者数	689
当該医療技術の概要 高精細な口臭測定器であるガスクロマトグラフィーを用いて口臭の原因物質である揮発性硫黄化合物の濃度を測定し、認知閾値を基準に口臭を評価する。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	3
取り扱い患者数の合計(人)	756

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	24	56	IgA 腎症	58
2	筋萎縮性側索硬化症	32	57	多発性嚢胞腎	45
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	黄色靱帯骨化症	33
4	原発性側索硬化症	1	59	後縦靱帯骨化症	154
5	進行性核上性麻痺	8	60	広範脊柱管狭窄症	29
6	パーキンソン病	89	61	特発性大腿骨頭壊死症	62
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	下垂体性ADH分泌異常症	17
8	ハンチントン病	2	63	下垂体性TSH分泌亢進症	2
9	神経有棘赤血球症	1	64	下垂体性PRL分泌亢進症	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	クッシング病	5
11	重症筋無力症	128	66	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	129	67	下垂体前葉機能低下症	37
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	49	68	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	5
14	封入体筋炎	5	69	先天性副腎皮質酵素欠損症	24
15	多系統萎縮症	33	70	先天性副腎低形成症	1
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	191	71	アジソン病	1
17	ライソゾーム病	5	72	サルコイドーシス	147
18	副腎白質ジストロフィー	1	73	特発性間質性肺炎	127
19	ミトコンドリア病	11	74	肺動脈性肺高血圧症	12
20	もやもや病	213	75	慢性血栓性肺高血圧症	11
21	プリオン病	2	76	リンパ脈管筋腫症	3
22	進行性多巣性白質脳症	2	77	網膜色素変性症	19
23	HTLV-1関連脊髄症	3	78	特発性門脈圧亢進症	3
24	特発性基底核石灰化症	1	79	原発性胆汁性胆管炎	25
25	全身性アミロイドーシス	38	80	旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	
26	遠位型ミオパチー	1	81	原発性硬化性胆管炎	10
27	神経線維腫症	14	82	自己免疫性肝炎	14
28	天疱瘡	24	83	クローン病	699
29	表皮水疱症	1	84	潰瘍性大腸炎	1396
30	膿疱性乾癬(汎発型)	7	85	好酸球性消化管疾患	4
31	高安動脈炎	122	86	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
32	巨細胞性動脈炎	18	87	クリオピリン関連周期熱症候群	9
33	結節性多発動脈炎	14	88	若年性特発性関節炎	35
34	顕微鏡的多発血管炎	41	89	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	
35	多発血管炎性肉芽腫症	34	90	ブラウ症候群	1
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	53	91	先天性ミオパチー	1
37	悪性関節リウマチ	24	92	筋ジストロフィー	9
38	バージャー病	14	93	アイザックス症候群	1
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	9	94	脳表ヘモジデリン沈着症	32
40	全身性エリテマトーデス	430	95	前頭側頭葉変性症	2
41	皮膚筋炎／多発性筋炎	260	96	アレキサンダー病	1
42	全身性強皮症	128	97	片側巨脳症	1
43	混合性結合組織病	52	98	限局性皮質異形成	1
44	シェーグレン症候群	108	99	神経細胞移動異常症	1
45	成人スチル病	38	100	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2
46	再発性多発軟骨炎	14	101	ウエスト症候群	2
47	ベーチェット病	191	102	大田原症候群	1
48	特発性拡張型心筋症	37	103	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
49	肥大型心筋症	9	104	結節性硬化症	2
50	再生不良性貧血	28	105	色素性乾皮症	1
51	自己免疫性溶血性貧血	5	106	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16
52	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	107	特発性後天性全身性無汗症	110
53	特発性血小板減少性紫斑病	33	108	マルファン症候群	6
54	血栓性血小板減少性紫斑病	3	109	エーラス・ダンロス症候群	2
55	原発性免疫不全症候群	187	110	ウィルソン病	1
				ウィリアムズ症候群	1
				歌舞伎症候群	1

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	ウェルナー症候群	1	161		
112	修正大血管転位症	2	162		
113	単心室症	2	163		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

114	ファロー四徴症	2	164	
115	アルポート症候群	4	165	
116	急速進行性糸球体腎炎	3	166	
117	一次性ネフローゼ症候群	59	167	
118	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	168	
119	紫斑病性腎炎	4	169	
120	先天性腎性尿崩症	2	170	
121	オスラー病	2	171	
122	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	172	
123	副甲状腺機能低下症	2	173	
124	偽性副甲状腺機能低下症	1	174	
125	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	175	
126	筋型糖原病	1	176	
127	脳髄黄色腫症	1	177	
128	脂肪萎縮症	2	178	
129	家族性地中海熱	15	179	
130	慢性再発性多発性骨髓炎	4	180	
131	強直性脊椎炎	42	181	
132	進行性骨化性線維異形成症	1	182	
133	骨形成不全症	1	183	
134	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4	184	
135	後天性赤芽球癆	2	185	
136	遺伝性鉄芽球性貧血	1	186	
137	クローンカイト・カナダ症候群	1	187	
138	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	188	
139	胆道閉鎖症	2	189	
140	IgG4関連疾患	29	190	
141	遅発性内リンパ水腫	3	191	
142	好酸球性副鼻腔炎	31	192	
143	遺伝性自己炎症疾患	3	193	
144	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2	194	
145	特発性多中心性キャッスルマン病	14	195	
146	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	2	196	
147			197	
148			198	
149			199	
150			200	
151			201	
152			202	
153			203	
154			204	
155			205	
156			206	
157			207	
158			208	
159			209	
160			210	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	146
合計患者数(人)	6,343

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1)／入院栄養管理体制加算	・呼吸ケアチーム加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟10:1)	・術後疼痛管理チーム加算
・医療DX推進体制整備加算4	・後発医薬品使用体制加算2
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1、2
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算1、2
・診療録管理体制加算2	・入退院支援加算2／総合機能評価加算
・医師事務作業補助体制加算1(15:1)	・認知症ケア加算1
・急性期看護補助体制加算(25:1)／看護補助体制充実加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護職員夜間配置加算	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1、2	・地域医療体制確保加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)(密封小線源による場合)	・救命救急入院料1、2／精神疾患診断治療初回加算／救急体制充実加算1／小児加算
・緩和ケア診療加算	・早期離床・リハビリテーション加算(救命救急入院料2)
・小児緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1(注1算定上限日数に関する基準)／小児加算
・精神科身体合併症管理加算	・早期離床・リハビリテーション加算／早期栄養介入管理加算
・精神科リエゾンチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・がん拠点病院加算	・小児入院医療管理料2／プレイルーム加算ロ／無菌治療管理加算1 養育支援体制加算
・栄養サポートチーム加算	・緩和ケア病棟入院料1
・医療安全対策加算1	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・感染対策向上加算1／指導強化加算／抗菌薬適正使用体制加算	・歯科外来診療医療安全対策加算2
・患者サポート体制充実加算	・歯科外来診療感染対策加算4
・重症患者初期支援充実加算	・歯科診療特別対応連携加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・歯科・情報通信機器を用いた診療
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・看護職員処遇改善評価料(68)	・禁煙治療補助システム指導管理加算
・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	・療養・就労両立支援指導料／相談支援加算
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	・がん治療連携計画策定料
・入院ベースアップ評価料(92)	・がん治療連携管理料
・外来栄養食事指導料の注3	・外来がん患者在宅連携指導料
・心臓ペースメーカー指導管理料／遠隔モニタリング加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・高度難聴指導管理料	・外来排尿自立指導料
・腎代替療法実績加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料1、2
・糖尿病合併症管理料	・薬剤管理指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料／難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・地域連携診療計画加算(診療情報提供料(Ⅰ))
・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	・医療機器安全管理料1、2
・外来緩和ケア管理料	・救急患者連携搬送料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植)	・遠隔モニタリング加算(在宅酸素療法指導管理料、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)
・糖尿病透析予防指導管理料／高度腎機能障害患者指導加算	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算 (間歇注入シリンジポンプと連動する／しない持続血糖測定器を用いる場合)
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査の注1・2／絨毛染色体検査
・生殖補助医療管理料1	・骨髓微小残存病変量測定
・二次性骨折予防継続管理料1、3	・BRCA1／2遺伝子検査
・アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・下肢創傷処置管理料	・遺伝子相同組換え修復欠損検査
・院内トリアージ実施料	・先天性代謝異常症検査
・外来放射線照射診療料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・外来腫瘍化学療法診療料1／連携充実加算／がん薬物療法体制充実加算	・HPV核酸検出、HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ニコチン依存症管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・ポジトロン断層撮影／ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影／ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)(一連の検査につき)
・検体検査管理加算(Ⅰ)、(Ⅳ)	・コンピューター断層撮影(CT撮影)／磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)
・国際標準検査管理加算	・冠動脈CT撮影加算／外傷全身CT加算／心臓MRI撮影加算／乳房MRI撮影加算 小児鎮静下MRI撮影加算／頭部MRI撮影加算／全身MRI撮影加算
・遺伝カウンセリング加算／遠隔連携遺伝カウンセリング	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・肝エラストグラフィ加算
・長期継続頭蓋内脳波検査 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・時間内歩行試験／シャトルウォーキングテスト	・外来化学療法加算1／連携充実加算
・胎児心エコー法	・無菌製剤処理料
・ヘッドアップティルト試験	・疾患別リハビリテーション／心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)／運動器リハビリテーション料(Ⅰ)呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・皮下連続式グルコース測定	・がん患者リハビリテーション料
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・集団コミュニケーション療法料
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・通院・在宅精神療法／早期診療体制充実加算
・脳波検査判断料1	・救急患者精神科継続支援料
・単線維筋電図	・精神科ショート・ケア「大規模なもの」／精神科デイ・ケア「大規模なもの」
・神経学的検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・補聴器適合検査	・医療保護入院等診療料
・黄斑局所網膜電図、全視野精密網膜電図	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・コンタクトレンズ検査料1	・多血小板血漿処置
・小児食物アレルギー負荷検査	・硬膜外自家血注入
・内服・点滴誘発試験	・エタノールの局所注入(甲状腺又は副甲状腺に対する局所注入に限る)
・経頸静脈的肝生検	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合)／導入期加算2 透析液水質確保加算／慢性維持透析濾過加算／下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・血漿交換療法／難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法 ／移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・CT透視下気管支鏡検査加算	・ストーマ合併症加算
・経気管支凍結生検法	・センチネルリンパ節加算／皮膚悪性腫瘍切除術
・画像診断管理加算1、4	・自家脂肪注入
・遠隔画像診断(画像診断管理加算4)	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る) ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術乳房切除後)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・処理骨再建加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2／センチネルリンパ節生検(併用、単独)、乳腺悪性腫瘍手術
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの))
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)／脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術・交換術	・内視鏡による縫合術・閉鎖術 食道縫合術(穿孔、損傷)／内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術／胃瘻閉鎖術／小腸瘻閉鎖術／結腸瘻閉鎖術／腎(腎盂)腸瘻閉鎖術／尿管腸瘻閉鎖術／膀胱腸瘻閉鎖術／陰腸瘻閉鎖
・頭蓋内電極植込術(脳深部電極(7本以上))	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・仙骨神経刺激装置植込術・交換術(便失禁、過活動膀胱)	・胸腔鏡下弁形成術・弁置換術
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)(経カテーテル的手術によるもの)
・網膜再建術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術	・ペースメーカー移植術・交換術
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・ペースメーカー移植術・交換術(リードレスペースメーカー)
・人工中耳植込術／人工内耳植込術／植込型骨導補聴器移植術・交換術	・両心室ペースメーカー移植術・交換術(心筋電極の場合)
・耳管用補綴材挿入術	・両心室ペースメーカー移植術・交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・植込型除細動器移植術・交換術(心筋リードを用いるもの)
・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)植込型除細動器交換術(その他のもの)／経静脈電極抜去術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術・軟口蓋悪性腫瘍手術／鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術(心筋電極の場合)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術／内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)	・補助人工心臓

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・骨格筋由来細胞シート心表面移植術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的下肢動脈形成術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外) 埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術／腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術／腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術／腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術／腹腔鏡下小切開副腎摘出術／腹腔鏡下小切開腎部分切除術／腹腔鏡下小切開腎摘出術／腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術／腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術／腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術／腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・精巣内精子採取術
・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術／腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃切除術／腹腔鏡下噴門側胃切除術 腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る) 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、(2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生体部分肝移植術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術／腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもの) (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膵中央切除術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び 腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・遺伝性乳癌卵巣癌症候群に係る手術 乳房切除術・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血管理料Ⅰ／貯血式自己血輸血管理体制加算
・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・コーディネート体制充実加算
・膀胱水圧拡張術	・自己生体組織接着剤作成術 自己クリオプレシピテート作製術(用手法)／同種クリオプレシピテート作製術

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・口腔粘膜血管腫凝固術
・レーザー機器加算	・歯周組織再生誘導手術
・麻酔管理料(Ⅰ)、(Ⅱ)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・放射線治療専任加算／外来放射線治療加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。) 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・高エネルギー放射線治療	・顎関節人工関節全置換術(歯科診療に係るものに限る。)
・1回線量増加加算	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療に係るものに限る。)
・強度変調放射線治療(IMRT)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・歯科麻酔管理料
・体外照射呼吸性移動対策加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・定位放射線治療／定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・画像誘導密封小線源治療加算	・歯科技工士連携加算1／光学印象歯科技工士連携加算
・保険医療機関間の連携による病理診断	・歯科技工士連携加算2
・病理診断管理加算	・光学印象
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・歯科矯正診断料
・在宅療養支援歯科病院	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。) の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・在宅総合医療管理加算／在宅患者歯科治療時医療管理料	・口腔病理診断管理加算1
・口腔細菌定量検査	・
・有床義歯咀嚼機能検査／咀嚼能力検査／咬合圧検査	・
・精密触覚機能検査	・
・睡眠時歯科筋電図検査	・
・歯科画像診断管理加算1、2	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・手術用顕微鏡加算	・
・口腔粘膜処置	・
・歯根端切除手術の注3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・流産検体を用いた染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	各科CPC 7回、総合CPC 9回、その他のカンファレンスとして婦人科11回、脳外科10回、乳腺6回、腎生検12回、消化器6回、血液内科11回、肝生検6回を開催	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	13
	剖検率(%)	2.9

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。
(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
ナノプラズモニクスに向けたハイブリッドナノデバイス作製技術の開発	大久保 喬平	口腔デバイス・マテリアル学分野	3,102,734	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎におけるIL-17、好中球の慢性化を含めた経時的な役割の検討	石塚 聖洋	肺免疫治療学講座	1,110,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Intraoperative real-time non-invasive cerebral blood flow analysis by Laser Speckle Contrast Imaging	清水 一秀	脳神経機能外科学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脊髄小脳変性症における平衡覚認知能の定量解析	竹田 貴策	耳鼻咽喉科学	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Functional MRIを用いた子どもの不正咬合と脳活動の縦断研究	森山 啓司	顎顔面矯正学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
生活習慣病の適切な受診間隔についての研究	福原 真理	総合診療科	210,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
異所性骨化における線溶系酵素の役割の解明と新規骨形成薬の開発	吉井 俊貴	整形外科学	3,510,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
固体核磁気共鳴法による、フッ化物含有生体活性ガラスの歯質欠損修復機能の解析	平石 典子	う蝕制御学	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
子どものウェルビーイングを最大化するオンラインの社会的つながりとその機序の解明	杉原 玄一	精神行動医科学	585,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝癌ゲノム情報と癌微小環境の空間的多様性の機械学習による臨床予測モデルの構築	北畑 富貴子	検査部	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳血流量の変化を指標とした慢性疼痛患者の脳機能評価	仙頭 佳起	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	39,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症心身障害児(者)の続発性骨粗鬆症の病態を解明し、治療方法を作成する。	酒井 朋子	リハビリテーション部	260,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超高齢化社会における転倒リスク評価のための重力認知機能パラメータ開発	堤 剛	耳鼻咽喉科学	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
再発転移頭頸部癌に対する近赤外光線免疫療法症例におけるバイオマーカー探索研究	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔機能低下症とフレイルの縦断調査:口腔機能におけるフレイルリスク因子の解明	濱 洋平	高齢者歯科学	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
上顎インプラントオーバーデンチャーは2本のインプラントで機能するか?	岩城 麻衣子	口腔デジタルプロセス学分野	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高位脛骨骨切り術前後の患者のランニング中の膝内反モーメントを抑える運動療法の開発	大見 武弘	スポーツサイエンスセンター	585,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯科矯正用アンカースクリュー植立に伴う骨損傷が周囲軟組織の免疫応答に与える影響	上園 将慶	矯正歯科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
唾液腺発生における神経-器官相互作用の分子機構の解明と機能再生技術への応用	真藤 裕基	小児歯科(専)障害者歯科外来	260,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
革新的な標的臓器特異的核酸医薬品の開発	永田 哲也	核酸・ペプチド創薬治療研究センター(脳神経内科)	8,970,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
難治性消化管疾患に対する統合オルガノイド医療の創成	岡本 隆一	消化器病態学	11,830,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
オルガノイドデザインによる臓器創出と移植による全身制御	油井 史郎	再生医療研究センター(消化器内科)	2,600,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
非定型抗精神病薬による血糖値異常のメカニズム解明および予防法の開発	永田 将司	薬剤部	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
RAN翻訳を抑制するRGq核酸の開発研究	石黒 太郎	脳神経内科	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規自己抗体が形成する進行性・難治性精神疾患のシナプス病態の解明	塩飽 裕紀	精神行動医科学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳画像における精神疾患の特徴量抽出を可能にする汎用性の高い深層学習モデルの構築	杉原 玄一	精神行動医科学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
[F-18]FAZA PETによる大型血管炎の低酸素イメージング、診断体系の確立	土屋 純一	放射線診断科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好中球減少とB細胞欠損に共通する発症機構の解明に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
患者由来大腸オルガノイド移植法を用いたdysplasia-PDOXモデルの開発	福田 将義	光学医療診療部	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞傷害性リンパ球を応用した炎症性腸疾患新規治療法の開発	長堀 正和	臨床試験管理センター	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウイルス制御下の肝病態制御機構に関与する新規標的分子の探索	中川 美奈	統合教育機構(消化器内科)	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
オルガノイド培養系を用いた膵充実性偽乳頭腫瘍の成立・悪性化機序の解明	岡本 隆一	消化器病態学	260,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患病態におけるT-T presentationの役割の解明	岡本 隆一	消化器病態学	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心房細動アブレーションによる洞調律化が認知機能に与える効果の解明	宮崎 晋介	先進不整脈学講座	1,885,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞を介した、心房細動が合併症を生じる機構の解明と次世代先制医療への応用	笹野 哲郎	循環制御内科学	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間質性肺炎急性増悪の病態解明:GM-CSFによるペリサイト、マクロファージの制御	立石 知也	呼吸・睡眠制御学講座	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
サルコイドーシスの肺病変線維化と遺伝子素因	古澤 春彦	統合呼吸器病学	390,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
造血幹細胞移植後のトキシプラズマ症診断におけるPCR法の有用性の検討と臨床応用	森 毅彦	血液内科学	585,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
細胞内浸透抗体-CpG-ODN複合体を用いた難治性B細胞リンパ腫治療の可能性	長尾 俊景	血液内科学	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチの滑膜細胞サブセット由来細胞外小胞の網羅的解析と診断・治療への応用	齋藤 鉄也	膠原病・リウマチ内科学	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルドステロン産生腺腫におけるWNTシグナルの新規制御因子に着目した病態解析	村上 正憲	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経内分泌腫瘍におけるマルチアナライトバイオマーカーの創設と疾患管理	工藤 篤	医療安全管理部	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
力覚提示機能を有する次世代手術ロボットを用いた心臓手術の力学的基礎データの検討	長岡 英気	心臓血管外科学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児患者の全身麻酔時の脳波変化とmicrovesiclesの役割についての検討	遠山 悟史	心肺統御麻酔学	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管虚血再灌流障害後の炎症収束脂質メディエーターへの迷走神経刺激の影響の解明	森下 幸治	救急災害医学	585,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心電図解析によるてんかん患者の発作予後予測に関する検討	稲次 基希	脳神経機能外科学	65,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
側頭葉てんかん低代謝域の電気生理解析による新たなてんかんネットワーク概念の確立	前原 健寿	脳神経機能外科学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3D MRIを用いた変形性膝関節症の診断－関節鏡、単純X線、超音波検査との比較	大関 信武	再生医療研究センター(整形外科)	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規骨形成薬の局所注入による骨形成促進治療の開発とメカニズムの検討	吉井 俊貴	整形外科	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞の可逆性、可塑性の分子機序の解析	古賀 英之	運動器外科学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3次元MRI半月板定量化による住民コホートにおける変形性膝関節症の自然経過の解明	片野 尚子	再生医療研究センター(輸血・細胞治療センター)	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性疼痛下における後根神経節ニューロンとグリア細胞連関	辻 邦和	整形外科	195,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規RASシグナル阻害剤の頭頸部癌治療応答基盤解明	加納 嘉人	臨床腫瘍学	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内耳血液迷路関門の透過性制御に基づく薬剤性難聴の予防手段の樹立	西尾 綾子	耳鼻咽喉科	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自家移植組織の“質”に迫る First Step ～汗腺の術後機能回復に着目して	田中 顕太郎	生体組織再建外科学分野	585,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低酸素特異的転写調節因子HIF1 α が誘導する歯髄組織特異的硬組織誘導のメカニズム	興地 隆史	歯髄生物学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲細菌叢を規定する危険因子を探る:疾患の発症予測モデル構築に向けて	下岸 将博	口腔再生再建学分野	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
マルチオミクス解析から紐解く新規インプラント周囲炎診断法の確立	駒津 匡二	生涯口腔保健衛生学分野	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨折治癒過程をモデルにした骨欠損部の血流不足を改善させる新たな骨再生法の開発	丸川 恵理子	口腔再生再建学分野	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
睡眠時無呼吸症の口腔内装置療法の治療効果予測と検証ー予測モデルと内視鏡での判定ー	秀島 雅之	義歯科(専)快眠歯科(いびき・無呼吸)外来	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
革新的数理科学的解析によるモノリシックジルコニア接着ブリッジ設計と臨床術式の確立	猪越 正直	高齢者歯科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ハイフレックス型授業の補綴学習効果を解明するランダム化比較試験	笛木 賢治	咬合機能健康科学分野	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咬合調整フリー歯冠補綴装置の作製を可能にする革新的診療プロセスの構築	駒田 亘	咬合機能健康科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
若年胃ろう患者に対する摂食嚥下訓練の有効性および胃ろう食が腸内細菌叢に及ぼす影響	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯科心身症の疾患横断的な診断・治療法の開発とサブタイプの同定	豊福 明	歯科心身医学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
周術期脳虚血モデルでの原因遺伝子の解析とデクスメトミジンの脳保護作用機序	前田 茂	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
多孔性テーラーメイドゲル材料を用いた柔軟な舌筋の再生	原田 浩之	顎口腔腫瘍外科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顔面骨折治療支援に向けた骨構造FE解析とCAD形態解析による多面的評価の研究	中禮 宏	義歯科	806,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯の異常に多様性をもたらす分子機構の解明へ向けた組織特異的横断的オミクス解析	小川 卓也	顎顔面矯正学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面領域におけるエビジェネティックな見地からみた上皮間葉ネットワークの解明	東堀 紀尚	顎顔面矯正学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超音波画像診断装置を用いた舌運動-頬舌圧同時記録法による口腔機能の定量的解析	辻 美千子	顎顔面矯正学	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咀嚼機能低下がマイオカインを介し顎顔面領域と全身に与える病態メカニズムの解明	加藤 千帆	矯正歯科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
力学的解析に基づいた改良型超弾性Ti-Ni合金ワイヤーの臨床応用に向けた取り組み	米満 郁男	矯正歯科	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
海馬における記憶・学習機能の評価による、成長期咀嚼刺激回復の生物学的意義の検証	小野 卓史	咬合機能矯正学	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日本でしか実証できない加熱式タバコと口腔の健康の大規模コホート研究	伊藤 奏	健康支援口腔保健衛生学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ニューノーマル時代の臨床推論能力育成システムの開発と評価	新田 浩	総合診療歯科学	364,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
嚥下障害患者に用いるとろみ調整食品の栄養吸収代謝に関わる基礎的検討	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
接種理論を用いた診療参加型臨床実習における医行為の推進のための戦略の開発	岡田 英理子	臨床医学教育開発学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
選択的自己多血小板血漿の筋内投与による筋損傷修復機序の解明	宮武 和正	運動器外科学	1,287,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
化合物スクリーニングによる小児肝芽腫に対する新規治療候補薬の機能解析	水野 裕貴	国際医療部	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性T細胞の検出	野上 彩子	臨床検査医学	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
個別化医療を目指した小児全身性エリテマトーデスの免疫学的再分類	伊良部 仁	小児科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
蛍光色素変換を用いた腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞traffickingの解析	森川 亮	消化器内科	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高密度マッピングによる多形性心室頻拍のリエントリー回路の解明と治療への応用	西村 卓郎	循環器内科	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性筋疾患における免疫疲弊分子及びエフェクター分子に着目した免疫表現型の解析	佐々木 広和	膠原病・リウマチ内科	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
進行膵癌の根治可能症例を見極める:オルガノイドを用いた遺伝子解析	浅野 大輔	肝胆膵外科	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児急性脳症マウスモデルの確立と低体温・平温療法の効果の比較検討	野坂 宜之	生体集中管理学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝蓋下脂肪体線維化に対するヒアルロン酸シート移植治療の効果と作用機序の検討	中川 裕介	軟骨再生学講座	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
下肢スポーツ整形外科領域におけるT1 VIBE MRIによる骨評価の有用性の検討	片倉 麻衣	運動器外科学	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規骨形成促進薬・高分子化合物複合体の開発と前臨床的動物モデルによる効果の実証	江川 聡	整形外科治療開発学講座	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新しい椎間板変性治療	松倉 遊	整形外科	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
核酸・蛋白情報とイムノグラムを併用した軟部肉腫浸潤性の病態解明	船内 雄生	整形外科	390,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
摂食行動関連分子群および神経回路の観点からストレス応答に対する行動変化を解明する	遠井 政行	口腔健康管理科	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌の抗PD-1抗体治療効果を予測する、免疫応答を多角的に捉えた新規評価系樹立	西井 直人	口腔外科	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自動根管形成・応力解析装置を用いた、NiTiファイルによる根管形成の規格化解析	牧 圭一郎	むし歯科	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
ディスプレイを考慮したインプラント周囲炎に対する新規治療戦略の構築	駒津 匡二	生涯口腔保健衛生学分野	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CAD/CAM冠脱離防止の為に切削抵抗測定に基づいた切削加工プロセスの開発	松村 茉由子	義歯科(専)歯科アレルギー外来	2,210,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
405nm波長光および光触媒を利用した双方向からの義歯清掃方法の開発	高草木 謙介	義歯科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PEEKと弾性を有する熱可塑性樹脂を用いたフルデジタルノンメタル部分床義歯の開発	副田 弓夏	義歯科	300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
閉塞性睡眠時無呼吸における、分離型口腔内装置の有効性に関するランダム化比較試験	石山 裕之	義歯科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
舌痛症の病態とその治療薬としての立効散の効果の検討	井村 紘子	歯科麻酔科(専)歯科ペインクリニック	1,950,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Ra-224線源からのα線が口腔がん細胞へ及ぼす致死効果の解明と至適刺入法の確立	野島 瞳	歯科放射線科	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢者の口腔保健格差は正に向けた公的扶助制度の役割の検討	木野 志保	健康推進歯学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疑似ランダム化比較試験による口腔の全身影響の解明と医療経済評価指標の開発	松山 祐輔	健康推進歯学	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
EWS自動アラートによる新たなRapid response systemの構築	野口 綾子	集中治療部	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腱板断裂患者の異常肩甲骨リズム検知のための深度センサを利用した形態学的運動解析	井原 拓哉	運動器機能形態学講座	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
癌免疫療法におけるPD-1ーPD-L1/2経路の細胞群間格差の解析	沖山 奈緒子	皮膚科学	2,080,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎オルガノイドを用いたForward Geneticによる腎線維化制御機構の探索	蘇原 映誠	腎臓内科学	2,080,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヘッジホッグシグナルによる歯周組織形成および再生機構の解明	永田 瑞	歯周病学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
EBV由来miRNAによる慢性活動性EBウイルス感染症の発症機構解明と治療法開発	吉森 真由美	輸血・細胞治療センター	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
4Dプリント技術を応用したデジタル全部床義歯の開発	羽田 多麻木	高齢者歯科学分野	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DRPLAに対する核酸医薬を用いた遺伝子治療確立のための国際共同研究	中山 東城	脳神経病態学	2,990,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
先天性頭頸部一心臓一上肢疾患解明に向けたエピゲノム因子の制御機構の理解	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学分野	1,950,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疾患／臓器／領域レベルでのアナジー誘導性抗原提示細胞;DNT細胞研究の拡大	根本 泰宏	消化器病態学	6,890,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
発達障害における注意動態と社会行動の変容に関するメカニズム	藤野 純也	精神行動医科学	3,510,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒト脳の予測機構とその変容の理解	高橋 英彦	精神行動医科学	25,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
中皮腫におけるHuR細胞質発現による薬剤耐性獲得メカニズムの解明	桐村 進	病理部	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CRISPR screeningデータベースを用いた、BRCA変異乳癌の新たな 合成致死因子同定	大西 威一郎	病理部	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性筋疾患における病態増悪マクロファージサブセットの同定と新規治療開発	梅澤 夏佳	膠原病・リウマチ内科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ゲーム依存と発達障害の併存とその神経メカニズム	藤野 純也	精神行動医科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低活動型せん妄に対する生理学的指標を用いた早期検出手法の開発	竹内 崇	精神行動医科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
放射線治療は高齢がん患者に優しい治療なのか？ 優しくできる治療なのか？	吉村 亮一	腫瘍放射線治療学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
体細胞分化転換機構から解明する性の多様性と性分化疾患の病態	鹿島田 健一	発生発達病態学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
蛋白アレイを用いた若年性特発性関節炎の特異的自己抗体の探索	清水 正樹	小児科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
HBVゲノム挿入iPS細胞と肝癌組織検体を用いたHBV integrationによる発癌機序の解明	岡本 隆一	消化器病態学	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クローン病小腸病変における区域依存的幹細胞特性の解析と再生医療への応用	大塚 和朗	光学医療診療部	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸上皮創傷治癒におけるReg3aの機能解析	伊藤 剛	消化器病態学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管局所的JAKシグナル阻害によるIBD新規治療法開発	藤井 俊光	消化器連携医療学講座	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クローン病小腸狭窄病変に対する内視鏡治療後予後改善を目指した治療法の開発	日比谷 秀爾	光学医療診療部	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
背景粘膜から見た潰瘍性大腸炎関連大腸癌のリスク解析	清水 寛路	消化器内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
異常RNA顆粒による心臓病態形成メカニズムの検討	井原 健介	循環制御内科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光ファイバによる圧力検知機構を有し先端駆動操作が可能な心筋生検ロボット鉗子の開発	梅本 朋幸	循環器内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎発症における活性化B細胞の分子機構およびその臨床的意義の解明	岡本 師	長寿・健康人生推進センター	3,120,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
PD-1/PD-L1チェックポイント経路阻害による自然発症尋常性白斑の病態解明	沖山 奈緒子	皮膚科学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シングルセル解析を用いた間葉系幹細胞エクソソームによる膵β細胞再生機構の解明	小宮 力	分子内分泌代謝学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵神経内分泌腫瘍のPDXモデル樹立と維持	工藤 篤	医療安全管理部	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
4DCTから作成された3D心臓モデルを用いた僧帽弁形成術を標準化するための基盤研究	藤田 知之	心臓血管外科学	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病のバイオマーカーを応用した周術期神経認知障害の発症予測と機序解明	仙頭 佳起	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	1,586,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
MRIを用いたもやもや病のGlymphatic system機能と血液脳関門透過性変化の解明	原 祥子	脳神経外科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脂質代謝をターゲットとした悪性脳腫瘍の治療抵抗性機序の解明とその克服	田村 郁	医療連携支援センター	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
SEEG頭蓋内脳波記録によるSUDEPメカニズムの解明	稲次 基希	脳神経機能外科学	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
末梢神経障害性疼痛モデルにおける後根神経節マクロファージを標的とした新規治療	平井 高志	整形外科学	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
大動物を用いた膝屈筋腱による半月板再建の関節内成熟過程の解明	中村 智祐	運動器外科学	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
空間的/質的/経時的評価を可能とするbiomarker樹立:全身DWIのdelta-radiomics解析	吉田 宗一郎	腎泌尿器外科学	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
淡明細胞型腎細胞癌における浸潤性増殖能獲得のプロセスと腫瘍免疫学的背景の解明	田中 一	腎泌尿器外科学	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠期におけるサルコペニア肥満の臨床的意義に関する研究	江川 真希子	血管代謝探索研究部門(遺伝子診療科)	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
酸素ナノバブル水は再建手術の時間を止めるか～耐低酸素能と皮弁阻血時間に着目して～	上野 麻由	生体組織再建外科学分野	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
空間的オミクス解析で紐解く骨粗鬆症における歯周組織の創傷治癒メカニズム	前川 祥吾	歯周病学	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3DプリンターによるNCCL発生メカニズムの解明 -摩耗とアプフラクション-	池田 正臣	口腔医療工学分野(歯科技工部)	65,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯牙硬組織内の光伝搬解析と歯髄血流測定による非侵襲歯髄診断システムの開発	柿野 聡子	小児歯科学・障害者歯科学分野	1,495,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
カルシウムイオン電導を起因とする超高密度表面電荷誘起β-TCPの骨再生制御	野崎 浩佑	生体補綴歯科学分野	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
覚醒時ブラキシズムの超短時間検査方法の確立と診断基準の決定	西山 暁	総合診療歯科学	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
金属ナノ粒子担持チタニアナノシートを用いた抗菌性ジルコニア歯科補綴装置の開発	野崎 浩佑	生体補綴歯科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部悪性腫瘍による下顎骨浸潤および神経周囲進展の非侵襲的画像評価法の確立	栗林 亜実	歯科放射線科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
原発性骨内癌の病態解明による新規診断技術・革新的治療法開発の基盤構築研究	黒嶋 雄志	顎口腔腫瘍外科学分野	1,521,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔内設置型ワイヤレス受信コイル導入によるデンタルMRIの確立	渡邊 裕	歯科放射線診断・治療学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がん患者の再発リスク層別化にむけたFDG-PET/CTのテクスチャ解析の応用	中村 伸	歯科放射線診断・治療学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
乳幼児睡眠時無呼吸症における軟骨代謝障害の疾患感受性遺伝子の同定	細道 純	咬合機能矯正学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
エキソソームsiRNAを応用した頭蓋骨縫合部早期癒合症に対する新規治療法開発基盤	小林 起穂	矯正歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顔面非対称患者における嚥下時舌運動の解析: MRI動画法を用いた検討	井上 貴裕	矯正歯科	975,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
回復期リハビリテーション病院入院患者に対する歯科口腔管理のエビデンス構築	吉見 佳那子	摂食嚥下リハビリテーション学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
社会的処方とは口腔の健康に寄与するか: 系統的レビューとJAGESデータによる検証	相田 潤	健康推進歯学	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
終末期高齢者の在宅医療におけるキーパーソンによる意思決定支援の実証研究	木村 琢磨	介護・在宅医療連携システム開発学講座	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
安全で質の高い外来抗がん剤治療確立のための生涯学習プログラム	浜本 康夫	臨床腫瘍学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
外傷急性期治療としてのアイシングの影響と、高圧・高酸素併用治療の有効性の検討	柳下 和慶	教養教育部門(スポーツ医学診療センター)	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝予備能・線維化指標を活用した免疫抑制薬の至適投与量を予測する母集団薬物動態解析	平井 利典	薬剤部	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
がん幹細胞を標的とした近赤外光線免疫療法プラットフォームの確立	岡田 隆平	頭頸部外科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
定位頭蓋内脳波(sEEG)を用いた複雑な記憶の脳内機構解明-リップル波に注目して	高木 俊輔	精神科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
早期舌癌への定位放射線治療実現を目的とした吸引固定型スぺーサー開発	長野 拓也	腫瘍放射線治療学	1,540,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Dual-energy CTを用いた頸動脈プラークの脆弱性の定量評価	平井 作京	血管内治療学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
患者由来細胞を用いた腸上皮傷害・再生反復刺激モデルによる炎症性腸疾患の病態解析	藤井 悟	消化器病態学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
慢性肝疾患の長期予後改善に資する精緻サーベイランス系の開発	金子 俊	消化器内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
原発性眼球内リンパ腫の中枢神経浸潤の機序の解明	吉藤 康太	血液内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クローン造血による後天性骨髄不全症の発症および白血病進展メカニズムの解明	岡部 基人	血液内科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
複数の抗原を認識し拡張性を高めたキメラ抗原受容体(CAR)-T細胞療法の開発	青山 慧	臨床腫瘍学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
転移巣系統樹解析による膵癌オリゴ転移の判別	渡邊 秀一	肝胆膵外科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頭部外傷患者に対するAIを用いたPrecision Medicineの構築	阿部 大数	脳神経外科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
軟部組織損傷におけるアイシング及び高圧・高酸素併用治療の効果の検討	星野 傑	スポーツ医学診療センター	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
人工股関節のための最新非侵襲スマートフォン型手術ナビゲーションの開発と検証	高田 亮平	軟骨再生学講座	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
産後うつへのアロプレグナノロンの役割解明－周産期メンタルヘルスの向上を目指して	廣瀬 明日香	周産・女性診療科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
胎仔Leydig細胞分化におけるWnt/ β cateninシグナルの抑制的制御機構の解明	辻 敦美	総合教育研修センター	1,370,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3D動態解析とシングルセル解析を用いた歯髄マクロファージ機能の解明	田澤 建人	むし歯科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
メトホルミンが糖尿病ラットのインプラントオッセオインテグレーションにもたらす効果	齋藤 夏実	歯周病科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病モデルラットの歯周組織の治癒にメトホルミンが与える影響	城戸 大輔	歯科総合診療科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
空間オミクス解析による咬合性外傷原因因子の解明	土谷 洋輔	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
抗菌性・高強度・審美性を兼ね備えたデジタル義歯用3Dプリント光硬化性樹脂の開発	羽田 多麻木	高齢者歯科学分野	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
補綴治療に伴う食事指導は高齢者の腸内細菌叢のバランス改善に寄与するか	稲用 友佳	咬合機能健康科学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔内多発がんにおける口腔内細菌叢のメタゲノム解析	及川 悠	口腔外科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ctDNAを用いたメチル化解析によるOSCCの早期診断法の確立	清水 六花	口腔外科	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外圧環境を融合した新規プログラミング法の開発	杉本 明日菜	小児歯科	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
デジタルアナトミー技術に立脚した歯根膜メカノトランスダクション機構の解明	小笠原 毅	矯正歯科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
子ども食堂を拠点とした健口体験プログラムの効果検証	日高 玲奈	地域・福祉口腔機能管理学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
固形臓器移植後患者に対する抗菌薬適正使用に向けた戦略の構築	岡本 耕	統合臨床感染症学分野	1,800,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症外傷に対する早期昇圧剤併用の効果: 多施設ランダム化試験パイロットスタディ	高山 渉	救急災害医学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
医療施設における持続的な災害対策体制構築に向けた研究	宮前 繁	災害危機管理部	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アンチセンス核酸医薬の挑戦的脳デリバリー技術の創生	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	5,200,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Craniosynostosisにおける骨縫合部の間葉系幹細胞の老化	森山 啓司	顎顔面矯正学	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
社会実装に向けたRGB-DカメラとAIを活用した生理的な新規顎運動評価方法の考案	田中 裕香	矯正歯科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
早期胃癌のリンパ節転移を予測するDNAメチル化バイオマーカーモデルの開発	奥野 圭祐	消化管外科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PKAシグナル活性化によるLRBA欠損症に対する新規治療法の開発	原 悠	血液浄化療法部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
パネート細胞異常に着目したクローン病の病態解析と新規治療法の開発	松沢 優	疾患生理機能解析学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病における非古典的βカテニンリン酸化による遺伝子発現制御の解明	菊池 寛昭	血液浄化療法部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
冠動脈疾患患者に対する歯周病治療が冠動脈プラーク性状や臨床転帰に与える影響	杉山 知代	循環制御内科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ポリロタキサンを基盤とした足場による2型糖尿病ラットへの歯周組織再生療法の開発	秤屋 雅弘	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の新規予防戦略-「光」を活用した骨代謝制御の応用-	下平 剛	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨芽細胞由来エクソソームを用いた骨膜側からの骨再生	横田 香織	口腔インプラント科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
性暴力被害者への継続的支援(2)-PTSDの遠隔心理療法および被害時行動の研究	岡田 幸之	精神行動医科学	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疾患解明アプローチによる筋・骨組織の機能回復を目指した腱組織再生の分子基盤解析	依田 哲也	顎顔面外科学	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
第二世代ヘルスケアIoT技術を支える生体計測・解析プラットフォームの基盤構築	宮島 美穂	精神行動医科学	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
刑事裁判における争点整理・事実認定を見据えた責任能力論の課題解決	岡田 幸之	精神行動医科学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ARスマートグラスを用いた双方向性同期型遠隔歯科臨床技能教育システムの開発	新田 浩	総合診療歯科学	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
血液脳関門通過型核酸医薬としてのヘテロ核酸搭載グルコースミセルの開発	桑原 宏哉	脳神経病態学	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞を介した慢性腎臓病によるサルコペニア・腎性老化の全容解明	萬代 新太郎	腎臓内科学	5,070,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
グリオーシス回避を可能とする2本鎖核酸医薬の開発	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	4,160,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
発達段階のストレス暴露がPTSDのストレス応答制御機構に与えるメカニズムの解明	竹内 崇	精神行動医科学	1,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病態を再現するヒト肝臓オルガノイドの創成と肝星細胞脱活性化をめざした細胞種間解析	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	5,070,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
皮膚筋炎特異的自己免疫反応を基盤とする疾患モデル動物の確立と病態解析	沖山 奈緒子	皮膚科学	4,770,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
加齢や過栄養摂取が白色脂肪組織の細胞連関に及ぼす影響の解明	山田 哲也	分子内分泌代謝学	4,550,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経・血管の視点から解き明かす筋骨格系の恒常性維持機構と筋骨格系疾患の新たな病態	佐藤 信吾	緩和ケア科	5,360,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞エクソソームによる創傷治癒・抗炎症作用メカニズムの解析	岩田 隆紀	歯周病学	2,860,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
科学的介護情報システムを用いた包括的介護サービス研究	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	325,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
看護職者の“生きる力”を高める職場環境特性の解明と組織開発への応用	浅香 えみ子	看護部	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症心疾患患者の全身・嚥下・栄養状態に応じた介入プログラム開発と効果検証	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
割れないセラミック骨修復材料の創製	江川 聡	整形外科外科治療開発学講座	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
臨床応用可能な犬のiPS細胞を活用した動物用再生医療製品の開発のための基盤技術の確立	水野 満	再生医療研究センター(輸血・細胞治療センター)	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規計測技術による腫瘍制御性リン脂質代謝系の解明	田村 郁	医療連携支援センター	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自閉症転写因子RFXの網羅的な制御遺伝子探索による新規病態経路の解明	中山 東城	脳神経病態学	4,940,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸オルガノイドによる大腸組織再生の最適化	油井 史郎	再生医療研究センター(消化器内科)	5,460,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
機能的粘膜バリア機構破綻による慢性腸炎発症過程の解析	永石 宇司	消化管先端治療学講座	6,370,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来肝星細胞を基軸とした肝星細胞活性化制御機構の解明	三好 正人	消化器病態学	6,240,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリアの心筋細胞外放出制御システムを標的とした心不全発症機序の解明	前嶋 康浩	循環制御内科学	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
色素幹細胞の自己複製メカニズム制御機構および悪性黒色腫発症機序の解明	並木 剛	皮膚科学	4,095,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自然免疫および血管内皮障害に着目したSLE・APSの新規治療法の開発	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	5,850,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心臓外科手術における術後トロンビン生成能低下に関する評価システム確立と機序の解明	内田 篤治郎	心肺統御麻酔学	5,400,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
COVID-19における細胞外小胞の臨床的意義と現場実装に向けた新規検出技術の基盤確立	若林 健二	生体集中管理学	4,810,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ナノファイバーや異方性フィラーで強化した積層造形用複合材料の開発と歯科応用	金澤 学	高齢者歯科学分野	7,280,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内向性口腔がん攻略のための統合的アプローチ	三浦 雅彦	歯科放射線診断・治療学分野	5,850,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ジェロサイエンスに基づく新規矯正歯科治療の基盤構築-Senolyticsの口腔科学への展開	森山 啓司	顎顔面矯正学	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠期間塞性睡眠時無呼吸症:世代を超えた成長発育の破綻・変容と包摂医療への展開	小野 卓史	咬合機能矯正学	3,380,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外環境制御による細胞運命決定にかかる細胞内シグナル作動機構の解明	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学分野	7,150,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
複数大型コホートとNDBや病院データを活用した、口腔の状態と全身の健康の因果推論	相田 潤	健康推進歯学	3,965,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔一下気道軸から紐解く下気道炎症の発症とその予防ー口腔衛生管理有効性の立証ー	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
看護管理情報とPatient/Nurse Outcomeに関するエビデンス創出のためのPlatform開発	森脇 睦子	クオリティ・マネジメント・センター	4,550,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
運動によってもたらされる口腔細菌叢の変化と全身への影響	竹内 康雄	生涯口腔保健衛生学分野	4,225,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫における腫瘍間質相互作用の機序解明と治療標的の同定	末吉 国誉	呼吸器外科学分野	900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
座位で安全に歩行トレーニングが可能な腕振りリズムアシストロボット	中川 裕介	軟骨再生学講座	468,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
イメージングバイオマーカーによる遅発性精神病性障害における新規神経病理の同定	高橋 英彦	精神行動医科学	3,120,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
非コードRNA転写による脱メチル化制御とスーパーエンハンサー活性化機構の解明	磯田 健志	発生発達病態学	7,410,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞による複合型肝臓オルガノイドの創生と肝線維化発がん病態の解明	柿沼 晴	疾患生理機能解析学分野	6,630,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
エネルギー感知機構の破綻による慢性腎臓病の線維化進行機序解明と治療法開発	蘇原 映誠	腎臓内科学	4,500,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
流体力学的アプローチによるECMOデバイス内の血栓検出・血栓予防技術の実用化研究	藤原 立樹	心臓血管外科学	10,465,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔機能とサルコペニアを基軸としたベジアンネットワーク解析による認知症予防戦略	笛木 賢治	咬合機能健康科学分野	65,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
睡眠時ブラキシズムの発症経路解明に向けたレジストリ構築と疾患iPSモデルでの検証	西山 暁	総合診療歯科学	260,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
乳児期の被虐待(ネグレクト)が成人期以降の特発性疼痛を惹起する神経機構の実証	豊福 明	歯科心身医学	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔状態の健康寿命への寄与が大きい集団を機械学習と因果推論で解明する国際共同研究	松山 祐輔	健康推進歯学	4,030,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
AYA世代がん患者・サバイバーの経験するマイクログレッションの実態解明と学際的支援モデル構築	鹿島田 健一	発生発達病態学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
医療施設環境の微生物叢・薬剤耐性の高精度動態解析による新規医療環境整備基盤の創出	具 芳明	臨床医学部門(感染制御部)	7,800,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢がん患者の食生活と身体活動に着眼したがん・心血管セルフケアプログラムの有効性	浜本 康夫	臨床腫瘍学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
服薬嚥下障害への新規治療戦略:オーダーメイド剤型を用いた服薬アルゴリズム作成	山脇 正永	臨床医学教育開発学	3,510,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
予防接種による認知症リスク減少のメカニズムを明らかにする高齢者コホート研究	相田 潤	健康推進歯学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
がん早期臨床試験のデザインと統計解析法の新展開	平川 晃弘	臨床統計学分野	2,990,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
患者由来kidney-on-a-chipを用いた慢性腎臓病の病態解明と創薬	森 雄太郎	腎臓内科学	6,500,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
サイズの精密制御に基づく薬物送達システムの設計と脳腫瘍に対するX線治療への展	田村 郁	医療連携支援センター	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳移行促進能と核酸結合能を併せ持つ分子を用いた核酸医薬の脳内デリバリー法の開発	原 倫太郎	脳神経病態学	4,680,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
フレキシブルSERSセンサーを用いた簡便歯周病ヘルスケア技術の開発	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	3,190,200	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
近赤外蛍光による下咽頭残留食物モニタリング:誤嚥リスク検出と電気刺激による治療	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
刑事責任能力判断のための犯行機序の精神医学的描出と法学的読解の方法論の確立	岡田 幸之	精神行動医科学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
表在型食道扁平上皮がんの空間トランスクリプトーム解析とバイオマーカー開発	大橋 健一	人体病理学	2,730,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
抗アミロイドβオリゴマーとタウ抗体の治療介入時期および期間の検討	天野 晶子	脳神経病態学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
リン酸化と脱リン酸化によるヒトのIKAROS制御機構の解明	星野 顕宏	小児地域成育医療学講座	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞由来培養プルキンエ細胞とロングリード法を用いた脊髄小脳変性症の病態解明	石川 欽也	ゲノム健康医療学分野	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ゲーム障害におけるマルチスケールの時間知覚障害とその神経基盤の解明	治徳 大介	サイバー精神医学講座	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
てんかんにおけるwide-band EEGと心臓自律神経機能の関連の解明	宮島 美穂	精神行動医科学	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脱落乳歯を利活用した統合失調症リスクとなる周産期環境曝露の遡及的解明	田畑 光一	精神行動医科学分野	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
革新的MRI技術とAIを融合した乳房石灰化診断の新展開	藤岡 友之	先端人工知能医用画像診断学講座	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
先天性免疫異常症から紐解く1型糖尿病の免疫学的発症機序の解明	高澤 啓	発生発達病態学	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
患者肝およびヒトiPS細胞由来肝オルガノイドを用いた代謝異常起因性肝発癌の病態解明	村川 美也子	消化器内科	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
携帯型超音波機器を使用したクローン病小腸病変評価方法の開発	竹中 健人	消化器連携医療学講座	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
局所電位の周波数情報のカテーテルアブレーション治療への応用と焼灼巣予測AIの開発	滝川 正晃	先進不整脈学講座	2,600,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
遺伝学的手法による心房細動のリスク因子及び性差による発症の違いに関する解析研究	江花 有亮	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
免疫ネットワーク解析による過敏性肺炎の線維化機序の解明	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日本人CKD専用遺伝子パネルによるCKD遺伝子背景の解明と対応策の構築	森 崇寧	血液浄化療法部	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
SPPARMαを用いた、多発性嚢胞腎における嚢胞増大抑制効果の検討	飯盛 聡一郎	茨城県腎臓疾患地域医療学講座	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
線維化レポーター腎臓オルガノイドによるCKD増悪因子の新規スクリーニング	須佐 紘一郎	腎臓内科学	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
汗腺の免疫活性化に着目した特発性後天性全身性無汗症の病態解明	飯田 忠恒	皮膚科学	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
ウイルス由来マイクロRNAを標的とした慢性活動性EBウイルス病の治療法の開発	原 倫太郎	脳神経病態学	390,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ディープラーニングによる革新的な術中リアルタイム脳血管内治療支援の開発	壽美田 一貴	血管内治療学	1,950,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨、軟骨組織の恒常性に必須の、間葉系幹細胞微小環境を制御する因子の分子機能解析	辻 邦和	整形外科学	1,625,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
軟骨を含む超多孔質セメントスパーサー再移植による軟骨内骨化を伴う巨大骨欠損修復	池田 通	病理部	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
軟部肉腫のCINSARCリスク分類と腫瘍内免疫動態の解明	船内 雄生	整形外科	260,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
半月板後根脆弱化の分子機構の解明と標的遺伝子の転写制御による半月板脆弱化予防	古賀 英之	運動器外科学	234,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
配偶子環境を規定する因子と胎児・胎盤発育への関連性の解明	宮坂 尚幸	生殖機能協関学	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内耳血管条の薬物トランスポーターに着目したシスプラチン難聴の予防手段の樹立	川島 慶之	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
「大口蓋動脈の走行の明確化」正常から歯周病・動脈硬化までの臨床解剖	前川 祥吾	歯周病学	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯髄幹細胞の硬組織形成細胞分化におけるインテグリンシグナルの役割とその臨床応用	川島 伸之	歯髄生物学	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
包括的DX応用した低侵襲切削根管に光子・高周波を用いた根管治療法開発と特定臨床研究	渡邊 聡	歯髄生物学	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病の新たな病態解明に繋がる口腔-脳連関に着目したバイオマーカー探索	西田 陽一郎	脳神経病態学	2,210,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Er:YAGレーザーによる新規フラップレス低侵襲歯周再生療法と骨再生促進効果の解明	青木 章	歯周病学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲炎に対するミノサイクリン治療効果の細菌叢エビデンス構築	下岸 将博	口腔再生再建学分野	195,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
親水性表面の保護と骨誘導能を有する歯科インプラント体表面処理技術の開発	寺内 正彦	口腔インプラント科	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
機能性ガラスフィラー添加3Dプリンター用UDMA系光重合樹脂の機械的・物理的特性の向上	池田 正臣	口腔医療工学分野	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ジルコニアチューブを用いたメタルフリーブリッジ支台築造の最適化	駒田 亘	咬合機能健康科学分野	2,080,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
デジタルデンティストリーを用いた放射線治療補助装置製作システムの構築	村瀬 舞	生体補綴歯科学分野	3,510,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢者の認知機能はインプラント補綴により改善されるか？	駒ヶ嶺 友梨子	高齢者歯科学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
弱体化した支台歯に対する二次固定義歯による保護効果の検証	和田 淳一郎	生体補綴歯科学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
加齢における慢性ストレスでの口腔環境の網羅的解析	豊福 明	歯科心身医学	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
特発性口腔顔面痛におけるADHD併存の病態解明とAI治療アルゴリズムの開発	豊福 明	歯科心身医学	52,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
進行性下顎頭吸収に対する関節円板整位術の有用性に関する研究	高原 楠旻	口腔外科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎骨骨幹異形成症における骨形成線維腫の発症と増殖メカニズム解明への基礎研究	原園 陽介	口腔外科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平苔癬の病勢指標となるバイオマーカーの探索	津島 文彦	口腔外科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腺様嚢胞癌の新規分子クラス分類に基づく予後予測およびPDXモデルによる治療薬評価	森田 圭一	顎顔面外科学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
パノラマX線画像から智歯と下顎管の三次元的位置関係を予測する説明可能な深層学習	能村 嘉一	歯科放射線科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
HSP40-変異p53相互作用から考えるがん治療抵抗性機構の解明と新規増感戦略の創出	戒田 篤志	歯科放射線診断・治療学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
末梢から中枢にかけての神経の微小構造変化が口腔領域の異常感覚に及ぼす影響	渡邊 素子	歯科心身医学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面領域の神経障害性疼痛に対する肥満の影響	松村 朋香	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低用量BMP-2を用いた低侵襲注入式骨再生法による歯の移動限界拡大への挑戦	松本 芳郎	咬合機能矯正学	1,105,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨髄異常陰影(BML)からみた変形性顎関節症の新たな病因解明	米満 郁男	矯正歯科	2,535,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
筋・中枢機能連関の解析による顎顔面の新規運動機能獲得法の基盤開発	加藤 千帆	矯正歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
身体運動効果に対する咀嚼刺激の重要性:成長期軟食飼育マウスを用いた相乗作用の検討	松本 芳郎	咬合機能矯正学	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Evaluation of Articulatory Coordination and Oropharyngeal Displacement in Subjects with Cleft Lip and Palate: A Real-Time 3D MRI Study for Advancing Clinical Insights	森山 啓司	顎顔面矯正学	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
特異的スプライシングバリエントを標的とした新たな変形性顎関節症治療への挑戦	細道 純	咬合機能矯正学	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
矯正歯科治療は低機能歯を賦活できるか:反射応答機構変化に着目した生理学的解明	小野 卓史	咬合機能矯正学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
形成障害乳歯の病理組織と特性の解明および新規ひずみ測定による修復法の確立	和田 奏絵	小児歯科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
XAI(説明可能な人工知能)を用いた口臭画像診断システムの開発研究	財津 崇	健康推進歯学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
指導歯科医の指導能力向上に寄与する日本版臨床研修指導歯科医評価表の開発と実装	則武 加奈子	歯科総合診療科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
静注抗菌薬に対する効果的/持続的な抗菌薬適正使用プログラムの手法/運用の探索研究	田頭 保彰	統合臨床感染症学分野	3,120,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊産婦皆歯科健診に向けた母子歯科保健におけるEBPM(根拠に基づく政策立案)の検証	伊藤 奏	健康支援口腔保健衛生学分野	58,500	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
他者から世話になる負担感(SPB)の経時的変化の解明と教育的介入の検証	木村 琢磨	介護・在宅医療連携システム開発学講座	169,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
再生医療等製品の製造環境における迅速空中浮遊菌検出法の開発	水野 満	再生医療研究センター(輸血・細胞治療センター)	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
WHO手指衛生多角的戦略による手指衛生の推進と医療関連感染の減少に向けた基盤の構築	岡本 耕	統合臨床感染症学分野	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝前十字靱帯再建術の前段階におけるスポーツ復帰に対する心理的準備の関連因子	廣幡 健二	スポーツ医学診療センター	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クラシックバレダンサーにおける足関節周辺オーバーユース障害の発生状況とその要因	廣幡 健二	スポーツ医学診療センター	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
紙風船トレーニングによるパフォーマンス向上に関する研究	大見 武弘	スポーツサイエンスセンター	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
生理計測を用いた口腔ケアの優しさと有効性についての検討	樺沢 勇司	健康支援口腔保健衛生学分野	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
n-silicoファントムを用いた磁気神経イメージングの新しい磁場源解析法の研究	川端 茂徳	先端技術医療応用学講座	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳組織へ広く分布し、かつ高活性な新規核酸医薬の創生	柳平 貢	脳神経病態学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
胃癌の術後再発と術後補助化学療法の効果を予測する遺伝子発現バイオマーカーの開発	奥野 圭祐	消化管外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
スクリーニング超音波検査を行う訪問看護師との連携によるオンライン診療の実証研究	山田 徹	総合診療医学分野	2,990,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
情動や自我に関わる記憶とリプル波の関連についての頭蓋内脳波解析研究	中村 啓信	精神科	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
テクスチャ解析による新規ドパミン病態の解明と快感消失の疾患横断的マーカーの探索	田村 赳紘	精神行動医科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
深層学習(Deep learning)による骨転移検出AIモデルの開発と臨床応用	足立 拓也	画像診断・核医学	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
半導体PETと機械学習を用いたアミロイドPETの超短時間撮影の実用化	横山 幸太	放射線診断科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
筋層浸潤性膀胱癌を高精度に予測する新たなMRI予測スコアの確立とその有用性の検討	木村 浩一朗	放射線診断科	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
オートファジーに着目したパネート細胞死の制御機構の解明	松沢 優	疾患生理機能解析学分野	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
BEST4陽性細胞に着目した炎症性腸疾患の病態解析モデルの構築	田村 皓子	消化器内科	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
機械学習を用いた心エコー図の画像認識による大動脈弁狭窄症の進行予測	平澤 憲祐	循環器内科	1,820,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
生理的心収縮を再現するペースメーカーリード位置の探索 -至適左脚領域ペーシング-	後藤 健太郎	先進不整脈学講座	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肺動脈性肺高血圧症における α 2アドレナリン受容体を介した抗炎症作用の解明	山口 洋平	小児科	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
核内GAPDHに着目した心筋細胞におけるストレス応答機序の解明	中村 峻	循環制御内科学	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
MRSAに対するリゾチーム・キトサン糖複合体の抗菌・抗毒素の可能性の検討	園田 史朗	呼吸器内科	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
長期PKA活性化を用いた抗肥満薬開発と脂肪-腎連関に着目した慢性腎臓病病態解明	藤木 珠美	茨城県腎臓疾患地域医療学講座	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
多発性嚢胞腎における、 β カテニン Ser552 リン酸化による遺伝子発現制御の解明	菊池 寛昭	血液浄化療法部	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自己免疫反応による皮膚線維化疾患の病態形成におけるB細胞および形質細胞の機能解析	遠藤 香凜	皮膚科学	2,730,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチに対する滑膜オルガノイドによる新規治療標的の探索	山本 晃央	生涯免疫難病学講座	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ユビキチン化異常に伴う血管内皮障害が動脈狭窄や動脈瘤を進行させるか	高橋 暁	血管内治療学	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝蓋下脂肪体の線維化と変形性膝関節症との関連性の検証とその治療法の開発	安 幸成	スポーツ医学診療センター	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
線維化抑制を作用機序とする新規変形性関節症治療薬の開発	雨宮 正樹	整形外科	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高圧・高酸素環境が骨折治癒過程に与える影響と治療応用	小柳津 卓哉	高気圧治療部	1,950,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
同一個体における大腿骨の経年的形態変化の解析および湾曲変形の証明	加来 拓実	整形外科	2,860,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
人工筋肉を搭載した体幹筋力補助装置を用いた成人脊柱変形患者に対する運動療法の開発	橋本 淳	先端技術医療応用学講座	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
分子運動性超分子足場を用いた糖尿病による細胞老化に抵抗する歯周組織再生	秤屋 雅弘	歯周病科	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
CGFを応用した断髄後の歯冠歯髄組織再生療法の開発	岡田 大和	むし歯科	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脱細胞化ブタ心膜の新規人工歯根膜材料としての機能の検討	金 裕純	口腔外科	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自己由来乏血小板血漿と脂肪組織由来幹細胞による新規歯槽骨再生療法の確立	兵頭 克弥	口腔外科	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光エネルギーを活用したインプラント周囲疾患の新規疾患制御法の確立	下平 剛	歯周病科	2,080,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラントおよび天然歯における咬合力伝達機能の比較分析研究	松野 瞳	生体補綴歯科学分野	2,470,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
全部床義歯補綴学にデジタル技術を導入した教育的介入による学習効果の検討	宮安 杏奈	先端材料評価学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
AIによる歯肉形成プログラムの臨床応用	柏崎 健汰	義歯科	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面非対称症例における遺伝的素因の検討	外内 えり奈	口腔外科	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯関連細胞のダイレクトリプログラミング技術開発～歯の再生への挑戦～	黒厚子 璃佳	小児歯科	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Vwdeを基軸とした細胞外基質が担う核心的蛋白情報ネットワーク網の解明	岩田 こころ	小児歯科	2,210,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
体位の変化が舌動態に及ぼす影響の解明	松本 英和	矯正歯科	3,120,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
摂食嚥下機能の日内変動とリハビリテーションへの応用	山口 浩平	摂食嚥下リハビリテーション学分野	2,340,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病による血液脳関門の破綻と認知機能障害メカニズムの解明	萬代 新太郎	腎臓内科学	2,080,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
静止期肝星細胞の細胞死調節機構と肝臓恒常性維持機構の解明	柿沼 晴	疾患生理機能解析学分野	2,470,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
薬剤放出バイオカプセルを用いた抗炎症/組織再生統合型医療の開発	岡本 隆一	消化器病態学	2,600,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管免疫応答における上皮細胞抗原処理能の解析	永石 宇司	消化管先端治療学講座	3,250,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
宇宙実験から解き明かす筋骨格系組織を基軸とする新たな臓器連関	佐藤 信吾	緩和ケア科	3,120,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
オルガノイド共培養法による循環脈管系生成技術開発	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学分野	3,380,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨細胞の細胞特性と高次脳機能ネットワークの解明	中島 友紀	歯学部	2,600,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
線維化抑制の分子機序の解析による新しい変形性関節症治療	小沼 博明	整形外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
TDP-43タンパク質を標的とした核酸医薬の新規リンカー構造探索と最適化	三浦 元輝	脳神経病態学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
正常造血幹細胞におけるフェロトーシス制御機構の解明	秋山 弘樹	血液内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
食道扁平上皮癌ハイリスク群の浸潤先端部癌微小環境の解明とネオバイオマーカーの探索	加藤 祐己	人体病理学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性および抑制性腸管老化T細胞サブセットの機能解析と個体老化における役割の解明	米本 有輝	光学医療診療部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心房細動におけるローターコアの位置予測手法の開発と基盤となる分子生物学的機序	岩宮 賢	循環制御内科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
近赤外光を用いた間質組織リモデリングによる難治性膀胱がんの克服	福島 啓司	泌尿器科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成長期咀嚼刺激回復が記憶・学習機能に与えるメカニズムと最適時期の解明	三澤 英里	矯正歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
切削修復に代わるナノマテリアルを応用した新規齲蝕治療法の確立	陳 雪霏	むし歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
不正咬合が味覚に与える影響の生物学的基盤	外山 奈緒美	矯正歯科	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔制御による精神疾患に対する先制医療の確立～口腔-腸-脳連関のメカニズム解明～	今井 千尋	歯周病学分野	1,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CRISPRスクリーニングを応用した非小細胞肺癌の小細胞癌への形質転換機構の解明	近藤 信幸	統合呼吸器病学分野	800,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球解析による骨肉腫の免疫抑制機序解明と治療応用	有賀 茜	整形外科学分野	1,700,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
変形性膝関節症に対する細胞治療における再生リハビリテーションの提案と実証	目黒 智子	応用再生医学分野	800,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
皮膚筋炎特異的自己免疫反応を基盤とする疾患モデル動物の確立と病態解析	沖山 奈緒子	皮膚科学	5,590,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
色素幹細胞の自己複製メカニズム制御機構および悪性黒色腫発症機序の解明	並木 剛	皮膚科学	7,540,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
COVID-19における細胞外小胞の臨床的意義と現場実装に向けた新規検出技術の基盤確立	若林 健二	生体集中管理学	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
看護管理情報とPatient/Nurse Outcomeに関するエビデンス創出のためのPlatform開発	森脇 睦子	クオリティ・マネジメント・センター	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
運動によってもたらされる口腔細菌叢の変化と全身への影響	竹内 康雄	生涯口腔保健衛生学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
移行期JIAを中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤等の適正使用に資する研究	森 雅亮	生涯免疫難病学講座	1,500,000	補 厚生労働省
学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	4,924,000	補 厚生労働省
学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究	尾臺 珠美	茨城県地域産科婦人科学講座	500,000	補 厚生労働省
学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究	鹿島田 健一	発生発達病態学	500,000	補 厚生労働省
健康寿命の延伸及び健康格差の縮小に影響を与える要因の解明のための研究	相田 潤	健康推進歯学	200,000	補 厚生労働省
次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究	相田 潤	健康推進歯学	1,200,000	補 厚生労働省
遺伝性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	500,000	補 厚生労働省
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	鴨居 功樹	眼科学	200,000	補 厚生労働省
発汗異常を伴う稀少難治療性疾患の治療指針作成、疫学調査の研究	並木 剛	皮膚科学	500,000	補 厚生労働省
テレワーカーの健康課題発生リスクや労働生産性に関連する生活・運動・睡眠習慣および身体機能の検証とそれに基づく指針作成のための研究	廣幡 健二	リハビリテーション医学分野	1,039,000	補 厚生労働省
テレワーカーの健康課題発生リスクや労働生産性に関連する生活・運動・睡眠習慣および身体機能の検証とそれに基づく指針作成のための研究	高木 俊輔	精神科	50,000	補 厚生労働省
テレワーカーの健康課題発生リスクや労働生産性に関連する生活・運動・睡眠習慣および身体機能の検証とそれに基づく指針作成のための研究	星野 傑	スポーツ医学診療センター	100,000	補 厚生労働省
テレワーカーの健康課題発生リスクや労働生産性に関連する生活・運動・睡眠習慣および身体機能の検証とそれに基づく指針作成のための研究	柳下 和慶	教養教育部門(スポーツ医学診療センター)	150,000	補 厚生労働省
テレワーカーの健康課題発生リスクや労働生産性に関連する生活・運動・睡眠習慣および身体機能の検証とそれに基づく指針作成のための研究	川崎 智子	スポーツ医学診療センター	200,000	補 厚生労働省
安全な血液製剤の安定供給に資する適切な採血事業体制の構築のための研究	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	920,000	補 厚生労働省
がん相談支援の質の確保及び持続可能な体制の構築に資する研究	内村 祐之	医療情報部	1,000,000	補 厚生労働省
大規模コホートとリアルワールドデータを用いた口腔と全身疾患の関連についての研究	相田 潤	健康推進歯学	750,000	補 厚生労働省
大規模コホートとリアルワールドデータを用いた口腔と全身疾患の関連についての研究	財津 崇	健康推進歯学	300,000	補 厚生労働省
健康寿命延伸に備えた女性の心身の健康支援のための普及啓発に向けた研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	110,000	補 厚生労働省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	三條 伸夫	脳神経病態学	100,000	補	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	横田 隆徳	脳神経病態学	400,000	補	厚生労働省
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	石川 欽也	ゲノム健康医療学分野	700,000	補	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	600,000	補	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	森 雅亮	生涯免疫難病学講座	600,000	補	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	森 雅亮	生涯免疫難病学講座	8,500,000	補	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	清水 正樹	小児科	200,000	補	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	200,000	補	厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究	沖山 奈緒子	皮膚科学	180,000	補	厚生労働省
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	前嶋 康浩	循環制御内科学	102,000	補	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	1,000,000	補	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	1,000,000	補	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	300,000	補	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	大橋 健一	人体病理学	800,000	補	厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	大野 京子	眼科学	2,000,000	補	厚生労働省
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	吉井 俊貴	整形外科学	250,000	補	厚生労働省
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	川島 慶之	耳鼻咽喉科学	150,000	補	厚生労働省
脳脊髄液減少症の疫学研究及び客観的診断法に資する研究	江川 聡	整形外科外科学治療開発学講座	100,000	補	厚生労働省
生活保護受給者における効果的な健康支援方法の立案に向けた実証研究	木野 志保	健康推進歯学	800,000	補	厚生労働省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
ICTを基盤とした卒前卒後のシームレスな医師の臨床教育評価システム構築のための研究	山脇 正永	臨床医学教育開発学	4,900,000	補 厚生労働省
ICTを基盤とした卒前卒後のシームレスな医師の臨床教育評価システム構築のための研究	岡田 英理子	臨床医学教育開発学	900,000	補 厚生労働省
医療機関における情報技術等への業務移管による医療従事者の労働時間短縮効果と経営上の負荷に基づく費用対効果の検証研究	羽田 紘人	放射線部	1,000,000	補 厚生労働省
妊産婦へのメンタルヘルス支援の体制整備に向けた研究	竹内 崇	精神行動医科学	1,500,000	補 厚生労働省
成育医療等基本方針に基づいた指標・施策の中間評価、およびモニタリングに関する研究	相田 潤	健康推進歯学	300,000	補 厚生労働省
新型コロナウイルス感染症流行が歯科口腔保健行動及び歯科疾患等与えた影響の解明のための研究	石丸 美穂	統合教育機構	100,000	補 厚生労働省
新型コロナウイルス感染症流行が歯科口腔保健行動及び歯科疾患等与えた影響の解明のための研究	松山 祐輔	健康推進歯学	100,000	補 厚生労働省
月経随伴症状に関連した健康課題の公衆衛生学的分析とその解決に向けた包括的研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	300,000	補 厚生労働省
慢性活動性EBウイルス病と類縁疾患のレジストリ・バイオバンク運用体制の拡充と診療連携基盤の確立	平川 晃弘	臨床統計学分野	150,000	補 厚生労働省
慢性活動性EBウイルス病と類縁疾患のレジストリ・バイオバンク運用体制の拡充と診療連携基盤の確立	森 毅彦	血液内科学	150,000	補 厚生労働省
慢性活動性EBウイルス病と類縁疾患のレジストリ・バイオバンク運用体制の拡充と診療連携基盤の確立	星野 顕宏	小児地域成育医療学講座	150,000	補 厚生労働省
原発性脂質異常症に関する調査研究	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	200,000	補 厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	三條 伸夫	脳神経病態学	500,000	補 厚生労働省
思春期・若年成人(AYA世代)患者におけるリウマチ医療体制に資する研究	森 雅亮	生涯免疫難病学講座	3,923,000	補 厚生労働省
思春期・若年成人(AYA世代)患者におけるリウマチ医療体制に資する研究	清水 正樹	小児科	80,000	補 厚生労働省
育成医療対象疾患の実態把握に関する研究	依田 哲也	顎顔面外科学	200,000	補 厚生労働省
育成医療対象疾患の実態把握に関する研究	森田 圭一	顎顔面外科学	1,040,000	補 厚生労働省
育成医療対象疾患の実態把握に関する研究	原園 陽介	口腔外科	100,000	補 厚生労働省
ゲームに関連した生活障害等の問題、併存する疾患及びその対応等の実態把握に資する研究	治徳 大介	サイバー精神医学講座	1,154,000	補 厚生労働省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
胃がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	徳永 正則	消化管外科学	800,000	委	国立がん研究センター
ゲーム障害の病態に関する神経画像的研究	高橋 英彦	精神行動医科学	1,000,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
多施設共同研究の質的向上に必要な生物統計手法に関する研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	200,000	委	国立がん研究センター
自家腸上皮オルガノイドを用いた潰瘍性大腸炎に対する粘膜再生治療の開発	岡本 隆一	消化器病態学	13,833,000	委	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
シロリムスの新作用に関する研究及びネットワーク形成	伊藤 卓	耳鼻咽喉科学	650,000	委	国立大学法人新潟大学
COVID-19罹患者の長期的な健康状態に関する調査研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	52,000	委	国立大学法人高知大学
レジストリを活用した児童精神科診療の質的評価と効率的かつ効果的な支援や治療法の開発	佐々木 祥乃	精神行動医科学	800,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
栃木県インターネットやゲームに関連する依存に係る実態調査	治徳 大介	サイバー精神医学講座	8,000,000	委	栃木県
Green ME プロジェクト:農と食を通じたエビデンスのある well-being推進戦略	山脇 正永	臨床医学教育開発学	9,700,000	委	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター
腫瘍溶解性ウイルスに関する研究開発および実用化	平川 晃弘	臨床統計学分野	1,300,000	委	国立大学法人鹿児島大学
寝たきりを減らすためのAI心房細動検診事業	笹野 哲郎	循環制御内科学	2,000,000	委	地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所
精神疾患の神経自己免疫病態の包括的解明と治療法の開発	塩飽 裕紀	精神行動医科学	11,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業 疾患基礎研究課
iPS細胞を用いた自己組織化による複合型機能性ヒト腸管グラフト製造法の開発	水谷 知裕	消化器病態学	32,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 再生・細胞医療・遺伝子治療事業部 再生医療研究開発課
炎症性腸疾患の新規治療法開発およびそれに用いるための医薬組成物	永石 宇司	消化管先端治療学講座	1,620,000	委	国立大学法人筑波大学
腫瘍の不均一性およびゲノム3次元構造の視点から見た乳児急性リンパ性白血病の理解と治療法に関する研究開発	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 医薬品研究開発課
早期舌癌への定位放射線治療実現を目的とした吸引固定型スプレー、マーカー開発	長野 拓也	腫瘍放射線治療学分野	1,824,000	委	国立大学法人東京大学
働く女性における月経困難症・月経前症候群・更年期障害の二次予防・三次予防のための指針策定に関する研究開発	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	22,360,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 医療機器・ヘルスケア事業部 ヘルスケア研究開発課
パネート細胞に着目したクローン病の病態解析	松沢 優	疾患生理機能解析学分野	15,210,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) シーズ開発・研究基盤事業部 革新的先端研究開発課

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
メラノーマを標的とした新規リガンド構造による次世代核酸医薬製剤の創出	並木 剛	皮膚科学	1,980,000	委	国立大学法人筑波大学
SLEの疾患活動性の可視化により安全かつ適切な治療管理を実現するソフトウェアの開発	細矢 匡	膠原病・リウマチ内科学	12,999,637	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 医療機器・ヘルスケア事業部 医療機器研究開発課
ゲーム行動症ハイリスク群の早期判別・介入支援システムの研究開発	小林 七彩	サイバー精神医学講座	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 医療機器・ヘルスケア事業部 医療機器研究開発課
焼灼巣形状のリアルタイム予測機能を搭載したアブレーションシステムの開発	滝川 正晃	先進不整脈学講座	26,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 医療機器・ヘルスケア事業部
リン酸化化合物カルシウム塩と足場材料を用いた骨誘導能を有する新しい移植材料の開発	吉井 俊貴	整形外科学	2,990,000	委	国立大学法人筑波大学
統合失調症の異種性横断的・病期縦断的な分子病態解明	塩飽 裕紀	精神行動医科学	14,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業 疾患基礎研究課
NeuroGuard: Targeted intervention at the blood-brain barrier interface for age-related neurovascular resilience	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ストレスと臓器線維化をつなぐエネルギー恒常性機構破綻の病態解明と臨床応用	蘇原 映誠	腎臓内科学	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) シーズ開発・研究基盤事業部 革新的先端研究開発課
免疫担当細胞eQTL データを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	260,000	委	国立大学法人東京大学
幹細胞を中心とした皮膚レジリエンスの加齢性変容と臓器間フレイル関連機構の解明	沖山 奈緒子	皮膚科学	2,600,000	委	国立大学法人東京大学
働く女性の健康に関する非薬物的介入のシステムティックレビューと職域における女性の健康保持増進に向けたガイドライン作成	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	150,000	委	国立大学法人秋田大学
疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態機序解析による特発性間質性肺炎の層別化と創薬システムの開発	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	3,900,000	委	国立大学法人京都大学
疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態機序解析による特発性間質性肺炎の層別化と創薬システムの開発	瀬戸口 靖弘	統合呼吸器病学	3,900,000	委	国立大学法人京都大学
統合失調症主要バイオタイプの分子シナプス細胞基盤の探索	塩飽 裕紀	精神行動医科学	11,700,000	委	国立大学法人東京大学
遺伝子・回路・行動の階層型デジタル脳の構築	塩飽 裕紀	精神行動医科学	2,600,000	委	国立大学法人東京大学
革新的オルガノイド技術を用いた肝線維化・発がん機構の解明と肝星細胞活性化制御をめざした治療法の創成	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	32,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
新規培養系を利用した肝星細胞の初期活性化機構の解明と抗線維化療法の標的分子の探索	三好 正人	消化器病態学	8,450,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
脊髄小脳失調症31型に対する核酸医薬開発	横田 隆徳	脳神経病態学	41,088,275	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課
関節リウマチ滑膜線維芽細胞・マクロファージ炎症性サブセットを標的とした新規治療戦略の開発	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	11,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
難治性クローン病に対する自家腸上皮オルガノイド移植の研究開発	岡本 隆一	消化器病態学	39,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 再生・細胞医療・遺伝子治療事業部 再生医療研究開発課
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクスポソーム研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	12,090,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
先天性腎性尿崩症と分類不能型免疫不全症に共通するLRBA依存性膜輸送機構の解明	安藤 史顕	腎臓内科学分野	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課
うつ・不安症状を伴う更年期障害患者に対するピリドキサミンの臨床開発	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	7,670,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課
21水酸化酵素欠損症の新たな小児期先制医療を目指した患者レジストリ構築、治療マーカーおよび簡便な遺伝学的検査法の確立	鹿島田 健一	発生発達病態学	12,237,420	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課
国内マスタープロトコル試験の実施に関する規制的、統計的、実務的課題の検討とその適正利用のためのガイドライン作成	平川 晃弘	臨床統計学分野	9,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 規制科学推進課
HBVトランスクリプトームを基軸としたHBV病態の診断と完全克服	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	24,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
ロングリードシーケンスを用いた先天性免疫異常症診断	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	7,800,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課
新規オートファジーに着目した脊髄小脳失調症の病態解明と治療薬開発	石川 欽也	ゲノム健康医療学分野	5,200,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課
超希少難病である特発性胸膜肺実質線維弾性症 (iPPFE) における疾患レジストリの構築と治療最適化のためのTreatable traits の究明	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	12,415,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課
次なるパンデミックまで見据えた迅速な前臨床試験基盤の供給に向けた研究開発	若林 健二	生体集中管理学	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
アルコール依存とゲーム行動症の早期発見、発症予防、実効的治療評価指標の開発:視聴覚刺激を用いた縦断的研究	藤野 純也	精神行動医科学分野	1,950,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課
抗リン脂質抗体症候群に対する血栓症治療薬の検証	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	4,510,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬戦略部 創薬企画・評価課 創薬支援室
不良細胞外小胞を標的とした慢性腎臓病と腎性老化現象の病態解明	萬代 新太郎	腎臓内科学	7,150,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
リンパ腫と白血病を標的としたHCK/BTK/FLT3阻害剤の非臨床試験	石川 文彦	包括病理学	65,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
高リスク神経芽腫に対する免疫療法を併用した標準治療法確立のための臨床研究	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	19,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
心拍変動解析によるてんかん発作予知AIシステムの研究開発	宮島 美穂	精神行動医科学	4,550,000	委	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
次世代シーケンス技術を基盤としたC型肝炎ウイルス排除後における肝癌出現機序・病態変化の解明とバイオマーカーの開発	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	910,000	委	山梨大学
インターフェロンフリー治療がC型肝炎変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,040,000	委	国立大学法人大阪大学
層別化に基づくSVR 後肝がん、再発の病態解明と予防および治療開発	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
東京大学大学院における生物統計家育成のための卒業教育まで含めた一貫した教育プログラムの研究開発	平川 晃弘	臨床統計学分野	500,000	委	国立大学法人東京大学
革新的オルガノイド技術を用いた肝線維化・発がん機構の解明と肝星細胞活性化制御をめざした治療法の創成	柿沼 晴	疾患生理機能解析学分野	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
新規培養系を利用した肝星細胞の初期活性化機構の解明と抗線維化療法の標的分子の探索	柿沼 晴	疾患生理機能解析学分野	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
B型肝炎培養細胞、抗ウイルス応答細胞モデルを用いた創薬シーズ化合物の大規模探索	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	5,200,000	委	国立大学法人北海道大学
変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験	古賀 英之	運動器外科学	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)再生・細胞医療・遺伝子治療事業部 再生医療研究開発課

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験	平川 晃弘	臨床統計学分野	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 再生・細胞医療・遺伝子治療事業部 再生医療研究開発課
希少疾患先天性無歯症患者の欠損歯を再生する新規抗体医薬品の開発	並木 剛	皮膚科学	2,340,000	委	公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院
球脊髄性筋萎縮症に対する適正治療エビデンス創出のためのリアルワールドデータベース整備	平川 晃弘	臨床統計学分野	1,950,000	委	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
小児から成人をシームレスに対象とした B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	280,800	委	埼玉県立小児医療センター
性差をみとめる運動器疾患の病態の解明とそれに基づく診断・治療・予防戦略の開発	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	1,950,000	委	国立大学法人東京大学
関節リウマチ滑膜線維芽細胞・マクロファージ炎症性サブセットを標的とした新規治療戦略の開発	齋藤 鉄也	膠原病・リウマチ内科学	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
原発性眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤による医師主導による第Ⅱ相二重盲検比較試験	長尾 俊景	血液内科学	1,300,000	委	国立大学法人東京大学
診断未確定関節リウマチにおける先制医療のための統合ゲノムスコアの開発	細矢 匡	膠原病・リウマチ内科学	653,900	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
インドネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実装研究	前原 健寿	脳神経機能外科学	325,000	委	国立大学法人京都大学
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験	徳永 正則	消化管外科学	1,300,000	委	静岡県立静岡がんセンター
膵がん早期発見・精密治療方針決定を実現する新規放射性抗体医薬を用いた超音波内視鏡ガイド投与による革新的PET画像診断の第Ⅰ相医師主導治験	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	520,000	委	神奈川県がんセンター
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	鴨居 功樹	眼科学	650,000	委	国立大学法人長崎大学
ゲノム情報を基盤としたHTLV-1感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究	鴨居 功樹	眼科学	1,300,000	委	国立大学法人東京大学
原発性免疫不全症の診断率向上に向けたCD45陽性細胞を用いたマルチオミックス解析の開発	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	780,000	委	国立大学法人広島大学
プリオン病国際医師主導治験獲得のためのプリオン病早期診断基準の作成と非侵襲性診断法の開発	三條 伸夫	脳神経病態学	650,000	委	国立大学法人長崎大学
肝線維化の非侵襲的評価のための血清・肝組織糖鎖バイオマーカーの探索と実用化に関する研究	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,300,000	委	国立大学法人北海道大学

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
原発性免疫異常症患者を対象としたシロリムスの有効性及び安全性を検討する 医師主導治験	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学 講座	45,656,000	委	国立研究開発法人日本医療研 究開発機構(AMED)シーズ開 発・研究基盤事業部 拠点研究 事業課

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
うつ・不安症状を伴う更年期障害患者に対するピリドキサミンの臨床開発	竹内 崇	精神行動医科学	130,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課
21水酸化酵素欠損症の新たな小児期先制医療を目指した患者レジストリ構築、治療マーカーおよび簡便な遺伝学的検査法の確立	平川 晃弘	臨床統計学分野	390,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬事業部創薬企画・評価課
薬物療法により臨床的完全奏効が得られた HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有効性に関する単群検証の試験	石場 俊之	総合外科学	200,000	委	群馬県立がんセンター
高安動脈炎における血管合併症バイオマーカーの開発に向けたエビデンス創出研究	前嶋 康浩	循環制御内科学	1,560,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
異常タンパク質の脳内伝播を標的とする中枢神経変性疾患の非侵襲的な核酸ナノ医薬品の開発	桑原 宏哉	脳神経病態学	5,200,000	委	国立大学法人徳島大学
早期関節リウマチの滑膜と末梢血情報による予後予測モデルの構築	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	130,000	委	国立大学法人東京大学
希少難病に対するN-of-1+核酸医薬創薬研究	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	520,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬事業部創薬企画・評価課
脊髄小脳失調症31型に対する核酸医薬開発	石川 欽也	ゲノム健康医療学分野	18,082,525	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬事業部創薬企画・評価課
網羅的ゲノム解析のデータ二次利用に基づく原発性免疫不全症の広域診断体制の構築に直結するエビデンス創出研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	1,300,000	委	国立大学法人広島大学
性分化疾患・性成熟疾患の治療成績向上に向けたエビデンス創出	鹿島田 健一	発生発達病態学	1,040,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
非浸潤性乳管癌(DCIS)に対する有効かつ安全な患者QOLの向上をめざした手術省略による新たな標準治療開発のための多施設共同臨床試験	石場 俊之	総合外科学	260,000	委	新潟県立がんセンター新潟病院
脊髄小脳変性症の治療法開発に直結するエビデンス創出研究	石川 欽也	ゲノム健康医療学分野	650,000	委	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
Stage I/II舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学	260,000	委	愛知県がんセンター
筋萎縮性側索硬化症に対する治療薬の臨床評価ガイドライン作成に関する研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	195,000	委	国立大学法人徳島大学
HBVトランスクリプトームを基軸としたHBV病態の診断と完全克服	柿沼 晴	疾患生理機能解析学分野	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
全身型若年性特発性関節炎に対する診断率向上および治療効果、予後予測指標の確立を目指したエビデンス創出研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	650,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬事業部創薬企画・評価課

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
ロングリードシーケンスを用いた先天性免疫異常症診断	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	650,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬事業部創薬企画・評価課
超希少難病である特発性胸膜肺実質線維弾性症(iPPFE)における疾患レジストリの構築と治療最適化のためのTreatable traits の究明	立石 知也	呼吸・睡眠制御学講座	390,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)創薬事業部創薬企画・評価課
「乳児急性リンパ性白血病の新規治療戦略確立をめざす国際共同第Ⅲ相臨床試験」開発研究	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	1,430,000	委	国立大学法人大阪大学
不良細胞外小胞を標的とした慢性腎臓病と腎性老化現象の病態解明	吉岡 耕太郎	脳神経病態学分野	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
ゲノム情報を基盤としたHTLV-1感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究	鴨居 功樹	眼科学	1,300,000	委	国立大学法人東京大学
化学療法が奏効した診断時切除不能cStage IVB/pStage IV胃癌に対するConversion surgeryの意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	徳永 正則	消化管外科学	910,000	委	国立大学法人岐阜大学
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)):希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	3,591,387	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
DDS内在型2本鎖核酸医薬技術の創生	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	10,400,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
上皮細胞サーキュレーションによる疾患制御イノベーション	水谷 知裕	消化器病態学	9,880,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
幻覚スペクトラムの操作と可視化	高橋 英彦	精神行動医科学	38,350,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
統合失調症のシナプス免疫病態の解明と治療法の確立	塩飽 裕紀	精神行動医科学	3,900,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
循環細胞外小胞の制御によるサルコペニア・慢性腎臓病の克服	萬代 新太郎	腎臓内科学分野	6,500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
①末梢臓器情報を中枢に伝達する分子機序解明とその制御法の開発 ②糖尿病未病・超早期状態におけるデータセットの構築と解析	山田 哲也	分子内分泌代謝学	119,600,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	高橋 英彦	精神行動医科学	4,680,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	笹野 哲郎	循環制御内科学	10,400,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点	平川 晃弘	臨床統計学分野	3,250,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE) (3)	長野 拓也	腫瘍放射線治療学	9,739,600	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	高橋 英彦	精神行動医科学	1,560,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
医療用ARグラスに対するシーズおよびニーズ抽出	吉田 宗一郎	腎泌尿器外科学	13,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
フレイル高齢者に対する老年医学・老年栄養学的介入および老年医学の発展に関する研究	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	500,000	委	国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者に対する老年医学・老年栄養学的介入および老年医学の発展に関する研究	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	500,000	委	国立長寿医療研究センター
継続的な行動変容を促す食育的オーラルフレイル予防Dxプロジェクト	松尾 浩一郎	地域・福祉口腔機能管理学分野	23,723,700	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 医療機器・ヘルスケア事業部 ヘルスケア研究開発課
継続的な行動変容を促す食育的オーラルフレイル予防Dxプロジェクト	相田 潤	健康推進歯学	3,836,300	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 医療機器・ヘルスケア事業部 ヘルスケア研究開発課
骨組成骨セメントの創製	丸川 恵理子	口腔再生再建学分野	3,900,000	委	国立大学法人九州大学
血管を起点としたがん微小環境ネットワーク制御機構に基づく口腔がん治療法の開発	原田 浩之	顎口腔腫瘍外科学分野	1,040,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MRデバイスを用いた歯科インプラント外科手術のデータベース構築と遠隔手術支援に関する基盤構築研究	金澤 学	高齢者歯科学分野	5,933,980	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	松尾 浩一郎	地域・福祉口腔機能管理学分野	6,760,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE) (3)	金澤 学	高齢者歯科学分野	4,225,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
歯ぎしりの咬合圧・咬筋筋活動測定フィードバックによる新しい治療システム開発	大森 浩子	矯正歯科	26,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 医療機器・ヘルスケア事業部
TNF α 阻害薬使用中のリウマチ疾患患者における弱毒性ワクチン接種	清水 正樹	小児科	50,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
赤外線センサを利用した定量的運動機能計測による神経疾患病態評価システムの開発	本多 武尊	長寿・健康人生推進センター	924,000	委	国立大学法人東京大学
間質性肺炎により促進される肺がん機構の免疫ゲノム学的理解と治療戦略の提案	本多 隆行	呼吸器内科	1,950,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
全身型若年性特発性関節炎に対する診断率向上および治療効果、予後予測指標の確立を目指したエビデンス創出研究	清水 正樹	小児科	12,200,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 創薬事業部 創薬企画・評価課
AMPKシグナルを基軸とした尿細管上皮細胞修復障害の解明と治療戦略	菊池 寛昭	血液浄化療法部	9,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
ドナー肺のex vivo長時間機能温存灌流法	長岡 英気	心臓血管外科	1,560,000	委 国立研究開発法人産業技術総合研究所
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクスポソーム研究	岡本 師	長寿・健康人生推進センター	65,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
発症後に治療した重症脊髄性筋萎縮症乳児例に生じる早期発症脊柱側弯症に対する姿勢管理を中心としたリハビリテーション介入の予防効果についての検討	水野 朋子	小児科	1,751,880	委 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	藍 真澄	保険医療管理部	4,160,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
時相調整による腸上皮細胞の運命転換機構の解明と応用	油井 史郎	再生医療研究センター(消化器内科)	9,100,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
ゲノム医療・研究推進社会に向けた試料・情報の利活用とPPI施策に関する研究開発	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	29,900,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)ゲノム・データ基盤事業部 ゲノム・データ研究開発課
医学研究の開発における質の高い倫理審査を支える専門職の養成、ネットワーク構築、および研究者支援体制の開発	江花 有亮	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	29,900,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)研究公正・業務推進部 研究公正・社会共創課
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク・ネットワーク構築とバイオバンク利活用促進に関する研究開発	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	13,435,500	委 国立大学法人東北大学
MS目標2の包括データベース構築、数理解析および連携研究に伴う倫理的、法的、社会的課題への対応	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	1,950,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
運動機能の増進から健康長寿を高めるシーズとモダリティ開発	関矢 一郎	再生医療研究センター(輸血・細胞治療センター)	13,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)シーズ開発・研究基盤事業部 革新的先端研究開発課
変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験	関矢 一郎	再生医療研究センター(輸血・細胞治療センター)	81,900,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)再生・細胞医療・遺伝子治療事業部 再生医療研究開発課
関節リウマチ滑膜線維芽細胞・マクロファージ炎症性サブセットを標的とした新規治療戦略の開発	関矢 一郎	再生医療研究センター(輸血・細胞治療センター)	2,600,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課
創発的研究推進のための研究環境整備	油井 史郎	再生医療研究センター(消化器内科)	1,216,800	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
AI及びリモートテクノロジーを用いた心房細動の早期発見により清水区を脳梗塞の少ないまちにする地域医療共同研究(臨床研究)	笹野 哲郎	循環制御内科学	32,660,000	委 静岡市

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
日本人女性のマンモグラフィにおける深層学習診断支援システムの診断性能の検証	藤岡 友之	先端人工知能医用画像診断学講座	2,400,000	委	独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病患者由来kidney-on-a-chipの開発	森 雄太郎	腎臓内科学	150,000	委	独立行政法人日本学術振興会
中小病院におけるポストコロナ時代の感染症健康危機への対応能力強化事業	具 芳明	統合臨床感染症学分野	21,600,000	委	東京都
寝たきりを20%減らすAI心房細動検診	笹野 哲郎	循環制御内科学	30,000,000	委	東京都
放射線被爆や痛みを伴わない摂食嚥下機能検査システムの研究開発	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	245,960	委	公益財団法人いわて産業振興センター
子ども食堂を活用した口の健康と食育の複合プログラムの開発と実施	日高 玲奈	地域・福祉口腔機能管理学分野	6,000,000	委	東京都

計605件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Akiyama M, Kanayama M, Umezawa Y, et al	血液内科	An early regulatory mechanism of hyperinflammation by restricting monocyte contribution.	Front Immunol. 2024 Jul 8;15:1398153. (オンライン)	Original Article
2	Umezawa Y, Yoshifuji T, Tanaka K, et al	血液内科	Impact of BK polyomavirus viremia on the outcomes of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Ann Hematol. 2024 May;103(5):1737-1744	Original Article
3	Oba S, Hosoya T, Kawata D, et al	膠原病・リウマチ内科	Iguratimod, a promising therapeutic agent for COVID-19 that attenuates excessive inflammation in mouse models.	Eur J Pharmacol. 2025 Jun 5;996:177537.	Original Article
4	Kawata D, Iwai H, Oba S, et al	膠原病・リウマチ内科	Diverse pro-inflammatory ability of mutated spike protein derived from variant strains of SARS-CoV-2.	Cytokine. 2024 Jun;178:156592.	Original Article
5	Kawata D, Hasegawa H, Kimura N, et al	膠原病・リウマチ内科	Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Myositis, Myocarditis, Myasthenia Gravis, and Autonomic Neuropathy Successfully Treated With Rituximab.	Muscle Nerve. 2025 Mar;71(3):489-491.	Letter
6	Itakura T, Sasaki H, Hosoya T, et al	膠原病・リウマチ内科	The role of TRECs/KRECs as immune indicators that reflect immunophenotypes and predict the risk of infection in systemic autoimmune diseases.	Immunol Med. 2025 Feb 3:1-12.	Original Article
7	Tagawa Y, Saito T, Iwai H, et al	膠原病・リウマチ内科	ARID5B is a negative modulator of IL-6 production in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts.	Immunol Med. 2024 Sep;47(3):176-185.	Original Article
8	Komiya Y, Kamiya M, Oba S, et al	膠原病・リウマチ内科	Necroptosis in alveolar epithelial cells drives lung inflammation and injury caused by SARS-CoV-2 infection.	Biochim Biophys Acta Mol Basis Dis. 2024 Dec;1870(8):167472.	Original Article
9	Mori M, Nakayama Y, Nishimata S, et al	膠原病・リウマチ内科、小児科	Efficacy and Safety of Long-Term Administration of Esomeprazole in Japanese Pediatric Patients Aged 1-14 Years with Chronic Gastric Acid-Related Disease.	Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr. 2024 Sep;27(5):274-285.	Original Article
10	Mori T, Fujimaru T, Liu C, et al	腎臓内科	CFAP47 is a novel causative gene implicated in X-linked polycystic kidney disease.	medRxiv [Preprint]. 2024 Apr 5:2024.04.05.24304760. (オンライン)	Original Article
11	Mori M, Mori Y, Nakao Y, et al	腎臓内科	Development of Adult Renal Tubular Organoids from Different Human Individuals in a Single Medium.	JMA J. 2025 Jan 15;8(1):191-197.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Mori T, Fujimaru T, Liu C, et al	腎臓内科	CFAP47 is Implicated in X-Linked Polycystic Kidney Disease.	Kidney Int Rep. 2024 Sep 24;9(12):3580–3591. (オンライン)	Original Article
13	Yanagi T, Kikuchi H, Takeuchi K, et al	腎臓内科	ULK1-regulated AMP sensing by AMPK and its application for the treatment of chronic kidney disease.	Kidney Int. 2024 Nov;106(5):887–906.	Original Article
14	Fujimaru T, Mori T, Sekine A, et al	腎臓内科	Importance of IFT140 in Patients with Polycystic Kidney Disease Without a Family History.	Kidney Int Rep. 2024 Jul 16;9(9):2685–2694. (オンライン)	Original Article
15	Matsuda Y, Yonetsu T, Kurihara K, et al	循環器内科	Excimer LASER coronary atherectomy for ST-segment elevation myocardial infarction: Insights from a multicenter registry.	J Cardiol. 2025 Jan 20:S0914–5087(25)00008–5.	Original Article
16	Nishimura T, Goya M, Fujimaki A, et al	循環器内科	Anatomic approach with bipolar ablation targeting isolated intramural septal substrate of ventricular tachycardia in a nonischemic cardiomyopathy patient.	HeartRhythm Case Rep. 2024 Oct 9;11(1):47–50. (オンライン)	Case Report
17	Iwakawa H, Takigawa M, Nakada K, et al	循環器内科	Efficacy and Safety of High-Power Short-Duration Ablation for Cavo-Tricuspid Isthmus With a Flexible-Tip Temperature-Controlled Power Regulation Catheter Performed by Electrophysiology Trainees.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2025 Feb;36(2):367–375.	Original Article
18	Ikenouchi T, Nitta J, Inaba O, et al	循環器内科	Embryological Classification of Arrhythmogenic Triggers Initiating AtrialA?Fibrillation.	J Am Coll Cardiol. 2024 Nov 19;84(21):2116–2128.	Original Article
19	Takamiya T, Miyamoto T, Miyazaki S, et al	循環器内科	Spatial relationship between evoked delayed potentials and deceleration zones of an isochronal late activation map in a patient with sarcoid-related ventricular tachycardia.	Indian Pacing Electrophysiol J. 2025 Jan–Feb;25(1):54–56.	Original Article
20	Yamaguchi J, Takigawa M, Goya M, et al	循環器内科	Feasibility and safety assessment of RF double applications in very high power and short duration ablation.	Heart Rhythm. 2024 Oct 19:S1547–5271(24)03453–2.	Original Article
21	Takigawa M, Miyazaki S, Yamamoto T, et al	循環器内科	Significance of the local largest bipolar voltage for the optimized ablation strategy using very high-power short duration mode.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2025 Jan;36(1):111–123.	Original Article
22	Sugiyama T, Kakuta T, Hoshino M, et al	循環器内科	Predictors of Optical Coherence Tomography-Defined Calcified Nodules in Patients With Acute Coronary Syndrome- A Substudy From the TACTICS Registry.	Circ J. 2024 Oct 25;88(11):1853–1861.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
23	Takamiya T, Takigawa M, Noda M, et al	循環器内科	Distribution of peak frequency and omnipolar voltage in electrograms across the atrial body and thoracic veins in a normal heart.	J Interv Card Electrophysiol. 2024 Dec;67(9):2003–2015.	Original Article
24	Sugiyama T, Jang IK	循環器内科	Is cutting-edge imaging technology superior to conventional angiography in improving outcomes of coronary artery stenting?	Cardiovasc Res. 2024 May 7;120(6):e17–e19.	Original Article
25	Takigawa M, Miyazaki S, Sasano T	循環器内科	Impact of Ethanol Infusion to the Vein of Marshall in Atrial Fibrillation and Atrial Tachycardia.	J Cardiovasc Dev Dis. 2024 Jun 21;11(7):183. (オンライン)	Original Article
26	Katsuda H, Kobayashi M, Ito G, et al	消化器内科	Evaluating endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for diagnosis of small pancreatic neuroendocrine neoplasms.	Endosc Int Open. 2024 Nov 28;12(11):E1379–E1385. (オンライン)	Original Article
27	Katsuda H, Kobayashi M, Okamoto R	消化器内科	Gastrointestinal: Rupture of a pancreaticoduodenal artery aneurysm after endoscopic sphincterotomy in a case of median arcuate ligament syndrome.	J Gastroenterol Hepatol. 2025 Jan;40(1):8–9.	Review
28	Watakabe K, Miyoshi M, Kakinuma S, et al	消化器内科	A20 in hepatic stellate cells suppresses chronic hepatitis by inhibiting DCLK1–JNK pathway-dependent chemokines.	FASEB J. 2024 Jul 15;38(13):e23757.	Original Article
29	Katsuda H, Kobayashi M, Okamoto R	消化器内科	Endoscopic recanalization of an occluded Braun anastomosis using an endoscopic injection needle.	Dig Endosc. 2024 Jul;36(7):851–852.	Case Report
30	Takenaka K, Hisamatsu T, Kobayashi T, et al	消化器内科	Inadequate Efficacy of Biologics for Treating Proximal Ileal Lesions in Crohn’s Disease; A Prospective Multicenter Study.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2024 Dec 16:S1542–3565(24)01084–X.	Original Article
31	Kobayashi M, Katsuda H, Maekawa A, et al	消化器内科	Development of an intraductal papillary mucinous neoplasm malignancy prediction scoring system.	PLoS One. 2024 Oct 17;19(10):e0312234. (オンライン)	Original Article
32	Hamamura R, Kobayashi M, Okamoto R	消化器内科	Endoscopic transpapillary gallbladder drainage using a novel cholangioscope.	Dig Endosc. 2025 Apr;37(4):434–435.	Others
33	Murakawa M, Nakagawa M, Nishimura H, et al	消化器内科	High serum gamma-glutamyltransferase level after hepatitisA?C virus elimination is a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2024 Dec;54(12):1128–1138.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
34	Ishido S, Kobayashi M, Okamoto R	消化器内科	Low-cost and reliable method for confirming residual bile duct stones utilizing a novel peroral cholangioscope.	Dig Endosc. 2024 Oct;36(10):1173-1175.	Others
35	Oshina E, Kobayashi M, Okamoto R	消化器内科	Functional Gallbladder Disorder: Characteristic Hepatobiliary Scintigraphy Findings.	Intern Med. 2025 Apr 1;64(7):1119-1120.	Others
36	Kobayashi M, Niimi M, Katsuda H, et al	消化器内科	Optimization of Endoscopic Ultrasound Characteristics in the Diagnosis of Malignant Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm.	Pancreas. 2024 Jul 1;53(6):e521-e527.	Original Article
37	Shimizu H, Aonuma Y, Hibiya S, et al	消化器内科	Long-term efficacy and safety of tofacitinib in patients with ulcerative colitis: 3-year results from a real-world study.	Intest Res. 2024 Jul;22(3):369-377.	Original Article
38	Sugihara HY, Okamoto R, Mizutani T	消化器内科	Intestinal organoids: The path towards clinical application.	Eur J Cell Biol. 2025 Mar;104(1):151474.	Review
39	Morikawa R, Nitta K, Yasuda S, et al	消化器内科	Identification of risk factors for gastrointestinal immune-related adverse events associated with immune check point inhibitors.	Expert Opin Drug Saf. 2024 Dec 18:1-8.	Original Article
40	Tamura A, Shimizu H, Fujii T, et al	消化器内科	Comparative short-term efficacy of upadacitinib versus tofacitinib for ulcerative colitis: a 24-week real-world study in Japan.	Intest Res. 2025 Mar 20.	Original Article
41	Takahashi J, Sugihara HY, Kato S, et al	消化器内科	Controlled aggregative assembly to form self-organizing macroscopic human intestine from induced pluripotent stem cells.	Cell Rep Methods. 2024 Dec 16;4(12):100930.	Original Article
42	Tsuchiya J, Miyoshi M, Kakinuma S, et al	消化器内科	Hepatitis B Virus-KMT2B Integration Drives Hepatic Oncogenic Processes in a Human Gene-edited Induced Pluripotent Stem Cells-derived Model.	Cell Mol Gastroenterol Hepatol. 2025;19(2):101422.	Original Article
43	Mizutani T, Boretto M, Lim S, et al	消化器内科	Recapitulating the adenoma-carcinoma sequence by selection of four spontaneous oncogenic mutations in mismatch-repair-deficient human colon organoids.	Nat Cancer. 2024 Dec;5(12):1852-1867.	Original Article
44	Shimizu M, Inoue E, Sakai R, et al	小児科	Verification of unmet medical needs in patients with juvenile idiopathic arthritis in Japan.	Mod Rheumatol. 2025 Mar 31:roaf032.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
45	Shmizu M, Kaneko S, Shimbo A, et al	小児科	Anifrolumab for refractory cutaneous lupus lesions in pediatric systemic lupus erythematosus.	Lupus. 2025 Apr;34(5):533–536.	Case Report
46	Kaneko S, Tomomasa D, Hatano M, et al	小児科	Epstein–Barr Virus–Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis in a Patient With BehA § et’s Disease Treated With Adalimumab.	Int J Rheum Dis. 2025 Feb;28(2):e70107.	Letter
47	Osaka K, Nishi K, Inoki Y, et al	小児科	Long–term need and potential for withdrawal of enteral feeding in children with chronic kidney disease stage 5D or 5T.	Clin Exp Nephrol. 2025 Mar 4.	Original Article
48	Tomomasa D, Nishimura M, Ohya A, et al	小児科	Comprehensive flow cytometry–based diagnosis of XIAP deficiency.	Clin Exp Immunol. 2025 Jan 21;219(1):uxaf020.	Original Article
49	Kirino S, Nakagawa R, Gau M, et al	小児科	Analysis of Functional cis–Regulatory Elements Reveals Novel Transcriptional Regulatory Mechanisms in Gonadal Development.	Sex Dev. 2024;18(1–6):14–26.	Original Article
50	Kaneda T, Nishi K, Shimojima N, et al	小児科	Feasibility of peritoneal dialysis and survival outcomes following laparotomy in children with kidney failure: a single–center, retrospective, observational study in Japan.	Pediatr Nephrol. 2025 Mar 21.	Original Article
51	Tomomasa D, Suzuki T, Takeuchi I, et al	小児科	Successful Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Patients with IL10RA Deficiency in Japan.	J Clin Immunol. 2024 Sep 12;45(1):6. (オンライン)	Original Article
52	Hiroki H, Moriya K, Uchiyama T, et al	小児科	A high–throughput TREC– and KREC–based newborn screening for severe inborn errors of immunity.	Pediatr Int. 2025 Jan–Dec;67(1):e15872.	Original Article
53	Okuchi I, Nishimura A, Kamiya T, et al	小児科	Monitoring measurable residual disease in NUP98::NSD1–positive acute myeloid leukemia.	Pediatr Int. 2025 Jan–Dec;67(1):e15859.	Original Article
54	Inoue K, Tomomasa D, Nakagama Y, et al	小児科	Real–world experience of tixagevimab/cilgavimab prophylaxis in Japanese patients with immunodeficiency.	J Infect Chemother. 2025 Feb;31(2):102577.	Original Article
55	Akutsu Y, Ota M, Itamiya T, et al	小児科	Effect of Epstein–Barr Virus infection on gene regulation in immune cells of patients with Immune–Mediated Diseases.	J Autoimmun. 2025 Jan;150:103355.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
56	Shimizu M, Baba Y	小児科	Multiple Conjunctival Ulcers in Behçet Disease.	J Clin Rheumatol. 2024 Dec 1;30(8):e185.	Original Article
57	Tsuji-Hosokawa A, Tsuchiya I, Shimizu K, et al	小児科	Genetically humanized phenylketonuria mouse model as a testing tool for human genome editing in fertilized eggs.	J Inherit Metab Dis. 2025 Jan;48(1):e12803.	Original Article
58	Kaneko S, Shimbo A, Irabu H, et al	小児科	Serum interleukin-18 levels can improve the diagnostic performance of the PRINTO and ILAR criteria for systemic juvenile idiopathic arthritis.	Cytokine. 2024 Oct;182:156719.	Original Article
59	Tomomasa D, Tanita K, Hiruma Y, et al	小児科	Highly sensitive detection of Epstein-Barr virus-infected cells by EBER flow FISH.	Int J Hematol. 2024 Aug;120(2):241-251.	Original Article
60	Sugie M, Nawa N, Noguchi Y, et al	小児科	Stage III Chorioamnionitis is Associated with Reduced Risk of Severe Retinopathy of Prematurity.	J Pediatr. 2024 Sep;272:114085.	Original Article
61	Miyamoto S, Niizato D, Tomomasa D, et al	小児科	Allogeneic Hematopoietic cell Transplantation Using Alemtuzumab in Asian Patients with Inborn Errors of Immunity.	J Clin Immunol. 2024 May 22;44(6):126. (オンライン)	Original Article
62	Kaneko S, Shimbo A, Irabu H, et al	小児科	Pathogenic role and diagnostic utility of interferon- γ in histiocytic necrotizing lymphadenitis.	Clin Immunol. 2024 Sep;266:110324.	Original Article
63	Yamashita M, Morio T	小児科	AIOLOS-Associated Inborn Errors of Immunity.	J Clin Immunol. 2024 May 22;44(6):128. (オンライン)	Original Article
64	Takasawa K, Iemura R, Orimoto R, et al	小児科	Clinical management of diazoxide-unresponsive congenital hyperinsulinism: A single-center experience.	Clin Pediatr Endocrinol. 2024;33(3):187-194.	Case Report
65	Shimizu M	小児科	Clinical Features of Cytokine Storm Syndrome.	Adv Exp Med Biol. 2024;1448:33-42.	Original Article
66	Kanamori T, Udagawa T, Fujii T, et al	小児科	Discordant Phenotypes of Nephritis in Patients with X-linked Agammaglobulinemia.	J Clin Immunol. 2024 Jul 25;44(7):164. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
67	Yamazaki S, Kaneko S, Shimbo A, et al	小児科、膠原病・リウマチ内科	Overlapping Aicardi-Goutières and Singleton-Merten syndromes with a heterozygous gain-of-function mutation in IFIH1 mimicking juvenile idiopathic arthritis.	Immunol Med. 2025 Mar 21:1–5.	Original Article
68	Tamura T, Takagi S, Hayakawa A, et al	精神科	Case report: Recurring and treatment-resistant depression in acquired hepatocerebral degeneration due to a congenital portosystemic shunt.	Front Psychiatry. 2024 Apr 23;15:1402695. (オンライン)	Case Report
69	Fujimoto Y, Fujino J, Matsuyoshi D, et al	精神科	Neural responses to gaming content on social media in young adults.	Behav Brain Res. 2024 Jun 5;467:115004.	Original Article
70	Toyoda S, Kikuchi M, Abe Y, et al	精神科	Schizophrenia-related Xpo7 haploinsufficiency leads to behavioral and nuclear transport pathologies.	EMBO Rep. 2025 Feb;26(4):948–981.	Original Article
71	Handa T, Sugiyama T, Islam T, et al	精神科	The neural pathway from the superior subpart of the medial habenula to the interpeduncular nucleus suppresses anxiety.	Mol Psychiatry. 2025 Mar 26.	Original Article
72	Yoshida N, Miyajima M, Suzuki Y, et al	精神科	Heart rate variability in schizophrenia: A comparative analysis before and after electroconvulsive therapy.	PCN Rep. 2024 Nov 14;3(4):e70030. (オンライン)	Original Article
73	Ito S, Tsukamoto S, Kagawa H, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	Short- and long-term outcomes of surgical treatment for inguinal lymph node metastasis in rectal and anal canal adenocarcinoma.	Colorectal Dis. 2024 Jul;26(7):1378–1387.	Original Article
74	Kasai S, Shiomi A, Shimizu H, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	Risk factors and development of machine learning diagnostic models for lateral lymph node metastasis in rectal cancer: multicentre study.	BJS Open. 2024 Jul 2;8(4):zrae073.	Original Article
75	Nakajima K, Takenaka S, Kitaguchi D, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	Artificial intelligence assessment of tissue-dissection efficiency in laparoscopic colorectal surgery.	Langenbecks Arch Surg. 2025 Feb 22;410(1):80. (オンライン)	Original Article
76	Sakai Y, Tokunaga M, Yamasaki Y, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	Evaluating the benefit of contact-force feedback in robotic surgery using the Saroa surgical system: A preclinical study.	Asian J Endosc Surg. 2024 Oct;17(4):e13395.	Original Article
77	Nakajima K, Kitaguchi D, Takenaka S, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	Automated surgical skill assessment in colorectal surgery using a deep learning-based surgical phase recognition model.	Surg Endosc. 2024 Nov;38(11):6347–6355.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
78	Ito S, Kinugasa Y, Yamauchi S, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	Long-term Outcome After Surgical Resection of Para-aortic Lymph Node Metastasis of Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study.	Dis Colon Rectum. 2024 Nov 1;67(11):1423-1436.	Original Article
79	Okuno K, Watanabe S, Hur H, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	An exosome-based liquid biopsy signature for therapeutic response prediction in metastatic gastric cancer.	Clin Transl Med. 2024 Jul;14(7):e1629.	Letter
80	Arai S, Kagawa H, Shiomi A, et al	消化管外科学(食道外科、胃外科、大腸・肛門外科)	Efficacy of inferior vesical vessels preservation in lateral lymph node dissection for rectal cancer: Short- and long-term outcomes.	Colorectal Dis. 2025 Feb;27(2):e70029.	Original Article
81	Yamane M, Ishikawa Y, Yamashita H, et al	肝胆膵外科	Middle segment preserving pancreatectomy versus total pancreatectomy: a comparative analysis of short- and long-term outcomes.	Surg Today. 2024 Dec 10.	Original Article
82	Taira N, Hara S, Namba A, et al	脳神経外科	Spatial coefficient of variation of arterial spin labeling magnetic resonance imaging can predict decreased cerebrovascular reactivity measured by acetazolamide challenge single-photon emission tomography.	Neuroradiology. 2024 Oct;66(10):1693-1703.	Original Article
83	Yamamura T, Tamura K, Kobayashi D, et al	脳神経外科	Loss of methylthioadenosine phosphorylase immunoreactivity correlates with poor prognosis and elevated uptake of (11)C-methionine in IDH-mutant astrocytoma.	J Neurooncol. 2024 Jun;168(2):355-365.	Original Article
84	Hirai S, Hanazawa R, Yoshimura M, et al	血管内治療科	Safety and Efficacy of Management for Intraprocedural Rupture During Endovascular Treatment for Intracranial Aneurysms.	Neurosurgery. 2025 Mar 1;96(3):568-576.	Original Article
85	Fujii S, Fujita K, Hirai S, et al	血管内治療科	Evaluating the Safety of Stent-Assisted Endovascular Treatment for Unruptured Cerebral Aneurysms in Older Adults: Emphasizing the Role of Antiplatelet Therapy.	Cerebrovasc Dis. 2024 Oct 10:1-10.	Original Article
86	Hirai S, Fujita K, Fujii S, et al	血管内治療科	Study protocol of the ASTOP trial: A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of presurgical aspirin administration for the prevention of thromboembolic complications of coil embolization for ruptured aneurysms.	PLoS One. 2024 Sep 26;19(9):e0310906. (オンライン)	Original Article
87	Fujii S, Fujita K, Ishikawa M, et al	血管内治療科	Postoperative Time-of-Flight Magnetic Resonance Angiography Classification is a Predictor of Postoperative Recanalization of Unruptured Cerebral Aneurysms.	World Neurosurg. 2025 Feb;194:123496.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
88	Yamaoka H, Hirai S, Hanazawa R, et al	血管内治療科	A thoracic CT imaging parameter predicting access difficulty in acute stroke thrombectomy.	Clin Neurol Neurosurg. 2024 Sep;244:108453.	Original Article
89	Ishikawa M, Takahashi S, Hirai S, et al	血管内治療科	Efficacy of endovascular treatment for distal anterior cerebral artery aneurysms: A multicenter observational study.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2024 Nov;33(11):107941.	Original Article
90	Yamada K, Yoshii T, Hirai T, et al	整形外科	Action protocol of medical staff for airway obstruction after anterior cervical spine surgery: A systematic review of case reports.	J Orthop Sci. 2025 Mar;30(2):259–266.	Original Article
91	Inose H, Takahashi S, Teraguchi M, et al	整形外科	Romosozumab versus bisphosphonates for preventing subsequent vertebral fractures after balloon kyphoplasty: comparison using data from two prospective multicenter studies.	JBMR Plus. 2024 Oct 29;9(1):ziae137. (オンライン)	Original Article
92	Kawabata A, Egawa S, Ogino M, et al	整形外科	Development and Evaluation of Thrombin-Loaded Gelatin Hemostatic Sheets for Spinal Surgery Applications.	Spine Surg Relat Res. 2024 Sep 9;9(2):218–225. (オンライン)	Original Article
93	Funauchi Y, Tsukushi S, Hiraga H, et al	整形外科	Study protocol: randomized phase III trial of neo-adjuvant and adjuvant chemotherapy vs. immediate surgery and adjuvant chemotherapy for localized soft tissue sarcoma: Japan Clinical Oncology Group study JCOG2102 (NACLESS).	Jpn J Clin Oncol. 2025 Mar 5;55(3):297–303.	Original Article
94	Hashimoto M, Hirai T, Sakai K, et al	整形外科	Comparison of Postoperative Complications and Outcomes in Anterior Cervical Spine Surgery: Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament Versus Cervical Spondylotic Myelopathy.	Clin Spine Surg. 2024 May 1;37(4):170–177.	Original Article
95	Onuma H, Hirai T, Sakai K, et al	整形外科	Identifying Factors for Predicting Postoperative Segmental Motor Paralysis in Patients Undergoing Anterior Cervical Spine Surgery: A Multicenter Study.	Spine (Phila Pa 1976). 2025 Mar 15;50(6):375–382.	Original Article
96	Hashimoto M, Egawa S, Hirai T, et al	整形外科	Detection of Dural Defect Localization Using 4-Dimensional Dynamic Computed Tomography Myelography for Patients with Superficial Siderosis.	World Neurosurg. 2024 Jul;187:e798–e806.	Original Article
97	Morishita S, Yoshii T, Inose H, et al	整形外科	Perioperative complications and cost of posterior decompression with fusion in thoracic spine for ossification of the posterior longitudinal ligament and ossification of the ligamentum flavum –a comparative study using a national inpatient database.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Jul 3;25(1):513. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
98	Nakagawa Y, Koga H, Sekiya I, et al	整形外科	Equivalent Clinical Outcomes Between Anatomical Alignment Versus Mechanical Alignment of Simultaneous Bilateral Total Knee Arthroplasty Using a Posterior-Stabilized Prosthesis During an Average Follow-Up of Five Years: A Prospective Randomized Clinical Trial.	J Arthroplasty. 2025 Jan;40(1):84–91.e2.	Original Article
99	Tachibana T, Katagiri H, Ogawa T, et al	整形外科	Enhancing the accuracy of cup placement in total hip arthroplasty using CT-based navigation by a trainee surgeon: a retrospective cohort study.	BMC Musculoskelet Disord. 2025 Mar 15;26(1):262. (オンライン)	Original Article
100	Ichimura Y, Konishi R, Shobo M, et al	皮膚科	Autoimmunity against melanoma differentiation-associated gene 5 induces interstitial lung disease mimicking dermatomyositis in mice.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2024 Apr 16;121(16):e2313070121.	Original Article
101	Okiyama N, Konishi R, Ichimura Y.	皮膚科	Murine models of idiopathic inflammatory myopathies.	J Dermatol. 2024 Jul;51(7):914–919.	Review
102	Isemoto K, Waseda Y, Fujiwara M, et al	泌尿器科	Predictive Potential of Contrast-Enhanced MRI-Based Delta-Radiomics for Chemoradiation Responsiveness in Muscle-Invasive Bladder Cancer.	Diagnostics (Basel). 2025 Mar 21;15(7):801. (オンライン)	Original Article
103	Shimada K, Fujiwara M, Hirahara D, et al	泌尿器科	Monitoring prostate cancer after low-dose-rate hemigland brachytherapy with delta-radiomics of diffusion-weighted magnetic resonance imaging.	Int J Urol. 2024 Dec;31(12):1443–1445.	Original Article
104	Tanaka H, Yoshida S, Aoyama S,et al	泌尿器科	A case of double-negative prostate cancer with BRCA2 mutation and high tumor mutation burden treated sequentially with olaparib and pembrolizumab	IJU Case Rep. 2024 Aug 4;7(5):395–398.	Case report
105	Takahashi T, Kamoi K, Ohno-Matsui K	眼科	Retinopathy After Epiretinal Membrane Peeling.	JAMA Ophthalmol. 2024 Nov 1;142(11):e244290.	Original Article
106	Zong Y, Kamoi K, Miyagaki M, et al	眼科	Applications of Biological Therapy for Latent Infections: Benefits and Risks.	Int J Mol Sci. 2024 Aug 24;25(17):9184. (オンライン)	Original Article
107	Suzuki Y, Kiyosawa M, Ishii K	眼科	Measurement of Cerebral Glucose Metabolism in the Visual Cortex Predicts the Prognosis of Hemianopia.	Neurorehabil Neural Repair. 2024 Jun;38(6):437–446.	Original Article
108	Zou Y, Kamoi K, Zong Y, et al	眼科	Vaccines and the Eye: Current Understanding of the Molecular and Immunological Effects of Vaccination on the Eye.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 26;25(9):4755. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
109	Takahashi H, Hwang Y, Won J, et al	眼科	Evaluating Blood Flow Speed in Retinal Microaneurysms Secondary to Diabetic Retinopathy Using Variable Interscan Time Analysis OCTA.	Transl Vis Sci Technol. 2025 Feb 3;14(2):27.	Original Article
110	Lu H, Wu Y, Xiong J, et al	眼科	Whorl-Like Collagen Fiber Arrangement Around Emissary Canals in the Posterior Sclera.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2025 Mar 3;66(3):35.	Original Article
111	Zong Y, Kamoi K, Zhang J, et al	眼科	The Silent Epidemic: Unveiling Herpetic Uveitis in the Elderly.	J Med Virol. 2025 Mar;97(3):e70286.	Original Article
112	Chen C, Ohno-Matsui K	眼科	Development of posterior staphyloma in a child with retinitis pigmentosa and high myopia detected by Ultra-widefield Optical Coherence Tomography: A 4-year follow-up.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2025 Mar 5;38:102301. (オンライン)	Case Report
113	Sugisawa K, Takahashi H, Yamanari M, et al	眼科	Visualization of the scleral structure changes at various stages of eyes with myopic maculopathy using polarization-sensitive OCT.	Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2024 Nov-Dec;13(6):100117.	Original Article
114	Yasuda S, Yoshida T, Suzuki Y, et al	眼科	Retromode Infrared Scanning Laser Ophthalmoscopy in Vogt-Koyanagi-Harada Disease.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2025 Apr;263(4):1089-1103.	Original Article
115	Kamoi K, Uchimar K, Nannya Y, et al	眼科	Sexual transmission of HTLV-1 resulting in uveitis with short-term latency and low proviral load.	J Med Virol. 2024 Oct;96(10):e70000.	Case Report
116	Mizuno-Onishi Y, Igarashi T, Uramoto K, et al	眼科	FOUR-YEAR OUTCOMES AFTER INTRAVITREAL AFLIBERCEPT FOR MACULAR NEOVASCULARIZATION IN PATIENTS WITH PATHOLOGIC MYOPIA.	Retina. 2025 Mar 1;45(3):464-471.	Original Article
117	Hady SK, Xie S, Ito T, et al	眼科	Morphology and incidence of drusen-like deposits in peripheral retina of eyes with high myopia.	Eye (Lond). 2025 Mar;39(4):718-724.	Original Article
118	Zhang J, Kamoi K, Zong Y, et al	眼科	Cytomegalovirus Retinitis: Clinical Manifestations, Diagnosis and Treatment.	Viruses. 2024 Sep 7;16(9):1427. (オンライン)	Original Article
119	Zong Y, Miyagaki M, Yang M, et al	眼科	Ophthalmic Use of Targeted Biologics in the Management of Intraocular Diseases: Current and Emerging Therapies.	Antibodies (Basel). 2024 Oct 11;13(4):86. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
120	Miyagaki M, Zong Y, Yang M, et al	眼科	Ocular Toxoplasmosis: Advances in Toxoplasma gondii Biology, Clinical Manifestations, Diagnostics, and Therapy.	Pathogens. 2024 Oct 14;13(10):898. (オンライン)	Original Article
121	Horie S, Suzuki Y, Yoshida T, et al	眼科	Blue Wavelength of Scanning Laser Ophthalmoscope Potentially Detects Arteriosclerotic Lesions in Diabetic Retinopathy.	Diagnostics (Basel). 2024 Jul 2;14(13):1411. (オンライン)	Original Article
122	Zhang J, Kamoi K, Zong Y, et al	眼科	Evaluating tocilizumab safety and immunomodulatory effects under ocular HTLV-1 infection in vitro.	Int Immunopharmacol. 2024 Aug 20;137:112460.	Original Article
123	Suzuki Y, Kiyosawa M, Wakakura M, et al	眼科	Hyperactivity of the medial thalamus in patients with photophobia-associated migraine.	Headache. 2024 Sep;64(8):1005-1014.	Original Article
124	Mizoguchi Y, Ito T, Yamada M, et al	耳鼻咽喉科	Deep learning multi-classification of middle ear diseases using synthetic tympanic images.	Acta Otolaryngol. 2025 Feb;145(2):134-139.	Original Article
125	Ito T, Fujikawa T, Takeda T, et al	耳鼻咽喉科	Integration of Augmented Reality in Temporal Bone and Skull Base Surgeries.	Sensors (Basel). 2024 Nov 1;24(21):7063. (オンライン)	Original Article
126	Ooka T, Ariizumi Y, Asakage T, et al	耳鼻咽喉科	Treatment outcomes of 73 cases of external auditory canal squamous cell carcinoma: A single-center six-year analysis in Japan.	Auris Nasus Larynx. 2025 Apr;52(2):158-166.	Original Article
127	Sekiguchi M, Muromoto J, Ogawa K, et al	周産・女性診療科	Longitudinal hematological change in uncomplicated twin pregnancies: The white blood cell count decreases through pregnancy after the first trimester.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2024 May;63(3):381-386.	Original Article
128	Odai T, Oshima N, Kori Y, et al	周産・女性診療科	Pleomorphic Rhabdomyosarcoma of the Uterine Corpus in an Adult Who Underwent Multi-gene Panel Testing.	Cancer Diagn Progn. 2024 May 3;4(3):363-369. (オンライン)	Original Article
129	Terauchi M, Ideno Y, Hayashi K	周産・女性診療科	Effect of shift work on excessive daytime sleepiness in female nurses: results from the Japan nurses' health study.	Ind Health. 2024.07; 62(4); 252-258	Original Article
130	Yoshimura RI, Toda K, Watanabe H, et al	放射線治療科	Efficacy and safety of diffusing alpha-emitter radiation therapy (DaRT) for head and neck cancer recurrence after radiotherapy.	Int J Clin Oncol. 2025 May;30(5):893-903.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Wakui M, Tsuchiya J, Kase C, et al	放射線診断科	Comparative Study of Metabolic Tumor Volume in Multiple Myeloma and Related Plasma Cell Dyscrasias: 11C-Acetate PET vs. 18F-FDG PET.	Cureus. 2024 Oct 16;16(10):e71605. (オンライン)	Original Article
132	Yamaya N, Kimura K, Ichikawa R, et al	放射線診断科	Prospective evaluation of PI-RADSV2.1 using multiparametric and biparametric MRI for detecting clinically significant prostate cancer based on MRI/US fusion-guided biopsy.	Jpn J Radiol. 2025 Mar;43(3):472-482.	Original Article
133	Tateishi U, Doi H	放射線部	Transient receptor potential cation channel subfamily V member 1 (TRPV1) targeted PET imaging.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Apr 6;54(4):386-394.	Original Article
134	Yamaga E, Fujioka T, Katsuta L et al	放射線診断科	Detecting Breast Cancer via Innovative Magnetic Resonance Elastography with External Vibrations to the Back	JMA Journal 2025; 8 (2): 596-598.	Case report
135	Yokoyama K, Tsuchiya J, Kuwahara H, et al	放射線診断科	18 F-FAZA, 18 F-FDG, and 123 I-IMP Imaging Reveal Hypoxia and Metabolism in Acute MOGAD.	Clin Nucl Med. 2025 Apr 1;50(4):e236-e237.	Case report
136	Iwase R, Ishiguro T, Hara RI, et al	脳神経内科	G-Quadruplex-Based Splice Switching as a Therapeutic Approach in Duchenne Muscular Dystrophy.	ACS Chem Biol. 2025 Mar 21;20(3):670-679.	Original Article
137	Hirata K, Matsuoka K, Tagai K, et al	脳神経内科	In Vivo Assessment of Astrocyte Reactivity in Patients with Progressive Supranuclear Palsy.	Ann Neurol. 2024 Aug;96(2):247-261.	Original Article
138	Nagaoka E, Arai H, Mizuno T, et al	心臓血管外科	Innovative Surgical Left Atrial Appendage Closure Technique: Early Experience of Inverted Spiral Closure Technique.	Innovations (Phila). 2024 Nov-Dec;19(6):656-659.	Original Article
139	Sugita Y, Muraoka D, Demachi-Okamura A, et al	呼吸器外科	Candidate tumor-specific CD8(+) T cell subsets identified in the malignant pleural effusion of advanced lung cancer patients by single-cell analysis.	Oncoimmunology. 2024 Jun 28;13(1):2371556. (オンライン)	Original Article
140	Asakawa A, Ishizawa R, Sato Y, et al	呼吸器外科	A Case of Induction Chemoimmunotherapy and Sleeve Lobectomy to Avoid Pneumonectomy for Central Squamous Cell Lung Cancer.	Surg Case Rep. 2025;11(1):24-0069.	Case Report
141	Ishibashi H, Aoki M, Baba S, et al	呼吸器外科	Tracheal Obstruction by Thyroid Gland Extension into the Trachea after Blunt Tracheal Transection.	Surg Case Rep. 2025;11(1):24-0072.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
142	Takahara H, Kanazawa T, Oshita H, et al	呼吸器外科	GPX4 and FSP1 Expression in Lung Adenocarcinoma: Prognostic Implications and Ferroptosis-Based Therapeutic Strategies.	Cancers (Basel). 2024 Nov 20;16(22):3888. (オンライン)	Original Article
143	Kurihara Y, Honda T, Takemoto A, et al	呼吸器外科	Immunohistochemistry of p53 surrogates TP53 mutation as an accurate predictor for early-relapse of surgically resected stage I-III lung adenocarcinoma.	JTCVS Open. 2024 Jun 14;20:183-193. (オンライン)	Original Article
144	Sato Y, Ishibashi H, Funauchi Y, et al	呼吸器外科	Excision of Giant Chronic Expanding Hematoma of the Thorax Caused by Rib Fractures after Proton Radiotherapy for Lung Cancer.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2024;30(1):24.00121.	Case Report
145	Asakawa A, Yoshimoto R, Kobayashi M, et al	呼吸器外科	The Comprehensive Characterization of B7-H3 Expression in the Tumor Microenvironment of Lung Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Study.	Cancers (Basel). 2024 Jun 4;16(11):2140. (オンライン)	Original Article
146	Ito M, Honda T, Onishi I, et al	呼吸器内科	A strong association between TTF-1 expression and interstitial lung disease in predicting the efficacy of PD-1 inhibitor for nonsquamous NSCLC patients.	ERJ Open Res. 2025 Feb 25;11(1):00628-2024. (オンライン)	Original Article
147	Iijima Y, Furusawa H, Yamana T, et al	呼吸器内科	Reevaluating diagnosis in interstitial lung disease with a second multidisciplinary discussion.	Respir Investig. 2024 Nov;62(6):1027-1033.	Original Article
148	Kato S, Mori H, Saiga M, et al	形成・美容外科	Nipple-areolar complex malposition in breast reconstruction after nipple-sparing mastectomy: a multi-institutional retrospective observational study in Japan.	Breast Cancer. 2024 Jul;31(4):649-658.	Original Article
149	Yamamoto M, Mori H, Akiyama M, et al	形成・美容外科	Fading and Color Reproducibility of Nipple-Areola Tattoos in Asian Patients.	Arch Plast Surg. 2024 Jun 19;51(4):356-362. (オンライン)	Original Article
150	Ishida N, Tanaka K, Murakami K, et al	再建形成外科	Closure of Large Tracheocutaneous Fistula Using Modified Hinge Flap and Deltopectral Flap.	Head Neck. 2024 Dec;46(12):E104-E108.	Case report
151	Onuma R, Hoshi F, Yamasaki HR, et al	リハビリテーション科	Association between freezing of gait and anticipatory postural adjustments in Parkinson's disease.	J Phys Ther Sci. 2024 Oct;36(10):667-671.	Original Article
152	Sakai T, Oishi T, Takashina Y, et al	リハビリテーション科	Serum 25(OH)D and vitamin K(1) levels in patients with severe motor and intellectual disability: A Japanese single-center experience.	Brain Dev. 2024 Sep;46(8):268-273.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
153	Onuma R, Yamasaki HR, Hoshi F, et al	リハビリテーション科	Analysis of the characteristics of anticipatory postural adjustments in older adults using smartphones: Association between cognitive and balance functions.	Gait Posture. 2024 Jul;112:115–119.	Original Article
154	Sakai T, Hirao M, Takashina Y, et al	リハビリテーション科	Radiofrequency echographic multi-spectrometry-based measurement of bone mineral density in patients with severe motor and intellectual disability: An opportunity for patients with severe scoliosis and hip dislocation.	Bone Rep. 2024 Jun 21;22:101781. (オンライン)	Original Article
155	Ohmi T, Katagiri H, Amemiya M, et al	スポーツ医歯学診療センター	Gait analysis of patients with knee osteoarthritis who can run versus cannot run.	Gait Posture. 2024 Jul;112:67–72.	Original Article
156	Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, et al	スポーツ医歯学診療センター	Reliability of Simple Reaction Time Measurement During Single-Leg Standing in Patients After Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction.	Cureus. 2025 Mar 4;17(3):e80051. (オンライン)	Original Article
157	Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, et al	スポーツ医歯学診療センター	Relationship Between Single-Leg Vertical Jump and Drop Jump Performance, and Return to Sports After Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Graft.	Int J Sports Phys Ther. 2024 Oct 1;19(10):1204–1215. (オンライン)	Original Article
158	Hirohata K, Aizawa J, Ohmi T, et al	スポーツ医歯学診療センター	Association Between Reactive Strength Index During Single-Limb Vertical Continuous Jumps and Isokinetic Knee Extensor Strength Following Anterior Cruciate Ligament Reconstruction	JOSPT open2025 Jan; vol.3,No.2	Original Article
159	Okamoto S, Shimada Y, Inoue N, et al	スポーツ医歯学診療センター	Asymmetry of the Trunk and Lower Extremity Joint Frontal Plane Kinematics During Single-Leg Standing and Squat in Paralympic Athletes With Upper Limb Deficiency Compared With Intact Athletes	JOSPT open2025 Jan; vol.3,No.2	Original Article
160	Kawasaki T, Ohji S, Aizawa J, et al.	スポーツ医歯学診療センター	Characteristics of head and neck alignment and function of deep cervical flexor muscles in patients with nonspecific neck pain	J Bodyw Mov Ther.2024 Jul;39:565–571.	Original Article
161	An J.S , Jacquet C, Loddo G, et al.	スポーツ医歯学診療センター	Deformity in valgus knee malalignment is not only in the femur but also in tibia or both, based on demographic and morphological analysis before and after knee osteotomies	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024 May;32(5):1087–1095.	Original Article
162	An J.S, Lahsika M, Nlandu A, et al.	スポーツ医歯学診療センター	Failure Rate of Meniscal Repair With ACL Reconstruction Among Professional Athletes: A Study of 196 Patients From the SANTI Study Group With a Mean Follow-up of 96 Months	Orthop J Sports Med. 2025 Feb 6;13(2):23259671241308591.	Original Article
163	Mizuno M, Kimbara S, Ichise H, et al	輸血・細胞治療センター	Cleaning methods for biosafety cabinet to eliminate residual mycoplasmas, viruses, and endotoxins after changeover.	Regen Ther. 2024 Dec 3;28:73–80. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
164	Mizuno M, Suda D, Matsumura C 他	輸血・細胞治療センター	Changeover method for biosafety cabinets using ozone gas.	PLoS One. 2025 Jan 28;20(1):e0318006. doi: 10.1371/journal.pone.0318006. eCollection 2025.	Original Article
165	Mizuno M, Abe K, Kakimoto T 他	輸血・細胞治療センター	Decreasing electricity costs of clean room for cell products during non-operation.	Regen Ther. 2024 Nov 16;26:1117-1123. doi: 10.1016/j.reth.2024.11.002. eCollection 2024 Jun.	Original Article
166	Kubo T, Takeuchi T, Inoue N, et al	集中治療部	Impact of early initiation of renal replacement therapy in patients on venoarterial ECMO using target trial emulation with Japanese nationwide data.	Sci Rep. 2025 Jan 7;15(1):1074. (オンライン)	Original Article
167	Uehara Y, Izumi H, Kobayashi IS, et al	がんゲノム診療科	Efficacy of EGFR tyrosine kinase inhibitors in patients with non-small cell lung cancer with EGFR exon 19 insertions: clinical-genomic, preclinical analysis through LC-SCRUM-Asia (multi-institutional genomic screening registry).	Jpn J Infect Dis. 2024 Sep 19;77(5):253-259.	Original Article
168	Uehara Y, Kato S, Nishizaki D, et al	がんゲノム診療科	4-1BB transcriptomic expression patterns across malignancies: Implications for clinical trials of 4-1BB agonists.	Cancer Commun (Lond). 2024 Oct;44(10):1168-1172.	Letter
169	Osaka H, Tagashira Y, Takeuchi H, et al	感染症内科(感染制御部)	Nosocomial Outbreak of SARS-CoV-2 in a Hospital Ward during the Omicron Variant-Dominant Wave with a Review of the Relevant Literature.	Jpn J Infect Dis. 2024 Sep 19;77(5):253-259.	Original Article
170	Noritake K, Tsuruta J, Mizutani K, et al	歯科総合診療科	Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum.	J Dent Sci. 2025 Apr;20(2):770-774.	Original Article
171	Noritake K, Yamaguchi K, Kikukawa M, et al	歯科総合診療科	Characteristics of Good Clinical Teachers: Insights From Japanese Clinical Trainee Dental Residents.	Eur J Dent Educ. 2025 May;29(2):462-471.	Original Article
172	Ukita N, Ogawa T, Yamada M, et al	矯正歯科	Functional Analyses of SATB2 Variants Reveal Pathogenicity Mechanisms Linked With SATB2-Associated Syndrome.	Am J Med Genet A. 2025 Jun;197(6):e64005.	Case Report
173	Shimizu M, Nakajima Y, Ogasawara T, et al	矯正歯科	Assessment of mandibular landmark specification: correspondence between two-dimensional radiography and three-dimensional computed tomography.	Dentomaxillofac Radiol. 2025 Mar 20;twaf020.	Original Article
174	Kaisaka Y, Uezono M, Inoue M, et al	矯正歯科	Novel Subperiosteal Device Geometry and Investigation of Efficacy on Surrounding Bone Formation and Bone-Bonding Strength.	Bioengineering (Basel). 2024 Nov 7;11(11):1122. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
175	Ogawa T, Xue J, Guo L, et al	矯正歯科	Identification of a de novo PUF60 variant associated with craniofacial microsomia.	Am J Med Genet A. 2024 Sep;194(9):e63631.	Case Report
176	Takagiwa Y, Higashihori N, Kano S, et al	矯正歯科	Roles of the histone methyltransferase SET domain bifurcated 1 in epithelial cells during tooth development.	Arch Oral Biol. 2024 Sep;165:106026.	Original Article
177	Kato C, Ishizuka K, Ono T	矯正歯科	Clinical risk factors caused by third molar levelling following extraction of a mandibular second molar.	Eur J Orthod. 2025 Feb 7;47(2):cjaf005.	Original Article
178	Chen Y, Yonemitsu I, Usumi-Fujita R, et al	矯正歯科	Development of animal model for anterior open bite and mechanism of temporomandibular joint morphological change: an implication for MAC surgery.	BMC Oral Health. 2025 Feb 22;25(1):283. (オンライン)	Original Article
179	Suzuki T, Hosomichi J, Maeda H, et al	矯正歯科	Gestational intermittent hypoxia reduces mandibular growth with decreased Sox9 expression and increased Hif1a expression in male offspring rats.	Front Physiol. 2024 Jun 11;15:1397262. (オンライン)	Original Article
180	Iwaki S, Yonemitsu I, Tabata M, et al	矯正歯科	Unilateral nasal obstruction mediates reversible morphological and phenotypic changes in masticatory muscles of growing rats.	Eur J Orthod. 2024 Apr 1;46(2):cjae001.	Original Article
181	Nakano Y, Zaito T, Yonemitsu I, et al	矯正歯科	Influence of Orthodontic-Related Complaints on Absenteeism and Presenteeism Among Japanese Workers.	Cureus. 2025 Mar 28;17(3):e81384. (オンライン)	Original Article
182	Ishizuka K, Kato C, Fujita A, et al	矯正歯科	Factors influencing root resorption in retained mandibular second deciduous molars with congenital absence of second premolars: a cross-sectional study.	Prog Orthod. 2024 Apr 1;25(1):14. (オンライン)	Original Article
183	Ishizaki-Terauchi A, Ishida Y, Okuzawa-Iwasaki M, et al	矯正歯科	Relationship Between Laterality of Orthodontic Miniscrew Failure and Clinical Variables.	J Clin Med. 2024 Nov 25;13(23):7115. (オンライン)	Original Article
184	Akakura M, Watari I, Watanabe M, et al	矯正歯科	Expression of Glucagon-Like Peptide-1 Receptors in the Submandibular Gland of Mice and Its Implications in Type 2 Diabetes.	Cureus. 2024 Sep 29;16(9):e70465. (オンライン)	Original Article
185	Tanigawa M, Liu M, Sekiguchi M, et al	矯正歯科	Nasal obstruction during development leads to defective synapse elimination, hypersynchrony, and impaired cerebellar function.	Commun Biol. 2024 Oct 23;7(1):1381. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
186	Huang AC, Ishida Y, Hatano-Sato K, et al	矯正歯科	NF- κ B Decoy Oligodeoxynucleotide-Loaded Poly Lactic-co-glycolic Acid Nanospheres Facilitate Socket Healing in Orthodontic Tooth Movement.	Int J Mol Sci. 2024 May 10;25(10):5223. (オンライン)	Original Article
187	Srisutha J, Watari I, Akakura M, et al	矯正歯科	P2X7R and P2X4R expression of mice submandibular gland in high-fat diet/streptozotocin-induced type 2 diabetes.	Sci Rep. 2024 May 13;14(1):10855. (オンライン)	Original Article
188	Shimizu-Tomoda C, Ishida Y, Ishizaki-Terauchi A, et al	矯正歯科	Effects of Occlusal Contact on Maxillary Alveolar Bone Morphology in Patients with and without Anterior Open Bite: A Cross-Sectional Study.	J Clin Med. 2024 May 23;13(11):3061. (オンライン)	Original Article
189	Qi J, Matsumoto Y, Xie C, et al	矯正歯科	Prevention of bone dehiscence associated with orthodontic tooth movement by prophylactic injection of bone anabolic agents in mice.	Sci Rep. 2024 Jul 8;14(1):15749. (オンライン)	Original Article
190	Ohki H, Kakino S, Iwamoto T	小児歯科	Evaluation of tooth-specific optical properties for the development of a non-invasive pulp diagnostic system using Transmitted-light plethysmography: An in vitro study.	Arch Oral Biol. 2025 Apr;172:106178.	Original Article
191	Wada K, Wada J, Uctasli MB, et al	小児歯科	Impact of restorative material on fracture behaviors of class II restoration in endodontically treated deciduous molars.	Dent Mater J. 2024 Sep 28;43(5):738-745.	Original Article
192	Wada K, Garoushi S, Wada J, et al	小児歯科	Mechanical and structural characterization of CAD-CAM materials and enamel of deciduous and permanent teeth.	Dent Mater J. 2025 Apr 1;44(2):146-156.	Original Article
193	Zeng C, Tabata T, Takahashi R, et al	むし歯科	Marginal adaptation analysis of CAD/CAM resin crown with non-invasive methods.	Clin Oral Investig. 2025 Feb 26;29(3):158. (オンライン)	Original Article
194	Htet K, Hiraishi N, Sanon K, et al	むし歯科	Effect of zinc-releasing glass ionomer cement on preventing dentin demineralization.	J Dent. 2025 May;156:105718.	Original Article
195	Tsuji Y, Hiraishi N, Ikeda M, et al	むし歯科	Evaluation of mechanical properties and ion-releasing of 3D printing resins containing S-PRG filler: A preliminary study.	Dent Mater J. 2025 Jan 31;44(1):34-40.	Original Article
196	Elseoudy N, Sanon K, Hiraishi N, et al	むし歯科	MMP inhibition, marginal integrity and cytotoxicity of zinc-releasing GIC.	J Dent. 2024 Dec;151:105450	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
197	Gondo T, Hiraishi N, Takeuchi A, et al	むし歯科	Comparative analysis of microbiome in coronal and root caries.	BMC Oral Health. 2024 Jul 31;24(1):869. (オンライン)	Original Article
198	Tabata T, Nakagawa H, Matin K, et al	むし歯科	Analysis of cariogenic biofilms by using a swept-source optical coherence tomography in vitro.	Arch Oral Biol. 2024 Sep;165:106009.	Original Article
199	Chen X, Inoue G, Fan L, et al	むし歯科	Enhancement of mineral density and mechanical properties in root caries treated with silver diammine fluoride and glass ionomer cement, with emphasis on silver ion distribution.	J Dent. 2024 Jul;146:105041.	Original Article
200	Ushijima K, Hiraishi N, Ikeda M, et al	むし歯科	Effect of water glass treatment for zirconia and silane coupling on bond strength of resin cement.	Clin Oral Investig. 2024 May 9;28(6):305. (オンライン)	Original Article
201	Sato T, Hosaka K, Tagami J, et al	むし歯科	Clinical evaluation of direct composite versus zirconia resin-bonded fixed dental prostheses for a single missing anterior tooth: A short-term multicenter retrospective study.	J Dent. 2024 Dec;151:105401.	Original Article
202	Taniguchi Y, Koyanagi T, Kitanaka Y, et al	歯周病科	Guided Bone Regeneration Using Carbonated Apatite Granules and L-Lactic Acid/1 μ -Caprolactone Membranes: A Case Series and Histological Evaluation.	Dent J (Basel). 2025 Feb 17;13(2):85. (オンライン)	Original Article
203	Morita K, Wang J, Okamoto K, et al	歯周病科	The next generation of regenerative dentistry: From tooth development biology to periodontal tissue, dental pulp, and whole tooth reconstruction in the clinical setting.	Regen Ther. 2025 Jan 13;28:333-344. (オンライン)	Original Article
204	Morita K, Nakayama M, Wang J, et al	歯周病科	Stable preparation of in vivo transplantable periodontal ligament-derived mesenchymal stem cell sheets in thermoresponsive culture dishes with tunable cell detachability.	Regen Ther. 2025 Jan 13;28:345-357. (オンライン)	Original Article
205	Yamaki D, Fukuba S, Okada M, et al	歯周病科	Preclinical Evaluation of a Poly (Lactic Acid/Caprolactone) Bilayer Membrane and a Carbonate Apatite for Periodontal Regeneration: A Canine One-Wall Intrabony Defect Model.	J Periodontal Res. 2024 Oct 28.	Original Article
206	Okada M, Fukuba S, Yamaki D, et al	歯周病科	Clinical outcomes of guided tissue regeneration with carbonate apatite granules and poly(lactic acid/caprolactone) membrane for the treatment of intrabony defects and mandibular Class II furcation involvements: A 12-month prospective pilot clinical study.	Regen Ther. 2024 Sep 9;26:767-774. (オンライン)	Original Article
207	Maeda S, Pimkhaokham A, Yoshida M, et al	歯科麻酔科	Retrospective Analysis of the Safety of High-Volume Dental Articaine Preparations for Japanese Patients.	Acta Med Okayama. 2025 Feb;79(1):31-37.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
208	Kawauchi A, Maeda S, Nagao Y, et al	歯科麻酔科	Impact of Obesity on Hypoxemia During Deep Dental Sedation for Paediatric and Adult Patients With Intellectual Disabilities: CT90 as an Outcome.	J Intellect Disabil Res. 2025 Jun;69(6):510–517.	Original Article
209	Matsumura T, Aida J, Abe Y, et al	歯科麻酔科	Obesity and postoperative flap complications in maxillofacial reconstruction surgery.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2025 Jun;139(6):634–641.	Original Article
210	Baba Y, Sato Y, Takahashi K, et al	歯科麻酔科	Allergic clinical symptoms and distribution of stimulation index of drug lymphocyte stimulation test for local anesthetics.	Oral Maxillofac Surg. 2024 Nov 5;29(1):5. (オンライン)	Original Article
211	Wakita R, Aida J, Baba Y, et al	歯科麻酔科	Transient bradycardia during local anaesthesia to the oral cavity under intravenous sedation and its associate factors: a prospective observational study.	BMC Oral Health. 2024 Oct 1;24(1):1165. (オンライン)	Original Article
212	Abe K, Sasano T, Soejima Y, et al	歯科麻酔科	Hypermethylation of Hif3a and Ifitd1 is associated with atrial remodeling in pressure-overload murine model.	Sci Rep. 2025 Jan 21;15(1):2699. (オンライン)	Original Article
213	Wakita R, Kusumoto Y, Shinozuka O, et al	歯科麻酔科	Dental findings and intravenous sedation in a patient with Potocki-Lupski syndrome: A case report.	Spec Care Dentist. 2024 Sep;44(5):1393–1398.	Case Report
214	Suzuki C, Ikeda Y, Tateno A, et al	歯科麻酔科	Tramadol Effects on Brain Activity During Cognitive and Emotional Empathy for Pain: A Randomized Controlled Study.	J Pain. 2024 Dec;25(12):104672.	Original Article
215	Suga T, Uehara O, Abiko Y, et al	歯科心身医療科	Evaluating Large Language Models for Burning Mouth Syndrome Diagnosis.	J Pain Res. 2025 Mar 19;18:1387–1405. (オンライン)	Original Article
216	Suga T, Toyofuku A	歯科心身医療科	Toward a standardized educational framework in burning mouth syndrome: Implications for clinical practice.	J Stomatol Oral Maxillofac Surg. 2025 Jan 3:102213.	Letter
217	Suga T, Tu TTH, Watanabe M, et al	歯科心身医療科	Low-dose amitriptyline: A potential therapeutic option for chronic pain in older people.	Br J Clin Pharmacol. 2025 Mar;91(3):921–922.	Letter
218	Suga T, Gamo Y, Iida S, et al	歯科心身医療科	Potential needs of outreach dental care for patients with mental conditions.	Psychogeriatrics. 2025 Jan;25(1):e13239.	Letter

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
219	Suga T, Takao C, Nagamine T, et al	歯科心身医療科	Investigating the Influence of Birth Month on the Incidence of Burning Mouth Syndrome.	Oral Dis. 2024 Dec 30.	Original Article
220	Toyofuku A, Matsuoka H, Abiko Y	歯科心身医療科	Reappraising the psychosomatic approach in the study of “chronic orofacial pain”: looking for the essential nature of these intractable conditions.	Front Pain Res (Lausanne). 2024 May 10;5:1349847. (オンライン)	Original Article
221	Ito A, Yang S, Shinto E, et al	歯科心身医療科	Interhemispheric and Corticothalamic White-Matter Dysfunction Underlies Affective Morbidity and Impaired Pain Modulation in Chronic Pain.	Anesth Analg. 2025 Feb 1;140(2):465-475.	Original Article
222	Michikawa C, Gleber-Netto FO, Pickering CR, et al	口腔外科	Immune infiltration at the primary tumor is associated with clinical outcome of patients with extranodal extension of lymph node metastasis in oral cancer.	Oral Oncol. 2024 Jun;153:106729.	Original Article
223	Iwasaki T, Takahara N, Duc VV, et al	口腔外科	Effect of anterior disc displacement and estrogen deficiency on rabbit mandibular condyle.	J Oral Biosci. 2025 Mar;67(1):100599.	Original Article
224	Noji R, Tohyama K, Nakamura S, et al	口腔外科、臨床腫瘍科	Dynamic Changes in Circulating Tumor DNA During Immunotherapy for Head and Neck Cancer: SHIZUKU-HN Study	Int J Mol Sci. 2024 Dec 30;26(1):235.	Original Article
225	Tenger K, Komori K, Maehara A, et al	口腔インプラント科	High molecular weight hyaluronic acid alleviates ovariectomy-induced bone loss in mice.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Dec 19;25(1):1048. (オンライン)	Original Article
226	Miyake R, Shimabukuro M, Terauchi M, et al	口腔インプラント科	Amorphous Magnesium Coating for Achieving Functional Changes from Antibacterial to Osteogenic Activities.	ACS Appl Bio Mater. 2024 Dec 16;7(12):8565-8572.	Original Article
227	Hasegawa S, Yamaguchi K, Horike A, et al	摂食嚥下リハビリテーション科	A novel virtual reality blowgun game for rehabilitation of older adults: A preliminary case series.	J Prosthodont Res. 2025 Jan 8.	Original Article
228	Yamaguchi K, Komori S, Yanagida R, et al	摂食嚥下リハビリテーション科	Dysphagia progression and related factors in community-dwelling care-dependent patients through home-visit dental care: A 12-month retrospective cohort study.	J Prosthet Dent. 2025 Mar 8:S0022-3913(25)00094-0.	Original Article
229	Amornsuradech S, Yamaguchi K, Nakagawa K, et al	摂食嚥下リハビリテーション科	Aging-associated differences between perioral and trunk muscle characteristics.	Sci Rep. 2024 Nov 12;14(1):27745. (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
230	Yanagida R, Yamaguchi K, Nakagawa K, et al	摂食嚥下リハビリテーション科	Sleep apnea and dysphagia in patients after a stroke recovering in convalescence rehabilitation.	J Prosthet Dent. 2024 Nov 7:S0022-3913(24)00638-3.	Original Article
231	Nojima H, Kaida A, Matsuya Y, et al	歯科放射線科	DNA damage response in a 2D-culture model by diffusing alpha-emitters radiation therapy (Alpha-DaRT).	Sci Rep. 2024 May 20;14(1):11468. (オンライン)	Original Article
232	Bai Z, Han X, Sumita Y, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Predicting maximum occlusal force and tongue pressure using decision tree analysis in patients diagnosed with head and neck tumors.	J Prosthet Dent. 2024 Apr 24:S0022-3913(24)00217-8.	Original Article
233	Wang J, Murase M, Sumita YI, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Radioprotection Performance Evaluation of 3D-Printed and Conventional Heat-Cured Dental Resins for Radiotherapy Prostheses.	J Funct Biomater. 2024 Sep 25;15(10):282. (オンライン)	Original Article
234	Hattori M, Stadler S, Sumita YI, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Digitization of Dentate and Edentulous Maxillectomy and Mandibulectomy Defects with Three Different Intraoral Scanners: A Comparative In Vitro Study.	J Clin Med. 2024 Nov 13;13(22):6810. (オンライン)	Original Article
235	Zhang F, Hattori M, Sumita YI, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Color formulation algorithm of self-curing acrylic resin for the fabrication of facial prostheses.	J Oral Sci. 2025 Apr 16;67(2):71-76.	Original Article
236	Pradhan N, Murase M, Akiyama M, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Nutritional Profiles and Factors Associated with the Intake of Certain Food Types in Patients Undergoing Maxillofacial Prosthetic Rehabilitation: A Cross-Sectional Study.	Dent J (Basel). 2025 Jan 13;13(1):29. (オンライン)	Original Article
237	Ali ASM, Masaki K, Hattori M, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Maxillectomy patients' speech and performance of contemporary speaker-independent automatic speech recognition platforms in Japanese.	J Oral Rehabil. 2024 Nov;51(11):2361-2367.	Original Article
238	Ali ASM, Hattori M, Sumita YI, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Dental and bony changes following subtotal glossectomy for cancer: A clinical report.	J Prosthet Dent. 2024 Aug 6:S0022-3913(24)00465-7.	Original Article
239	Ali IE, Hattori M, Sumita Y, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	Automated design prediction for definitive obturator prostheses: A case-based reasoning study.	J Prosthodont. 2025 Jan 4.	Original Article
240	Alkrayem BL, Yamatani Y, Pradhan N, et al	義歯科(顎顔面補綴外来)	CAD-CAM for removable partial denture fabrication after marginal mandibulectomy based on a well-adjusted pre-existing denture.	J Oral Sci. 2024 Oct 16;66(4):258-261.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	-----------------------	----	---------------	------

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

合計240件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Fumihiko Ouchi, Yotaro Motomura, Yasumasa Nakata et al	血液内科	Improvement of extensive epidermolysis due to severe acute graft-versus-host disease through long-term multidisciplinary skin care	Rinsho Ketsueki. 2025;66(2):100-105	Original Article
2	岡 慎平,長谷川 久紀,板倉 卓司 他	膠原病・リウマチ内科	結節性再生性過形成を呈し,新奇のスプライシング変異を認めた成人発症NFKB1ヘテロ異常症の一例	関東リウマチ;2024.05:56:8-12	Original Article
3	壽美田 一貴	血管内治療科	XIII 脳血管障害 3脳動脈瘤	循環器疾患最新の治療 2026-2027	Case report
4	平井 作京	血管内治療科	6 脳動脈瘤 ②flow diverter	脳神経外科速報 35巻1号, 90-94 (2025);	Others
5	藤田恭平・平井作京・壽美田一貴	血管内治療科	脳梗塞に対する急性期血栓回収療法の最前線	心臓 2024年7月号	Review
6	壽美田 一貴	血管内治療科	海綿状脈洞部dAVF	硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形 (dAVF/AVM)のすべて 2024.10	Others
7	沖山奈緒子	皮膚科	【全身性強皮症-皮膚だけではなく全身性の自己免疫疾患】 [Chapter 1]早期診断への取り組み 早期診断はなぜ重要なのか? 内科と皮膚科の連携	内科(0022-1961)135巻1号 Page6-9(2025.01)	Others
8	小林 正貴,木村 浩一朗,吉富 香澄 他	泌尿器科	監視療法中の前立腺癌患者に対するMRI/US融合標的生検の有用性	泌尿器外科;2024.08:37:945-948	Original Article
9	村瀬 裕香,高瀬 博,清水 玄 他	眼科	梅毒性ぶどう膜炎の臨床像11例の検討	臨床眼科;2024.07:78:817-822	Original Article
10	尤 俊博,高瀬 博,北口 由季 他	眼科	漿液性網膜剥離によって診断された再発性多発軟骨炎	臨床眼科;2024.08:78:1027-1032	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	岡田 真由子,堀江 真太郎,鴨居 功樹	眼科	HTLV-1陽性の糖尿病患者に虹彩新生血管を生じた一例	眼科臨床紀要;2024.05:17:389-392	Original Article
12	菅原 結子,五十嵐 多恵,中尾 紀子 他	眼科	オルソケラトロジーと0.01%アトロピン併用の眼軸長伸展抑制効果と眼球収差との関連	眼科臨床紀要;2024.11:17:797-800	Original Article
13	古賀 千佳子,伊藤 卓,藤川 太郎 他	耳鼻咽喉科	ホログラムガイド下にBONEBRIDGE埋め込み術を施行した外耳道閉鎖症例	耳鼻咽喉科臨床;2024.04:117:321-325	Original Article
14	三浦 理恵子,羅 ことい,倉富 由理 他	周産・女性診療科	経管栄養による保存的加療および硬膜外鎮痛による分娩管理が奏効した食道アカラシア合併妊娠の1例	東京産科婦人科学会会誌;2024.04:73:407-412	Original Article
15	安藤 美貴子,岩原 由樹,平尾 昌之 他	周産・女性診療科	妊娠中期に発症し,MRIで診断した一過性大腿骨頭萎縮症の1例	関東連合産科婦人科学会誌;2024.11:61:384-391	Original Article
16	光井 潤一郎,太田 邦明,勝又 翔子 他	周産・女性診療科	反復着床不全に対して末梢血単核球(PBMC)子宮内注入療法により妊娠・分娩に成功した一例	日本受精着床学会雑誌;2024.09:41:301-309	Original Article
17	吉野涼香、不殿絢子、宮坂尚幸 他	周産・女性診療科	妊娠末期に初めて肺高血圧症と診断し、母児ともに救命できた Eisenmenger 症候群合併妊娠の1 例	東京産科婦人科学会会誌. 2025.01; 74(1); 48-54	Case report
18	末岡 大輔,田中 顕太郎,森 弘樹 他	形成・美容外科	開口部が狭い広範な胸腔皮膚瘻に対するインレー植皮における新しい分層植皮片固定法	日本形成外科学会会誌;2024.08:44:363-369	Original Article
19	木村 康之,富永 梨沙,前田 智寿古 他	歯科心身医療科	歯科心身医療科初診来院患者の分析 口腔身体的症状とパーソナリティとの関連に着目して	未病と抗老化;2024.11:33:69-72	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
20	高尾 千紘,渡邊 素子,Trang Thi Huyen Tu 他	歯科心身医療科	認知症の前駆症状としての口腔セネストパチー 症例集積研究	未病と抗老化;2024.11:33:64-68	Original Article
21	高尾 千紘, 佐藤 佑介, 渡邊 素子 他	歯科心身医療科	長期にわたり医科・歯科15ヶ所の診療科を転々としていた, 口腔異常感症の1例	日本歯科心身医学会雑誌 39 巻 (2025) 1-2 号 p. 38-45	Case report
22	木村 康之, 前田 智寿古, 高尾 千紘 他	歯科心身医療科	自閉スペクトラム症患者に対する歯科矯正治療と歯周病治療を含む包括的歯科治療に関するインフォームドコンセントについて	日本歯科心身医学会雑誌 39 巻 (2025) 1-2 号 p. 46-50	Review
23	高尾 千紘, 渡邊 素子, 前田 智寿古 他	歯科心身医療科	ADHD(注意欠陥/多動性障害)を併存する口腔セネストパチー患者の経過観察中に, 診断に苦慮する歯痛を訴えた1例	日本歯科心身医学会雑誌 39 巻 (2025) 1-2 号 p. 51-54	Case report
24	並木 千鶴,原 豪志,柳田 陵介 他	摂食嚥下リハビリテーション科	夜間の唾液誤嚥に対する簡易的な口腔内装置(唾液吸引マウスピース)の作製と臨床応用	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌;2024.04:28:43-49	Original Article

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

合計24件

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容:研究者等の責務、研究計画書に関する手続・記載事項、研究に関する登録・公表、インフォームド・コンセントを受ける手続等、倫理審査委員会の要件等、利益相反の管理、研究に係る試料及び情報等の保管、モニタリング及び監査	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの概要、マネジメントの対象、手続等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年13回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容:「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する指針」の概要、臨床研究法の改正点と倫理指針との区分、利益相反管理(e-learningのみで通年で開講している。研究者は随時受講が可能。)	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

○内科専門研修プログラム

1) 東京科学大学内科専門研修プログラム（以下、本研修プログラム）は、東京科学大学病院を基幹施設として、茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県・東京都内近隣医療圏にある連携施設および特別連携施設で内科専門研修を行います。東京都にとどまらず、他県の各医療圏で研修を積むことにより、都心や各地域を理解した医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は、内科領域Subspecialty専門医への道を歩む場合と高度な総合内科のGeneralityを獲得する場合、もしくは内科系集中治療医を目指す場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医を育成します。

2) 初期臨床研修を修了した医師は、本研修プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1年以上＋連携施設および特別連携施設1年以上）で、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、「研修カリキュラム（項目表）」に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

○小児科専攻医研修プログラム

東京科学大学小児科専攻医後期研修プログラムは、「最高レベルの一般診療と最先端の専門医療の提供」をモットーに、小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成することを目的とします。また「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるべく、一定の専門領域に偏ることのない幅広い研修を提供し、上記の社会的要望に応えられるような優れた小児科医の育成を目指します。

○皮膚科研修プログラム

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

○精神科専門医研修プログラム

精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

基幹病院となる東京科学大学病院精神科は、41床の開放病棟であり、急性期の精神病状態の患者の対応は限定されるものの、十分な指導体制のもとに、生理学的検査・心理検査実施による診断や治療に対する詳細な検討、電気けいれん療法、身体合併症診療、リエゾン診療、デイケア活動や小集団精神療法への参加などの全般的な研修が可能である。また、司法精神医学、児童精神医学、老年精神医学に関しては、専門の研修体制を整備しており、全般的な研修に加えて、柔軟に取り入れることができる。

また、連携施設には、首都圏の総合病院を中心に、民間の精神科病院も複数擁している。それぞれ特色のある病院であり、希望に応じて柔軟な研修体制を選択することが出来る。

○外科専門研修プログラム

1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること

- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）、またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

○整形外科専門研修プログラム

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹病院および協力病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得するプロセスで研修を行います。

また東京科学大学整形外科集談会への参加（年2回）および同会での研究発表（3年目まで年1回）、外部の学会での発表（年1回以上）と論文執筆（研修期間中1編以上）を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

○産婦人科研修プログラム

当研修プログラムでは、産婦人科医としての基本的な診療技術、幅広い知識の習得を超えて、婦人科腫瘍、周産期、女性医学、生殖医療、内視鏡手術などの専門的かつ高度な研修が可能です。さらに連携施設での研修により、地域医療で求められる幅広い知識・技能をも習得することが可能です。

研修終了後は東京都下のみならず、地域医療の担い手として都外も含めた多様な施設で就業できます。さらに後期研修後には、大学院への進学や各種サブスペシャリティ領域の研修を開始する準備も整っており、継続的にスキル・キャリアアップできます。

○眼科専門研修プログラム

東京科学大学病院では、幅広い分野の紹介患者があり、眼科全領域の疾患が経験できる。しかも各専門分野において、専門性の高い医療を提供しているため最先端の診断治療を学び、経験できる。また希少症例も経験することができる。

専攻医の研修は、眼科病棟、外来および手術室をローテートすることで行われる。まず各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置、手術を習得し、それぞれのプログラムの目標到達を目指す。毎週行う症例カンファレンスでは、プレゼンテーションの訓練を行う。また、月一回のspot diagnosisでは画像読影能力を高め、リサーチプログレスでは英語でのディスカッションの能力とリサーチマインドを培う。また、各分野の医師から専門分野の疾患レクチャーを医局勉強会で受ける。さらに、周産母子センター等の関連診療科と連携し未熟児診療を含めた全身疾患に伴う眼病変も学習し、他科連携も連携委員会を中心に指導を行う。また東京科学大学では、専攻医や所属医が英語文献、書籍からアップデートした知識を常に吸収できる環境への配慮にも重点を置いている。学会報告や論文作成を専門研修基幹病院在籍中に専攻医は積極的に行う。

○耳鼻咽喉科専門研修プログラム

・本学には耳鼻咽喉科と頭頸部外科が独立した教室として併存しながら、実臨床において一つの教室として機能している。これにより、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の幅広い専門分野全てにおいて、高度の医療を提供することができている。従って、どの分野においても偏り無く最新医療を研修することができる。

・本学には国内随一の歯学部があり、歯科領域の幅広い専門分野において高度な診療・研究が行われている。これら各分野と協力して診療を行うことで、顔面深部外科手術後の再建や咀嚼・嚥下診療、咬合と無呼吸の一貫した診療など、他施設では不可能な高度な診療を経験できる。

・小児科・NICU、神経内科、消化器外科、形成外科、呼吸器科など耳鼻咽喉科・頭頸部外科と関連する各科も国内随一の高レベルの診療を行っており、これらと連携した診療が研修できる。また、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、スポーツ医学診療センター（高気圧治療部を含む）や快眠センター、長寿・健康人生推進センターなど、当科と深く関わるセンターにおいて病院全体をあげて高度な診療を行っており、極めて高いレベルの診療が研修できる。

・学内には難治疾患研究所や医用生体材料工学研究所など、最先端医療に関わる大規模な研究施設を有しており、これらと連携した最先端の診療が経験できる。

・多彩な連携施設を有し、それぞれに専門を生かした高いレベルの指導を行える指導医が派遣されている。他大学の附属病院に加え、都心の中核病院や地方の基幹病院、各種専門病院を多数含んでおり、大学病院での最先端の専門的診療とともに、一般的な初期診療や地方の基幹病院での救急、高齢者医療や小児医療を含む多彩な臨床経験によって、将来どのような場でも通用する幅広くかつレベルの高い医療技術を身につけることができる。

○泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム

東京科学大学泌尿器科専門研修プログラムは東京科学大学病院を基幹施設とし、15の連携施設と4つの協力施設から構成されています。東京科学大学泌尿器科研修プログラムの連携施設と協力施設は都会拠点病院、地方拠点病院、都会診療所を含み、幅広い研修が可能です。これらの中には、10がん診療拠点病院（4がんセンター含む）、8地域医療支援病院を含み、ほとんどの施設が悪性腫瘍を中心に症例の多い病院であり、これらの施設で質、量ともに十分な研修が受けられます。最先端手術として、ロボット支援手術を実施する病院が10施設、ガスレス・シングルポート・ロボサージャン手術（先端型腹腔鏡下小切開手術）を実施する病院が2施設、腹腔鏡下手術を実施する病院が8施設含まれます。また、小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャリティ領域の研修も十分に経験できます。さらに、基幹施設である東京科学大学病院では、充実した臨床研究や基礎研究を行うことができ、国際発表も経験できます。また、専門研修後には、大学院への進学や専門分野の研修も可能です。国際的に活躍できる泌尿器科医師を育成することを目標にしています。

○脳神経外科プログラム

脳神経外科専門研修では、初期臨床研修後4年間の研修により、脳神経外科領域の疾患に対する診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ専門的な知識と診療技能を獲得します。

本プログラムでは、4年間の研修期間で脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などの脳神経外科が扱う疾患の診断、標準的治療、基本手術手技の習得を目標とします。さらに本プログラムには20名以上の日本脳血管内治療学会専門医が在籍しており、開頭手術と並行して血管内治療を学べる体制を強化しています。その他、基幹施設においてはてんかん外科、三叉神経痛を中心とした機能的疾患の治療にも力を入れており、多彩な症例を学ぶことができます。また、脳卒中センターにおけるstrokeカンファレンスなど、さまざまな複数診療科でのカンファレンスを行っており、他診療科との連携も充実しています。連携施設や関連施設とは新御茶ノ水セミナー、血管内治療症例検討会、脳腫瘍カンファレンス、鏡視下手術研究会などを合同で開催して全体的な診療レベルの向上に努めています。専門医取得後にはハーバード大学の研究室などとの連携による海外研修にも力を入れていきます。

○放射線科専門研修プログラム

放射線科専門医の使命は、放射線科領域の専門医として、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与することにあります。

放射線科専門研修プログラム整備基準では、放射線科専門医制度の理念のもと、放射線科専門医

としての使命を果たす人材育成を目的として専門研修の経験目標を定めています。本研修プログラムでは、研修施設群内における実地診療によって専門研修の経験目標を十分に達成できる研修体制の構築に努めていますが、実地診療のみでは経験が不足する一部の研修については、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learningの活用等によって、その研修を補完します。

東京科学大学放射線科専門研修プログラムは上記の整備基準に従い、放射線科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備え、コミュニケーション能力とプロフェッショナリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医を教育します。

○麻酔科専門研修プログラム

本研修プログラムでは、多様な手術を施行する総合病院的な研修施設に加えて、小児麻酔、産科麻酔、心臓手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、救急などの領域について、強化研修施設を組み入れるなどの形で専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医の育成をめざしている。

当院は東京都の中心に位置し、大学病院として高度な専門医療に対応するため経験豊富な専門医を有し、先進的な手術を受けた患者さんが最適なコースで回復できるような周術期管理を目指している。また、救急医療においても3次救急の受け入れを行っており、麻酔科専門医として必要な救急患者の管理を研修できる施設となっている。また、手術・麻酔を受けた患者の予後に関する研究や、様々なバイオマーカーの動態、新規医療機器に関わる臨床研究が行われ、研究活動との接点を持ちながら研修を進めることもできる。

○病理専門研修プログラム

東京科学大学では医療に関する基本理念として、『心と身体(からだ)を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていく』と掲げています。本プログラムにおいても、安定して確実な診断を行える技量を身に付け、地域基幹病院にて即戦力として活躍しうる人材を育成するとともに、教育者や研究者などへの進路にも対応できる知識と経験を積む機会も提示し、国際的に通用する人材の輩出も視野に入れた内容となっています。

○臨床検査専門研修プログラム

本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。基幹施設である東京科学大学病院検査部で多くの研修を行います。また、連携施設である東京都教職員互助会三楽病院臨床検査科でも研修を行うことにより、深みのある研修となるように工夫しています。

○救急科専門研修プログラム

本研修プログラムの目的は、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成することです。救急科専門医育成プログラムを修了した救急科領域の専攻医は急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めることが可能になります。また、急病や外傷で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合は初期治療から継続して、根本治療や集中治療にも中心的役割を担うことも可能です。さらに加えて地域の救急医療体制、特に消防機関・救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、また災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事を担うことも可能となります。

○形成外科研修プログラム

本プログラムでは基幹施設と連携施設の病院群で指導医のもとに研修が行なわれます。外傷、先天異常、腫瘍、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、難治性潰瘍、炎症・変性疾患、美容外科などについて研修することができます。

研修の一部には臨床系大学院を組み入れることもできます。また、Subspecialty領域専門医の研

修準備をすることもできるよう配慮しています。更に、医師としての幅が広げられるよう、臨床現場から見つけ出した題材の研究手法、論理的な考察、統計学的な評価、論文にまとめ発表する能力の育成を行います。専門研修プログラム修了後には専門知識と診療技術を習得し、他の診療科とのチーム医療を実践できる能力を備えるとともに社会性と高い倫理性を持った形成外科専門医となります。

○リハビリテーション科専門研修プログラム

本プログラムは、将来の日本のリハビリテーション医療を支え、新たな専門医の育成を行う指導的なリハビリテーション専門医を育てる教育システムを構築しています。またリハビリテーション領域の研究の発展のために基礎的な知識、方法を身に付け、研究を専門医取得後も継続して行なうことのできる医師を育てることを目標としています。

基幹研修施設である東京科学大学病院は様々な高度医療を実施しています。その中でリハビリテーション部門は中央診療部門として年間1800名以上の患者のリハビリテーション医療に携わっています。疾患の内容は急性期疾患、整形外科術後、神経難病など多岐にわたり、研修中に多くの症例を経験することができます。一方、大学病院では様々な研究も行っており、臨床と同時に研究を行うことも可能です。リハビリテーション部門では、リハビリテーション医学分野として博士課程大学院生の教育も行っており、研修中にテーマを見つけた場合、さらに大学院に進学し、博士の学位取得を目指し研究を行うことも可能です。

○総合診療専門研修プログラム

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができる。そのために、規模としては中小規模病院・診療所・大学病院等、立地としては市中・郊外・遠隔地といった様々なセッティングの医療施設を用意している。

専攻医の選択での研修も充実している。

様々なセッティングの医療施設で、総合診療医としての核となる臨床能力や、専門医として必要なその他の臨床能力、手技を含めた多様な希望に応じた研修が可能である。あらゆる場面やニーズに総合診療医として対応できる能力習得を目標とする。

とくに、東京科学大学に茨城県や長野県からの地域枠学生のために、茨城県や長野県の医師不足地域に立地している医療機関にても研修できるようになっている。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	550人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮崎 泰成	呼吸器内科	診療科長	35年	
高木 正稔	小児科	診療科長	33年	
沖山 奈緒子	皮膚科	診療科長	26年	
高橋 英彦	精神科	診療科長	28年	
絹笠 祐介	大腸・肛門外科	診療科長	27年	
吉井 俊貴	整形外科	診療科長	26年	
宮坂 尚幸	周産・女性診療科	診療科長	36年	
大野 京子	眼科	診療科長	38年	
堤 剛	耳鼻咽喉科	診療科長	33年	

藤井 靖久	泌尿器科	診療科長	37年	
前原 健寿	脳神経外科	診療科長	39年	
立石 宇貴秀	放射線診断科	診療科長	30年	
内田 篤治郎	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	診療科長	35年	
大橋 健一	病理部	部長	36年	
叶内 匡	検査部	部長	35年	
森下 幸治	救命救急センター	センター長	26年	
森 弘樹	形成・美容外科	診療科長	32年	
酒井 朋子	リハビリテーション部	部長	36年	
橋本 正良	総合診療科	診療科長	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ジェネラリストラダー研修 ラダー取得に向けた知識・技術習得のための研修 ・研修の期間・実施回数 2024年4月8日～2025年2月28日 51回 ・研修の参加人数 911人(延べ)
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 情報セキュリティ・個人情報保護講習会 ・研修の期間・実施回数 2024年12月23日～2025年3月31日 ・研修の参加人数 1,708名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 藤井 靖久
管理担当者氏名	(病院総務課長) 遠藤 慎也 (病院管理課長) 渡邊 剛志 (病院労務課長) 佐藤 奈生 (医事一課長) 岩瀬 英一 (医事二課長) 磯部 敦志 (医療支援課長) 上村 七奈 (医療品質管理課長) 三好 直子

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子化されているものは中央電算室で、紙媒体のものは病歴管理室で一括管理している。 病院外への診療情報の持ち出しは、診療情報提供、診療報酬請求等の特定の用途に制限している。やむを得ない事情により持ち出す場合には病院長の許可が必要となる。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	【人事労務課職員第5グループ】 本学の人事システムで一括管理を行っている。 【医療支援課企画第1グループ】 ネットワーク上のファイルサーバー及びファイルにより保管管理している。 【病院総務課臨床研究監視グループ】 電子化されている諸記録は、ネットワーク上のファイルにより保管管理している。 【病院労務課医師研修グループ】 紙媒体及び電子媒体で管理している。 【病院総務課総務グループ】 文書にて保管し、年度毎にまとめている。(閲覧実績なし) 【医事一課、医事二課】 〔紹介患者に対する医療提供の実績〕 諸記録は、上記診療に関
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	

				する諸記録と同じ。紹介患者数は、医事一課・医事二課で電子データ管理。 〔入院患者数、外来患者数〕 医事一課・医事二課で電子データ管理。
事項	規則第一条の十一第一項に掲げる	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	【医療安全管理部、感染制御部】 電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	【医療安全管理部、感染制御部】 電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事一課診療報酬対策室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課患者サービスグループ
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	湯島総務課湯島総務グループ
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	病院総務課総務グループ		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査事務室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院総務課総務グループ		
			【医療安全管理部、感染制御部】 電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。 【医事一課診療報酬対策室】 電子データで保存。 <

【医療安全管理部、感染制御部】
電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。

【医事一課診療報酬対策室】
電子データで保存。

【医療支援課患者サービスグループ】
電子入力し、パスワード管理している。

【湯島総務課湯島総務グループ】
法人文書として電子媒体で保管（Sharepoint）

【病院総務課総務グループ】
病院規程に管理者が有する権限を明記

【監査事務室】
電子媒体情報にて、監査事務室で管理している。

【病院総務課総務グループ】
役員会規則の審議事項に明記

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画2. 現状
閲覧責任者氏名	(事務部長)秋葉 泰樹
閲覧担当者氏名	(総務課長)遠藤 慎也
閲覧の求めに応じる場所	・病院特別会議室
閲覧の手続の概要 閲覧の希望者は、閲覧責任者の許可を得て閲覧することができる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： ○インフォームド・コンセントを徹底し、患者本位の全人的医療、安全な医療の提供を行う。 ○医療現場からのインシデント報告を通じた検証及び事故防止対策を策定・実施する。 ○医療における基本の徹底と質の向上を図る。 ○上記の目的を実施するため、次の機構を組織する。 (1) 医療安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 (2) リスクマネージャー会議…各診療科、中央診療部門の中核となる実務者で構成し、日常における安全管理レポート等から事故の検証と再発防止につとめる。 (3) 医療安全管理部…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関するマニュアルの追加並びに指導を行う。 ○患者からの相談に対応するため、院内に患者相談室を置き、必要に応じ、関連部署との連絡調整を行い、相談内容を適切に処理する。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有 ） ・ 開催状況：年13回 ・ 活動の主な内容： ○医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 ○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討を行う。 ○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。 ○重大な問題が発生した場合は速やかな原因調査、分析を行い、改善策立案、実施について院内周知を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： ○医療安全のさらなる推進と向上を目指して ○医療機器の安全管理（医療安全管理レポートから） ○医療安全における薬剤師の役割／未承認新規医薬品等の使用について ○放射線診療の正当化と患者への情報提供	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○インシデント報告の収集と分析 ○医療安全管理委員会における重大事故等に対する対策の検討 ○内容分析を踏まえたワーキンググループの設置 ○M&Mカンファレンスにおける、多職種・多診療科で今後の方向性の議論 ○臨床研究監視委員会における、インシデントレポートの確認 ○ICノート・病状説明テンプレートの導入による患者説明の充実	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
・ 指針の主な内容： ○感染の予防、教育活動、発生時の対応等及び抗菌薬の適正使用に関して審議・実施をするため感染対策委員会を置く。 ○感染対策委員会と連携し、医療関連感染の予防、教育活動及び医療関連感染発生時に速やかに対応するため、また、抗菌薬を適正に使用するため、管理・指導を行うことを目的として、感染制御部を置く。 ○医療関連感染の防止・対策に資するため、感染対策チームを置く。 ○院内の抗菌薬適正使用に資するため、抗菌薬適正使用支援チームを置く。 ○職員に対する研修に関する基本方針 (1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策や、抗菌薬使用の適正化について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。 (2) 感染対策に関する職員研修は、新入職員研修のほか、全職員および職種別対象を年 2 回以上開催する。抗菌薬適正使用に関する職員研修は、年 2 回程度開催する。 (3) 研修の開催結果を記録・保存する。 ○感染症の発生状況の報告に関する基本方針 耐性菌、呼吸器ウイルス感染症の感染を防止するため、「院内感染現況報告」を週 1 回程度作成し、感染制御部にて確認・検討を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。また、検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。 ○院内感染発生時の対応に関する基本方針 異常発生時は、その状況および患者への対応等を病院長に報告する。感染制御部にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに、状況に応じ委員会を開催する。 改善策を実施するために感染制御部・対策チームを中心に全職員への周知徹底を図る。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
・ 活動の主な内容： ○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および教育・研修等を行った。 ○院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行った。 ○医療現場においての感染防止対策に関する取組みの評価を行った。 ○抗菌薬サーベイランスについて報告を行った。 ○医療感染症感染症サーベイランスについて報告を行った。 ○抗菌薬適正使用プログラムについて運用を見直しながら継続した。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 15 回
・ 研修の内容（すべて）： ○病院全職員を対象とした院内感染、感染症及び抗菌薬適正使用等に関する研修 ○手指衛生実習	

○標準予防策と感染経路別予防策

○PPE着脱講習

○医療機関における薬剤耐性（AMR）対策の基本

○職業感染対策

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

(1) 医療現場の感染対策に関する環境整備の定期的な確認及び指導。

(2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供。

(3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染及び抗菌薬使用状況に関する情報を共有し改善に努める。

(4) エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。

(5) 平日は感染制御部医師、看護師、薬剤師、検査技師にて微生物ミーティングを行い、院内の医療関連感染の情報収集、分析を行っている。

(6) デバイスに関連した感染症の発生状況を把握し、医療関連感染対策防止対策を推進するためにデバイスサーベイランス（一般病棟、重症系）を実施している。

(7) 広域抗菌薬開始症例のレビューや感染対策に関わる問題の共有を行い、必要時、感染症内科の介入や感染制御部が現場に赴き、適切な感染防止対策が実施されるよう伝達、指導を行っている

(8) 耐性菌検出ベースラインを算出しアウトブレイクの予兆を早期に発見し対応している。

(9) 感染経路別予防策は医療端末の病棟マップと病室前に表示し、全職員が把握できるように工夫している。

(10) 標準予防策の遵守や个人防护具の着用については、全職員研修および新入職者研修にて教育するとともに、病室前に防護具を設置し、職員が適切に使用できるように整備している。

(11) 抗菌薬適正使用の推進として血液培養陽性例の確認とフィードバック、感染症コンサルテーション診療、広域抗菌薬届出制、一部抗MRSA薬を含む広域抗菌薬の許可制等を導入している。

(12) 検査診断の適正化として、血液培養施行状況のモニタリングとフィードバックを実施し、感染症検査全般の見直しと整備、迅速遺伝子診断を導入した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
- 研修の主な内容： - 全職員研修を以下の演題にて行った。 ○医療安全における薬剤師の役割 ○未承認新規医薬品等の使用について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	- 手順書の作成 (有) - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用、購入 ○医薬品の管理（麻薬等の管理方法等） ○入院、外来への医薬品の供給・使用・管理 ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取扱い ○部門（救急部、手術部、輸血部、化学療法部など）における医薬品の使用・管理など ○他施設（病院等、薬局等）との連携
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	- 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○QALSODY（カルソディ）注（海外輸入品）（SOD1 遺伝子変異を有する筋萎縮性側索硬化症） ○プロピオン酸ベクロメタゾン（治療抵抗性消化管移植片対宿主病（GVHD）） - その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供 ○鎮静剤の使用に関し、院内ワーキングにて審議中 ○HBV再活性化への対策として、アラートシステムおよびHBV/HCV感染者の拾い上げシステムに関するワーキング ○未承認新規医薬品等評価委員会へ申請していない医薬品の適応外使用・禁忌使用の情報収集のための体制を確立、医薬品の適正使用についてモニタリングを継続している

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 28 回
- 研修の主な内容： ○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法 ○人工呼吸器の安全管理、講義 ○医療機器の安全管理研修会 ○人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、急性血液浄化療法、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (有) - 機器ごとの保守点検の主な内容： ○人工呼吸器、除細動器、保育器、IABP、PCPS、人工心肺、血液浄化装置等の使用前、定期点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ○該当なし - その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有												
・ 責任者の資格（医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ○ 本院に、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の20の2第1項第1号に基づき、医療安全管理責任者を配置し、医療安全担当副病院長をもって充てる。 ○ 医療安全管理責任者は、以下の役割を担う。 ・ 当院医療安全管理に関する規則に基づき、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する ・ 患者影響度レベル3C以上の濃厚な処置や治療を要した重大事案の報告を受け、医療安全管理委員会の緊急開催の要否などについて判断している。 ・ 院内の全死亡退院患者の死亡時の状況や医療安全管理部での検討結果の報告を受け必要時対応について指示している。													
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 8 名）												
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ○ 薬剤部 医薬品情報室において情報を整理、集約し、医薬品安全性情報を周知している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 1) 未承認薬品・適応外使用医薬品については、治験・臨床研究担当薬剤師がヘルスサイエンス R & D センターから当該審査委員会審査結果・緊急審査結果の報告を受け、次の手順で実施する。 2) 審査結果内容に準じ、必要な場合には電子カルテ薬品マスターを DI 室（国内承認薬）または治験薬管理室（国内未承認薬）に作成依頼する。 3) 未承認新規医薬品等評価委員会で承認された未承認等医薬品に関する情報は、電子カルテ薬剤部内の共有フォルダに格納し、薬剤部員に周知する。 4) 未承認等医薬品の使用状況について、薬剤部担当者が定期的に確認し医薬品安全管理責任者に報告する。 ・ 担当者の指名の有無（有） ・ 担当者の所属・職種： <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">（所属：薬剤部、職種：薬剤師）</td> <td style="width: 50%;">（所属：肝胆膵外科、職種：医師）</td> </tr> <tr> <td>（所属：顎関節症外来、職種：歯科医師）</td> <td>（所属：クオリティ・マネジメント・センター、職種：医師）</td> </tr> <tr> <td>（所属：呼吸器内科、職種：医師）</td> <td>（所属：心臓血管外科、職種：医師）</td> </tr> <tr> <td>（所属：口腔外科、職種：歯科医師）</td> <td>（所属：脳神経外科、職種：医師）</td> </tr> <tr> <td>（所属：手術部、職種：医師）</td> <td>（所属：救命救急センター、職種：医師）</td> </tr> <tr> <td>（所属：口腔インプラント科、職種：歯科医師）</td> <td>（所属：集中治療部、職種：医師）</td> </tr> </table>		（所属：薬剤部、職種：薬剤師）	（所属：肝胆膵外科、職種：医師）	（所属：顎関節症外来、職種：歯科医師）	（所属：クオリティ・マネジメント・センター、職種：医師）	（所属：呼吸器内科、職種：医師）	（所属：心臓血管外科、職種：医師）	（所属：口腔外科、職種：歯科医師）	（所属：脳神経外科、職種：医師）	（所属：手術部、職種：医師）	（所属：救命救急センター、職種：医師）	（所属：口腔インプラント科、職種：歯科医師）	（所属：集中治療部、職種：医師）
（所属：薬剤部、職種：薬剤師）	（所属：肝胆膵外科、職種：医師）												
（所属：顎関節症外来、職種：歯科医師）	（所属：クオリティ・マネジメント・センター、職種：医師）												
（所属：呼吸器内科、職種：医師）	（所属：心臓血管外科、職種：医師）												
（所属：口腔外科、職種：歯科医師）	（所属：脳神経外科、職種：医師）												
（所属：手術部、職種：医師）	（所属：救命救急センター、職種：医師）												
（所属：口腔インプラント科、職種：歯科医師）	（所属：集中治療部、職種：医師）												

(所属：整形外科，職種：医師)	(所属：MEセンター，職種：臨床工学技士)
(所属：看護部，職種：看護師)	(所属：看護部，職種：看護師)
(所属：看護部，職種：看護師)	(所属：薬剤部，職種：薬剤師)
(所属：薬剤部，職種：薬剤師)	(所属：医療情報部，職種：薬剤師)
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： ○IC委員会において、以下の活動を行っている。 ・ICの取得状況とモニタリングの内容に関する報告 ・診療録監査の結果に関する報告 ・他委員会等で承認されたIC用紙の報告及び承認 (診療録等審査管理委員会、歯科診療録等審査管理専門委員会、高難度新規医療技術評価委員会) ・院内共通様式を用いないIC用紙の登録申請に関する内容確認、修正指導、承認 ○死亡退院事例検証においてICの有無についてのチェックを行い、不十分なものについて診療科への確認を行っている。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録監査要領・診療録監査実施要項に基づき、前期・後期の年2回、入院患者（前期5月退院・後期10月退院）から各診療科のカルテを任意に抽出し、診療録監査を行っている。 医師・歯科医師による同僚監査、各コメディカル（看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、診療情報管理士）による診療録監査、診療情報管理士による退院サマリー監査を実施、結果については病院運営会議で報告し、各診療科へもフィードバックしている。なお、入院診療計画書については通年全件監査を行っている。 又、学内ホームページ、保険診療講習会や診療科ごとの勉強会で診療録記載の留意点を指導及び周知している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
・所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（13）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（1）名、兼任（0）名	

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

○医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの方策及び研修等を行う。

○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。

○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。

○医療の質評価を行うクオリティ・マネジメント・センターと医療安全管理部が共同して作成した医療安全QI33指標、死亡退院事例検証会QI19指標を計測している。具体的には中心静脈穿刺に伴う合併症発生率、病状説明テンプレートにおける患者・家族等の反応（質問と回答）記載率などである。

○国立大学病院共通の医療安全指標 63 指標の結果を用いて、当院の状況を他の国立大学病院とベンチマークし、改善活動を実施している。

○その他、急変患者の早期発見（急変予防）のため、バイタルサイン測定時の呼吸数測定率や6バイタルサイン測定率を指標化し、測定率向上に向けた活動を行っている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数 28 件）、及び許可件数 28 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）

・活動の主な内容：

○診療科長から担当部門長に対し、高難度新規医療技術の提供の実施に関する相談・申請があった場合、当該医療技術が高難度新規医療技術に該当するか一義的判断をする。

○当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求める。

○評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等について決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。

○高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した場合その他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。

○高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が高難度新規医療技術規則等を遵守して高難度新規医療技術の提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結果を報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 46 件）、及び許可件数 43 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）
- ・活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等の提供の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求めること。
 - 評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の医療提供の実施の適否、使用条件等について決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。
 - 未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した場合、又はその他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。
 - 未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が未承認新規医薬品等規則等を遵守して未承認新規医薬品等の医療提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結果を報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 447 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 425 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 医療安全に係る各委員会からの説明と報告を受け、内容の精査を行う。
 - 医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。
 - 安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討を行う。
 - 安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。
 - M&M カンファレンスの開催 等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：秋田大学医学部附属病院 ））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：弘前大学医学部附属病院 ））
- ・技術的助言の実施状況
 - 委員会への出席が必須であることを委員に対して周知し、やむを得ず出席ができない場合は、代理出席の徹底を依頼するという従来の対応をより強化して行っている。

(技術的助言の内容)

○医療安全管理委員会の開催はWEBで年14回と適切な開催数、委員の人数も適切でしたが、一部の委員の参加率が低いことが懸念点であり、診療科的に多忙であると理解しますが、医療安全の会議ですので委員交代など迅速な対応が必要と思います。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談室を設置し、患者や患者家族からの相談・申し出に対応している。

対応内容については、連携メーリングリストを使用して迅速な情報共有を行っている。

対応経過については、日常的に患者相談室から医療安全管理部に報告を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

(医療安全)

2024年度における医療安全に関わる職員研修(安全管理研修)は全2回の実施であった。

【第1回】7/9: ライブ配信、7/23~8/31: Eラーニングにて実施

「医療安全のさらなる推進と向上を目指して」「医療機器の安全管理」

「医療安全における薬剤師の役割」「放射線診療の正当化と患者への情報提供」

【第2回】11/12~翌年1/7: Eラーニングにて実施

「医療法に基づく全職員研修(医療安全管理部)」「医療機器の安全管理」

「未承認新規医薬品等の使用について」

また、新規採用者及び中途採用者に対しては、以下の通り医療安全に関わる研修を実施した。

【新規採用者】4/1~4/5: Eラーニングにて実施

「東京医科歯科大学病院におけるリスクマネジメント」

【中途採用者】随時: 動画視聴形式にて実施

「東京医科歯科大学病院におけるリスクマネジメント」

(感染対策)

2024年度における感染対策に関わる全職員研修は全2回の実施であった。

・感染対策・抗菌薬適正使用研修(第1回)「標準予防策と感染経路別予防策」

「院内感染対策 当院での具体的な対応方法」「歯科における針刺し事故防止対策」

「抗菌薬適正使用と薬剤耐性」(5/14~6/30の期間、Eラーニングにて実施)

・感染対策研修(第2回)「結核について」「改めて手指衛生について~感染対策の基本~」

「薬剤耐性と抗菌薬適正使用」「抜歯時の歯科抗菌薬適正使用について」

(11/12~翌年1/7の期間、Eラーニングにて実施 医療安全管理研修と同時開催)

また、新規採用者及び中途採用者に対しては、以下の通り感染対策に関わる研修を実施した。

【新規採用者】4/1~4/5: Eラーニングにて実施

「基本的な感染対策について」「個人防護具の着脱方法」

【中途採用者】随時: 動画視聴形式にて実施

「基本的な感染対策について」「個人防護具の着脱方法」

全職員研修以外に、職種別研修も実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

いずれも以下の研修を受講済みである。

2024 年度 特定機能病院管理者研修 (公益財団法人 日本医療機能評価機構)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構、一般病院3 (Ver. 2)、2022年9月14日～16日に受審し、2023年3月10日付けで条件付き認定を受けた。2024年2月9日付で条件付き認定が解除された。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2023 年 3 月 10 日に HP に掲載

・評価を踏まえ講じた措置

① 臨床倫理委員会の組織を大学本部から病院直轄へ変更し、臨床倫理コンサルテーションチームを発足後、現場で解決に至らなかった倫理的課題について、これまでの 1 年半で 27 件の検討依頼を受け付けている。それら依頼内容を、臨床倫理委員会への附議または、多職種を含む臨床倫理コンサルテーションチームで検討し、現場へ助言している。その結果、2025 年には「相対的無輸血」に関して倫理的課題の対応方針として策定予定である。また、職員に対して臨床倫理に関する研修会を定期的開催している。

②SSI サーベイランスの対象手術を 2023 年 4 月から食道外科手術、同年 6 月から周産・女性診療科手術にも拡大し実施している。当該診療科と連携し、消化器領域 (大腸肛門外科、食道外科)、循環器領域 (心臓血管外科)、婦人科領域の SSI サーベイランスを実施し、対象患者のデータを収集・解析している。SSI 発症症例に関して、当該診療科と情報共有することで、ケアや業務改善の取り組みに継続的につなげていることを確認した。また、2023 年から全病棟における CRBSI、CAUTI、VAE のサーベイランスを実施し、感染率を確実に把握している。なお、感染制御部では、感染対策支援システムを利用したサーベイランスの運用方法について検証し、病院全体で確実に感染の有無

を把握する方法を確立するとともに、その結果を現場にフィードバックし、感染対策のポイントを指導することで感染率の低減に継続的に取り組んでいる。

- ③外来・病棟において抗がん剤使用時の観察事項を含む記録テンプレートの試行を実施。**2023 年 4 月**からの全部署でのテンプレート使用開始している。また、定期的に医療情報委員会でモニタリングしており、確実に記載される体制を維持していることを確認した。さらに、記載漏れが確認された場合には、個別に部署責任者を指導している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 1. 医療法第10条に定める管理者の要件を満たす医師であること。 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有していること。 具体的には、医療安全管理業務の経験や、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有する者 3. 病院管理運営に必要な資質・能力を有していること。 具体的には、本院又は他院における組織管理経験を有し、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者 4. 本院の理念と実践に深い理解があること。とりわけ以下の点について深い理解があること。 ① 働き方改革 ② チーム医療 ③ 公的医療制度 ④ 地域連携 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学HPにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学HPにて公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
内田 信一	東京科学大学 理事（医療担当）	○	医療担当理事として大学及び病院の運営に精通している。	有
東田 修二	東京科学大学 医学部長 大学院医歯学総合研究科教授		医学部長及び検査部長として、大学、病院の運営に精通している。	有

大野 京子	東京科学大学 大学院医歯学総合研究科教授		本院の眼科長として病院運営及び診療科管理に関し広く精通している。	有
依田 哲也	東京科学大学 歯学部部長 大学院医歯学総合研究科教授		歯学部部長及び口腔外科系診療領域長として、大学、病院の運営に精通している。	有
矢内 常人	草加市病院 事業管理者		草加市病院事業管理者として、病院管理に関し広くかつ高い見識を有している。	無
井伊 雅子	一橋大学 経済学研究科教授		一橋大学経済学研究科教授として、病院管理に関し広くかつ高い見識を有している。	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			有
・合議体の主要な審議内容 (1) 病院内諸規則の制定改廃に関する事項 (2) 病院内の人事に関する事項 (3) 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項 (4) その他病院の運営に関する重要事項・審議の概要の従業者への周知状況 ・審議の概要の従業者への周知状況 資料共有システムにより周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・公表の方法 大学HPにて公表 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有 ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
藤井 靖久	○	医師	病院長/泌尿器科長
新田 浩		歯科医師	首席副病院長（歯科統括）/歯科総合診療科長
宮崎 泰成		医師	副病院長（医療安全）※筆頭/呼吸器内科長/快眠センター長/長寿・健康人生推進科長/長寿・健康人生推進センター長
大野 京子		医師	副病院長（診療・地域連携）/眼科長/医師事務支援センター長
堤 剛		医師	副病院長（働き方改革）/耳鼻咽喉科長
前原 健寿		医師	副病院長（手術・先進医療）/脳神経外科長/神経難病先端医療センター長
前田 茂		歯科医師	副病院長（手術・医歯連携）（歯系）/診療管理部門長/歯科麻酔科長
井桁 洋子		看護師	副病院長（看護・サービス・環境整備）/看護部長
秋葉 泰樹		事務職員	副病院長（経営改善）/事務部長
笹野 哲郎		医師	病院長補佐（診療整備・内科）/循環器内科長
絹笠 祐介		医師	病院長補佐（診療整備・外科）/大腸・肛門外科長/低侵襲医療センター長
永田 将司		薬剤師	病院長補佐（薬剤）/薬剤部長
藍 真澄		医師	病院長補佐（診療報酬）/医療情報部長/保険医療管理部長/臨床研究監視室長

田村 郁		医師	病院長補佐（医療連携・広報）/医療連携支援センター長
小池 竜司		医師	病院長補佐（臨床研究）/ヘルスサイエンスR&Dセンター長
工藤 篤		医師	病院長補佐（安全管理）/医療安全管理部長
具 芳明		医師	病院長補佐（感染）/感染症内科長/感染制御部長
森下 幸治		医師	病院長補佐（救命救急）/救急科長/救命救急センター長
若林 健二		医師	病院長補佐（集中治療）/集中治療部長
植木 穰		医師	病院長補佐（災害）/災害危機管理部長
武内 寛明		その他	病院長補佐（ウイルス制御）
鐘江 康一郎		その他	病院長補佐（医療戦略）
金澤 学		歯科医師	病院長補佐（診療整備）（歯系）/歯科技工部長/先端歯科診療センター長
原田 浩之		歯科医師	病院長補佐（病棟）/口腔外科長
小野 卓史		歯科医師	病院長補佐（災害）（歯系）/矯正歯科副科長
戸原 玄		歯科医師	病院長補佐（教育・地域連携）（歯系）/摂食嚥下リハビリテーション科長
笛木 賢治		歯科医師	口腔機能系診療領域長
森 毅彦		医師	血液内科長
保田 晋助		医師	膠原病・リウマチ内科長
山田 哲也		医師	糖尿病・内分泌・代謝内科長
蘇原 映誠		医師	腎臓内科長
橋本 正良		医師	総合診療科長
岡本 隆一		医師	消化器内科長/難病診療部長
浜本 康夫		医師	臨床腫瘍科長/がん先端治療部長
佐藤 信吾		医師	緩和ケア科長
池田 貞勝		医師	がんゲノム診療科長
吉田 雅幸		医師	遺伝子診療科長
藤原 尚志		医師	食道外科長
徳永 正則		医師	胃外科長
有賀 智之		医師	乳腺外科長
岡本 健太郎		医師	小児外科長
工藤 敏文		医師	末梢血管外科長
伴 大輔		医師	肝胆膵外科長
藤田 知之		医師	心臓血管外科長/移植医療部長
大久保 憲一		医師	呼吸器外科長
朝蔭 孝宏		医師	頭頸部外科長
大橋 健一		医師	病理診断科長/病理部長
沖山 奈緒子		医師	皮膚科長
森 弘樹		医師	形成・美容外科長
田中 顕太郎		医師	再建形成外科長
吉井 俊貴		医師	整形外科長
古賀 英之		医師	運動器外科長
酒井 朋子		医師	リハビリテーション科長/リハビリテーション部長
高木 正稔		医師	小児科長

宮坂 尚幸		医師	周産・女性診療科長/周産期母子医療センター長
三澤 園子		医師	脳神経内科長
壽美田 一貴		医師	血管内治療科長
高橋 英彦		医師	精神科長
竹内 崇		医師	心身医療科長/メンタルヘルス・リエゾンセンター長
内田 篤治郎		医師	麻酔・蘇生・ペインクリニック科長/手術部長
吉村 亮一		医師	放射線治療科長
立石 宇貴秀		医師	放射線診断科長/放射線部長
大塚 和朗		医師	光学医療診療部長
柳下 和慶		医師	高気圧治療部長/スポーツ医歯学診療センター長
森山 啓司		歯科医師	矯正歯科長
岩本 勉		歯科医師	小児歯科長
島田 康史		歯科医師	むし歯科長
岩田 隆紀		歯科医師	歯周病科長
丸川 恵理子		歯科医師	口腔インプラント科長
豊福 明		歯科医師	歯科心身医療科長
三浦 雅彦		歯科医師	歯科放射線科長
竹内 康雄		歯科医師	口腔健康管理科長
八幡 祥生		歯科医師	むし歯科副科長
駒田 亘		歯科医師	義歯科副科長
中川 量晴		歯科医師	摂食嚥下リハビリテーション科副科長
加持 秀明		歯科医師	口腔外科副科長
渡邊 裕		歯科医師	歯科口腔外科副科長
叶内 匡		医師	検査部長
久保田 英雄		医師	材料部長
内藤 省太郎		医師	血液浄化療法部長
倉島 直樹		臨床工学技士	MEセンター長
宮崎 晋介		医師	不整脈センター長
川田 研郎		医師	臨床栄養部長
関矢 一郎		医師	輸血・細胞治療センター長
足達 淑子		歯科衛生士	歯科衛生保健部長
松尾 浩一郎		歯科医師	オーラルヘルスセンター長
石川 智則		医師	リプロダクションセンター長
岡田 英理子		医師	総合教育研修センター長
伏見 清秀		医師	クオリティ・マネジメント・センター長
山内 慎一		医師	ベッドコントロールセンター長
岡田 卓也		医師	国際医療部長
石黒 めぐみ		医師	臨床研究中核病院設置準備室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
大学HPにて公表
- ・ 規程の主な内容
病院長は、次の権限を有する。
 - ・ 副病院長、病院長補佐、第6条に規定する各組織の長及び病院長が別に定める細則（以下「細則」という。）に規定する組織の長の任命及び解任に関する事。ただし、看護部及び国立大学法人東京科学大学医療職員の役職に関する要項（令和6年制定）に基づき役職が付されている医療職員の任命及び解任に関する事は除く。
 - ・ 病院予算の執行に関する事。
 - ・ 病院における診療許可に関する事。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長を若干名置き、病院長の職務を補佐し、本院の管理運営等に関する企画・立案に関わるとともに、病院の教育・研究及び診療に係る職務を分担する。各副病院長が分担する職務については病院長が定める。

病院長補佐を若干名置き、次の職務の企画立案等を検討し、提言する。

- (1) 教育・研修に関する事。
- (2) 研究・診療に関する事。
- (3) 組織・管理運営・経営に関する事。
- (4) 地域医療・企画広報・危機管理に関する事。
- (5) 環境整備・医療サービスに関する事。

事務部に経営企画課を置き、理事、病院長、副病院長、看護部長、事務部長、事務スタッフで構成された企画戦略会議を実施し、病院の将来構想および経営戦略に関する事を審議することにより、管理者をサポートしている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立大学病院長会議による、病院長のリーダーシップ及び病院長を支えるサポート体制の強化等、病院執行部のガバナンス強化を目的とした「病院長塾」、「病院経営次世代リーダー養成塾」に病院長、副病院長等が参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。また、監査委員会は、理事長及び病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を述べる。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 有 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ 有 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ 有 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法：公表の方法：本学及び本院のＨＰに掲載。					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中島 勸	虎の門病院 医療安全部 部長	○	虎の門病院医療安全部長として、医療安全に対し豊富な経験と知識を有している。	無	1
児玉 安司	新星総合法律事務所 弁護士 国立がん研究センター 理事 医師		医療安全の問題に取り組むなど、医学及び法学の立場から幅広い視野視点を有し、医療安全に関し精通している。	無	1
豊田 郁子	NPO 法人 架け橋 理事長		患者・家族と医療をつなぐ NPO 法人架け橋理事長として、患者・家族と医療従事者のより良い関係の促進やコミュニケーションに関する豊富な知見を有している。	無	2
岡田 就将	本学政策科学分野 教授		日本における保険医療政策に対し豊富な経験と	有	3

	本学寄附講座 東京都地域医療政策学講座 寄附講座教授		知識を有している。		
--	----------------------------------	--	-----------	--	--

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

内部統制を担当する理事を室長とする「監査室」を設置し、公正かつ独立の立場をもって病院管理者等を含む大学業務活動全般の合法性等を検討及び評価を行うための内部監査を実施している。また、「監事」は、病院管理者等を含む法人等の業務が、法令等に従って適正に実施されているかどうか等について監査している。

・ 専門部署の設置の有無（ 有 ）

・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）

・ 公表の方法：大学HPに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 大学の役員会で病院の予算執行状況等管理運営に関する重要事項を審議することとする。 ・ 会議体の実施状況（ 年 24 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（年 3 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学HPにて公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
大竹 尚登	理事長	○	有
田中 雄二郎	学長		有
井村 順一	理事（総合戦略担当）		有
井上 光太郎	理事（財務担当）		有
内田 信一	理事（医療担当）		有
山田 素子	理事（インフラ・事務総括担当） 理事・副学長（安全担当）		有
若林 則幸	理事・副学長（教育担当）		有
波多野 睦子	理事・副学長（研究・産学官連携担当）		有
森尾 友宏	理事・副学長（国際担当）		有
山本 佳世子	理事（社会連携担当）（非常勤）		無
今戸 智恵	理事（法務担当）（非常勤）		無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ） ・ 通報件数（年 1 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ） ・ 周知の方法：一斉メール、ホームページ、病院スタッフマニュアル

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 当院では、パンフレットやホームページにより、病院の理念、目標、案内、各診療科等の治療内容及び統計データについて触れ、より多くの方々に情報発信を行っている。 また、広報誌オアシス及び市民公開講座を定期的に作成、開催するなどして、当院の果たす役割を伝えている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 1. アレルギー疾患先端治療センター 内科・小児科・皮膚科・耳鼻科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患の治療を行う。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することが可能。 2. 稀少疾患先端医療センター 様々な臓器に症状がおこる稀少難病に対して、その稀少難病毎に、内科・小児科・外科・耳鼻科・皮膚科等の複数の診療科の専門医が横断的に密接に協力して診療を行うことにより、全人的医療の提供が可能となる。 3. がん先端治療部 がん治療の進歩は目覚ましく、仕事をしながら治療を継続する長期生存患者が増えており、こうした患者を支援していくための横断的な診療・支援部門を設置することにより、患者・家族に対する支援を適切かつ迅速に提供することができる。	

4. オーラルヘルスセンター

入院中の口の健康増進を支援するため、口腔外科、歯周病、老年歯科、歯科麻酔、障害歯科等の専門医と歯科衛生士で構成され、病院横断的に多くの診療科や看護部などと連携して口腔ケアの推進に取り組んでいる。

5. 移植医療部

2025年1月に設立された移植医療部は、「提供部門」と「移植部門」の2つで構成され、臓器移植に関わる医療を包括的に担っています。

提供部門では、救急科やドナーコーディネーターが中心となり、脳死判定の適正な実施と臓器提供の質の向上を目指して患者さんの管理を行います。また、全国の院内ドナーコーディネーターへの教育支援も行っています。

移植部門は現在心臓移植に特化しており、移植を待つ患者さんの治療・管理、移植後の免疫抑制剤の調整や生活支援を通じて、安心して日常生活を送れるようサポートしている。移植実施時には院内の調整役として、多職種と連携し、安全で円滑な移植医療を支えている。